

中央公論美術出版 図書目録2026年度版

目 次

著作集・叢書	1
芸術選書	17
日本・東洋美術史	19
近代日本美術史	42
西洋美術史	50
日本・東洋建築史	69
西洋建築史	85
考古・歴史	104
近代デザイン	107
美術評論・随想・文芸・画集ほか	108
オンデマンド版【美術資料叢書】	110
書名索引	117
著・訳・編者名索引	121
品切書目	125

ご利用にあたって

- この目録には2026年5月現在での中央公論美術出版発行の全出版図書を収録しました。
- 目録の編成は諸分野に整理し、著者名五十音順に配列しました。
- 一書目一ヶ所掲載を原則としました。
- 巻末に書名索引、著・訳・編者名索引、品切書目を付しました。
- 各書目にはそれぞれについての内容見本がございます。別途ご請求下さい。
- 価格は定価（10%税込）を表記しました。
- ご注文にあたっての詳細は巻末をご覧ください。
- 今後とも新刊につきましては、『MUSEUM』（東京国立博物館）に毎号予告いたします。
- 小社の最新の出版活動につきましては、ホームページ（<https://www.chukobi.co.jp>）にてご案内いたしております。

著作集・叢書

稲垣栄三著作集〔全7巻〕

戦後、日本住宅史、近代建築史、茶室史、神社史、都市史、建築保存などの分野で、広い視野から解決すべき多くの課題を指摘し、先駆的かつ包括的な業績を遺した稲垣栄三（東京大学名誉教授）の所論を集成し、その全仕事を通覧する。

〔第1巻〕神社建築史研究Ⅰ

定価 14,300円（税込）

ISBN978-4-8055-1483-2

藤井恵介 編

A5判上製函入 本文464頁 挿図262点 1998年2月

〔第2巻〕神社建築史研究Ⅱ

定価 18,700円（税込）

ISBN978-4-8055-1484-9

藤井恵介 編

A5判上製函入 本文432頁 挿図271点 1998年2月

〔第3巻〕住宅・都市史研究

定価 16,500円（税込）

ISBN978-4-8055-1485-6

伊藤 毅 編

A5判上製函入 本文420頁 挿図55点 1998年2月

〔第4巻〕茶室・数寄屋建築研究

定価 13,200円（税込）

ISBN978-4-8055-1486-3

福田晴虔 編

A5判上製函入 本文400頁 挿図174点 1998年2月

〔第5巻〕日本の近代建築 その成立過程

品切

鈴木博之 編

A5判上製函入 本文384頁 挿図164点

〔第6巻〕近代建築史研究

定価 16,500円（税込）

ISBN978-4-8055-1488-7

鈴木博之 編

A5判上製函入 本文416頁 挿図85点 1998年2月

〔第7巻〕歴史的環境保存論

品切

陣内秀信 編

A5判上製函入 本文464頁 挿図25点

今井兼次著作集

エストベリ、ガウディ、シュタイナーなど、ヒューマンで精神的な理念の作家、建築家の先駆的な発見者、愛と祈りの建築家、『建築とヒューマニティ』の著者でもある今井兼次の建築創造と著述を集成。

作家論Ⅰ 私の建築遍歴

A5判上製函入 本文328頁 1993年5月

定価 9,292 円 (税込)

ISBN978-4-8055-1439-9

作家論Ⅱ 芸術家の倫理

A5判上製函入 本文324頁 1994年1月

定価 9,292 円 (税込)

ISBN978-4-8055-1440-5

関口欣也著作集〔全3巻〕

建築史研究の泰斗、関口博士が、中国大陸、特に江南地方の建築を実地にて調査し、石塔や磚塔、壁面に残る木造建築を模した構造も考察の対象とし、さらに視点を広げて東アジアの建築様式が朝鮮半島を通じ、どのように日本建築の様式・技法の淵源に影響を与えてきたのかを論じた力作。

〔第1巻〕中世禅宗様建築の研究

A5判上製函入 本文456頁 2010年9月

定価 18,700 円 (税込)

ISBN978-4-8055-0640-0

〔第2巻〕江南禅院の源流、高麗の発展

A5判上製函入 本文432頁 2012年2月

定価 18,700 円 (税込)

ISBN978-4-8055-0641-7

〔第3巻〕五山と禅院

A5判上製函入 本文310頁 2016年4月

定価 14,300 円 (税込)

ISBN978-4-8055-0642-4

福井利吉郎美術史論集〔全3巻〕

セット定価 113,300 円 (税込)

セットコード ISBN978-4-8055-1470-2

東北帝国大学教授であった氏は、日本美術史学草創期から戦後まで活躍した傑出する美術史学者であった。現在入手が困難な日本古代から近世にわたる絵画、彫刻、建築の論攷の多くが定説となっているので、基本文献として各分野の研究者はこれを避けては通れない。その学問の全容を提示する。

〔上巻〕総説・古代仏教美術

B5判上製函入 本文440頁 挿図78点 1998年2月

定価 30,800 円 (税込)

ISBN978-4-8055-1471-9

〔中巻〕絵巻・水墨画

B5判上製函入 本文590頁 挿図60点 1999年2月

定価 33,000 円 (税込)

ISBN978-4-8055-1472-6

〔下巻〕近世美術・講義録

B5判上製函入 本文822頁 挿図80点 2000年2月

定価 49,500 円 (税込)

ISBN978-4-8055-1473-3

山根有三著作集〔全7巻〕

永く東京大学にあって、幾多の美術史研究者を輩出させた教育者であると共に、中世・近世絵画史研究に大きな業績を遺す日本美術史学の泰斗、山根有三氏の主要論文を系統的に編纂し、網羅したはじめての著作集。50年に及ぶ研究成果の道のりを跡づけ、日本絵画史研究に大きな指標を示す集大成。

〔第1巻〕宗達研究一

A5判上製函入 本文380頁 挿図146点 1994年6月

定価8,800円(税込)

ISBN978-4-8055-1447-4

〔第2巻〕宗達研究二

A5判上製函入 本文354頁 挿図151点

品切

〔第3巻〕光琳研究一

A5判上製函入 本文384頁 挿図136点 1995年5月

定価8,800円(税込)

ISBN978-4-8055-1449-8

〔第4巻〕光琳研究二

A5判上製函入 本文404頁 挿図130点

品切

〔第5巻〕障屏画研究

A5判上製函入 本文386頁 挿図122点 1998年3月

定価10,450円(税込)

ISBN978-4-8055-1451-1

〔第6巻〕桃山絵画研究

A5判上製函入 本文540頁 挿図126点

品切

〔第7巻〕花道史研究

A5判上製函入 本文428頁 挿図121点 1994年6月

定価9,460円(税込)

ISBN978-4-8055-1453-5

足立康著作集〔全3巻〕

太田博太郎 編修・解説

昭和の初期に法隆寺論争、薬師寺問題をはじめ、美術史・国史・考古学を巻き込み日本建築史上、かつてない黄金時代を招来した希代の論客、足立康の俊敏な史料批判と論鋒を集成した研究・文献である。

〔第1巻〕古代建築の研究〔上〕

A5判上製函入 本文404頁 挿図39点 1986年9月

定価9,680円(税込)

ISBN978-4-8055-1411-5

〔第2巻〕古代建築の研究〔下〕

A5判上製函入 本文448頁 挿図39点 1987年6月

定価12,100円(税込)

ISBN978-4-8055-1412-2

〔第3巻〕塔婆建築の研究

A5判上製函入 本文386頁 挿図68点 1987年12月

品切

藤井恵介著作集〔全3巻〕

日本建築史研究において大きな業績を残す斯界の泰斗、藤井恵介東京大学名誉教授の主要論文を系統的に編纂、網羅した初の著作集。50年に及ぶ日本建築史研究に大きな指標を示す集大成、堂々の刊行。

〔第1巻〕日本建築史の方法

定価 17,600円（税込）

ISBN978-4-8055-1154-1

A5判上製函入 本文520頁 2024年3月

仏教建築史を中心に日本建築史を専門とし、全国各地の建造物の修復・保存にも携わる著者の研究のなかから、第一巻では研究方法の開拓に関わる論考を収録。研究方法そのものを直接のテーマにした論考、建築の存在理由、移築、建築史料としての絵画、建築の色彩、建築指図など、具体的な建築や事象を交えつつ、総体としての建築を問う。

〔第2巻〕日本建築史の技法と様式

定価 19,800円（税込）

ISBN978-4-8055-1155-8

A5判上製函入 本文544頁 2025年11月

日本建築史の技法と様式をテーマに、日本建築史の泰斗・藤井恵介の主要論考を精選。第一部では「日本建築のレトリック—組物を見る」をはじめ、平等院鳳凰堂や神社建築を例に、建物の「かたち」と様式の意味を探る。第二部では中国・韓国との比較から東アジア建築の広がりを論じ、第三部では近代建築史学を拓いた関野貞の業績を検証。第四部では太田博太郎や稲垣栄三ら先学の研究を振り返り、建築史学の歩みを展望する。美的な魅力を超えて建築の形式や技法の意義を考える本書は、日本建築文化の奥行きを知る格好の案内役となる一冊。

〔第3巻〕日本建築史の叙述

定価 22,000円（税込）

ISBN978-4-8055-1156-5

A5判上製函入 本文664頁 2026年3月

「日本建築史の叙述」を主題に、日本建築史の泰斗・藤井恵介の主要論考を精選した一冊。第一部では「日本中世建築史」の通史概説を取め、第二部では「中世本堂概説」をはじめ、醍醐寺・西大寺を中心に寺院建築の変遷を論じる。第三部では、建築保存をめぐる、建築の寿命や復原に関する多彩な論点を提示し、第四部では、著者が長く教鞭を執った東京大学キャンパスの建築史を考察する。建築史の枠組みそのものを捉え直す本書は、日本建築史をいかに語るかという問いを多角的に提起し、日本文化の再考を促す。

アジア仏教美術論集〔全12巻〕

宮治 昭・肥田路美・板倉聖哲 監修

インドに興った仏教がアジアに広く伝播し、受容され、展開を遂げる大きな推進力となった仏教美術。その様相と特色を、思想や信仰、社会や政治、他地域や他宗教との関わりから読み解き、現在のアジア仏教美術研究の到達点を提示する新シリーズ全12巻。 **【パジュ・ブック・アワード企画賞受賞】**

仏教美術の始原へ

南アジアⅠ（マウリヤ朝～グプタ朝）

定価6,380円（税込）

ISBN978-4-8055-1125-1

宮治 昭・福山泰子 責任編集

A5判上製カバー装 本文644頁 2020年3月

ブッダを象徴的に表す初期仏教の時代から、仏像の創始を経て、東西文化との混淆のなかで大きく花開いた南アジアの仏教美術。日本・欧米における研究の到達点を明示する19本の論考＋総論による、豊穡なる古代インド仏教世界への招待。

成熟と衰退、そしてアジア全域へ

南アジアⅡ（ポスト・グプタ朝～パーラ朝）

定価6,380円（税込）

ISBN978-4-8055-1126-8

立川武蔵・森 雅秀 責任編集

A5判上製カバー装 本文644頁 2021年3月

中世以降のインド仏教美術の全体像を、ヒンドゥー教やジャイナ教など他の宗教美術や信仰、儀礼、歴史といった隣接分野、さらにはアジア全域を視野に入れて論じる20篇。

文化交流のダイナミズム

中央アジアⅠ（ガンダーラ～東西トルキスタン）

品切

宮治 昭 責任編集

A5判上製カバー装 本文600頁 2017年2月

チベット美術研究の最前線

中央アジアⅡ（チベット）

定価6,380円（税込）

ISBN978-4-8055-1128-2

森 雅秀 責任編集

A5判上製カバー装 本文576頁 2018年1月

通時的かつ多角的観点から、チベット仏教美術の豊穡な諸相を考究する論考17篇を収録。

海と川が育んだ多様な文化

東南アジア

定価6,380円（税込）

ISBN978-4-8055-1129-9

肥塚 隆 責任編集

A5判上製カバー装 本文636頁 2019年2月

わが国で初めての東南アジアの仏教美術に関する論文集。美術史・建築史のみならず、歴史、宗教、刻文、考古など幅広い専門分野の研究者による18篇を収録。

中国仏教美術の開花

東アジアⅠ（後漢・三国・南北朝）

定価 6,380 円（税込）

ISBN978-4-8055-1130-5

濱田瑞美 責任編集

A5判上製カバー装 本文592頁 2017年5月

インドに興った仏教はどのように受容されたのか。多様な「仏のかたち」を浮かび上がらせる18篇。

東アジア美術の古典

東アジアⅡ（隋・唐）

定価 6,380 円（税込）

ISBN978-4-8055-1131-2

肥田路美 責任編集

A5判上製カバー装 本文636頁 2019年3月

後世に至る模範ともいうべき様式を創出した隋唐時代。統一王朝の動向と密接に絡み合い、反動と復興を経ながら展開された、中国仏教盛期の美術を浮かび上がらせる18篇の論考。

東アジア美術の「転換期」

東アジアⅢ（五代・北宋・遼・西夏）

定価 6,380 円（税込）

ISBN978-4-8055-1132-9

板倉聖哲・塚本磨充 責任編集

A5判上製カバー装 本文712頁 2021年2月

唐から宋へー。中国における仏教文化が大きな進展を遂げた、東アジア美術の「転換期」といえるこの時代を、遼・西夏も視野に含めて総合的に読み解く最新の論考17篇＋総論を収録。

東アジア美術を俯瞰する

東アジアⅣ（南宋・大理・金）

定価 6,380 円（税込）

ISBN978-4-8055-1133-6

板倉聖哲 責任編集

A5判上製カバー装 本文696頁 2020年12月

日本にある中国美術の中でも憧憬であり続けた南宋時代、近年、急速に研究が進む大理・金。本書収録19篇の論考を通じて、仏教文物を生み出す時代の総体的な枠組みが新たな視点で描き出される。

東アジア美術の「多元性」

東アジアⅤ（元・明・清）

定価 6,380 円（税込）

ISBN978-4-8055-1134-3

宮崎法子・森 雅秀 責任編集

A5判上製カバー装 本文704頁 2022年3月

元代から清代に至る諸王朝下の仏教美術の諸相を、新たに問い直す論考16篇＋総論を集録。

東アジア美術交流の結節点

東アジアⅥ（朝鮮半島）

定価 6,380 円（税込）

ISBN978-4-8055-1135-0

井手誠之輔・朴 亨國 責任編集

A5判上製カバー装 本文584頁 2018年5月

隣国で育まれた豊かな信仰の造形から、東アジアの文化交流の様相を明らかにする日韓研究者の論考17篇。

多様なアジア、そして日本

東アジアⅦ（アジアの中の日本）

定価 6,820 円（税込）

ISBN978-4-8055-1136-7

宮治 昭・肥田路美・板倉聖哲 責任編集

A5判上製カバー装 本文696頁 2023年12月

本書集録の論考17篇＋総論を通じて、日本の仏教美術をアジア諸地域に併置して相対化する。

日本建築史基礎資料集成

太田博太郎 監修

国宝および重要文化財に指定された重要建造物を中心に、その様式を代表する300棟に関する永年の調査・研究の資料を統合、整理した基礎資料集成。各巻は写真、解説、図面の三部から成り、平均15棟の建造物と全般的な概説を収載する。建造物の特徴を示す重要な写真、実測図面を平均120枚も収め、歴史的・実地的な資料集として完全を期するものである。

〔第1巻〕社殿Ⅰ

定価 26,400円 (税込)

ISBN978-4-8055-1101-5

稲垣栄三 編

B4判上製函入 □絵66頁 図面66頁 解説140頁 1998年6月

伊勢神宮、出雲大社、神魂神社、仁科神明宮、住吉大社、春日大社、圓成寺春日堂白山堂、宇佐神宮、日吉大社東本宮、御上神社、吉備津神社、八坂神社

〔第2巻〕社殿Ⅱ

定価 24,200円 (税込)

ISBN978-4-8055-1102-2

稲垣栄三 編

B4判上製函入 □絵80頁 図面72頁 解説68頁 1972年6月

賀茂別雷神社、賀茂御祖神社、宇治上神社、神谷神社、苗村神社、志那神社、園城寺新羅善神堂、天皇神社、石上神宮、醍醐寺清滝宮、厳島神社・摂社客人神社

〔第3巻〕社殿Ⅲ

定価 24,200円 (税込)

ISBN978-4-8055-1103-9

大河直躬 編

B4判上製函入 □絵82頁 図面87頁 解説96頁 1981年8月

宇太水分神社、錦織神社、住吉神社、大笹原神社、長野神社、都久夫須麻神社、吉野水分神社、大崎八幡神社、東照宮本殿・水屋・神廐・神楽殿、輪王寺大猷院靈廟

〔第4巻〕仏堂Ⅰ

定価 30,800円 (税込)

ISBN978-4-8055-1104-6

澤村 仁 編

B4判上製函入 □絵76頁 図面86頁 解説162頁 1981年1月／2006年11月復刊

法隆寺金堂・大講堂・東院夢殿・東院伝法堂・食堂及び細殿・西門堂、東大寺法華堂、新薬師寺本堂、興福寺北門堂・東金堂、薬師寺東院堂、唐招提寺金堂・講堂、秋篠寺本堂、栄山寺八角堂

〔第5巻〕仏堂Ⅱ

定価 28,600円 (税込)

ISBN978-4-8055-1105-3

澤村 仁 編

B4判上製函入 □絵80頁 図面92頁 解説104頁 2006年11月

平等院鳳凰堂、醍醐寺薬師堂、法界寺阿弥陀堂、蓮華王院本堂（三十三間堂）、淨瑠璃寺本堂（九体寺本堂）、室生寺金堂、當麻寺本堂（曼荼羅堂）、中尊寺金堂、阿弥陀堂（白水阿弥陀堂）、石山寺本堂、鶴林寺太子堂、三仏寺奥院（投入堂）、豊楽寺薬師堂、富貴寺大堂

〔第7巻〕仏堂Ⅳ

品切

関口欣也 編

B4判上製函入 □絵94頁 図面82頁 解説116頁

〔第11卷〕塔婆Ⅰ

工藤圭章 編

B4判上製函入 口絵66頁 図面44頁 解説108頁 1984年7月／2008年4月復刊

法隆寺五重塔、海竜王寺五重小塔、元興寺極楽坊五重小塔、室生寺五重塔、醍醐寺五重塔、海住山寺五重塔、明王院五重塔、羽黒山五重塔、瑠璃光寺五重塔、興福寺五重塔、教王護国寺五重塔、法起寺五重塔、薬師寺東塔、当麻寺東塔・西塔

定価 30,800円 (税込)

ISBN978-4-8055-1111-4

〔第12卷〕塔婆Ⅱ

濱島正士 編

B4判上製函入 口絵62頁 図面83頁 解説126頁 1999年11月

一乗寺三重塔、浄瑠璃寺三重塔、興福寺三重塔、明通寺三重塔、西明寺三重塔、大法寺三重塔、安楽寺八角三重塔、常楽寺三重塔、向上寺三重塔、談山神社十三重塔、石山寺多宝塔、金剛三昧院多宝塔、慈眼院多宝塔、浄土寺多宝塔、長保寺多宝塔、根来寺多宝塔 (大塔)

定価 26,400円 (税込)

ISBN978-4-8055-1112-1

〔第14卷〕城郭Ⅰ

平井 聖 編

B4判上製函入 口絵72頁 図面102頁 解説78頁

品切

〔第15卷〕城郭Ⅱ

平井 聖 編

B4判上製函入 口絵48頁 図面113頁 解説58頁

品切

〔第16卷〕書院Ⅰ

川上 貢 編

B4判上製函入 口絵88頁 図面76頁 解説78頁

品切

〔第17卷〕書院Ⅱ

平井 聖 編

B4判上製函入 口絵78頁 図面78頁 解説80頁

品切

〔第20卷〕茶室

中村昌生 編

B4判上製カバー装 口絵78頁 図面75頁 解説112頁 1974年4月／2005年5月復刊

妙喜庵待庵、如庵、竜光院密庵席、高台寺傘亭・時雨亭・西芳寺湘南亭、春草蘆、浄土寺露滴庵、金地院八窓席、狐篷庵忘筌・山雲床、水無瀬神宮灯心亭、旧一条恵観山荘茶屋、真珠庵通徳院庭玉軒、西翁院観看席、聚光院閑隠席付桝床席、玉林院衰庵・霞床席、仁和寺遼廓亭・飛濤亭

定価 24,200円 (税込)

ISBN978-4-8055-1120-6

〔第21卷〕民家

大河直躬 編

B4判上製カバー装 口絵80頁 図面68頁 解説94頁 1976年4月／2005年5月復刊

旧工藤家、旧渋谷家、旧佐藤家、旧作田家、旧伊藤家、旧広瀬家、旧山田家、曾根原家、坪川家、旧大戸家、石田家、吉村家、古井家、堀江家、旧恵利家、旧椎葉家、旧生方家、旧三沢家、大角家、今西家、木原家

定価 24,200円 (税込)

ISBN978-4-8055-1121-3

日本彫刻史基礎資料集成 鎌倉時代 造像銘記篇

実地調査に基づいた精確な解説と多様な図版によって、日本彫刻史研究において基本文献となっている『日本彫刻史基礎資料集成 鎌倉時代造像銘記篇』第一期・第二期全16巻完結！ 制作年時を特定できる鎌倉時代の作品486件1721体の十分な基礎データと多様な写真を可能な限り掲載。

〔第一期・全8巻〕 文治2年（1186）から康元元年（1256）までの241件を掲載。

水野敬三郎・井上 正・西川杏太郎・田邊三郎助・副島弘道・山本 勉・根立研介 編

第1巻

定価 36,300円（税込）

ISBN978-4-8055-1021-6

阿弥陀如来像、不動明王及び二童子像、毘沙門天像 静岡・願成就院 他全30件

A4判上製函入 2分冊（図版篇200頁／解説篇298頁） 2003年4月

第2巻

定価 36,300円（税込）

ISBN978-4-8055-1022-3

不動明王像 京都・醍醐寺／金剛力士像 奈良・東大寺 他全37件

A4判上製函入 2分冊（図版篇258頁／解説篇392頁） 2004年1月

第3巻

定価 36,300円（税込）

ISBN978-4-8055-1023-0

竜灯鬼像、天灯鬼像 奈良・興福寺／不空罽索観音菩薩像 福岡・観世音寺 他全36件

A4判上製函入 2分冊（図版篇266頁／解説篇230頁） 2005年4月

第4巻

定価 36,300円（税込）

ISBN978-4-8055-1024-7

蔵王権現像 奈良・如意輪寺／地藏菩薩像 アメリカ・アジアソサエティー 他全31件

A4判上製函入 2分冊（図版篇260頁／解説篇246頁） 2006年2月

第5巻

定価 36,300円（税込）

ISBN978-4-8055-1025-4

地藏菩薩像 静岡・MOA美術館／馬頭観音菩薩像 京都・浄瑠璃寺 他全33件

A4判上製函入 2分冊（図版篇214頁／解説篇278頁） 2007年2月

第6巻

定価 36,300円（税込）

ISBN978-4-8055-1026-1

十一面観音菩薩像 兵庫・中山寺／愛染明王像 奈良・西大寺 他全30件

A4判上製函入 2分冊（図版篇234頁／解説篇246頁） 2008年2月

第7巻

定価 36,300円（税込）

ISBN978-4-8055-1027-8

弘法大師像 京都・六波羅蜜寺／玉依姫像 奈良・吉野水分神社 他全31件

A4判上製函入 2分冊（図版篇266頁／解説篇230頁） 2009年2月

第8巻

定価 44,000円（税込）

ISBN978-4-8055-1028-5

中尊、千体千手観音菩薩像876体 京都・妙法院／大威徳明王像 神奈川・光明院 他補遺篇12件

A4判上製函入 3分冊（図版篇204頁／解説篇202頁／補遺篇182頁） 2010年3月

〔第二期・全8巻〕 正嘉元年（1257）から正安2年（1300）までの213件と補遺32件を掲載。

水野敬三郎・西川杏太郎・田邊三郎助・副島弘道・山本 勉・根立研介・武笠 朗・
岩田茂樹・奥 健夫 編

第9巻

定価 36,300円（税込）

ISBN978-4-8055-1031-5

不動明王像 千葉・長徳寺／十二神将像 愛知・浄土寺 他全34件

A4判上製函入 2分冊（図版篇254頁／解説篇274頁） 2013年2月

第10巻

定価 36,300円（税込）

ISBN978-4-8055-1032-2

四天王眷属像 東京国立博物館他／弁才天像 神奈川・鶴岡八幡宮 他全24件

A4判上製函入 2分冊（図版篇240頁／解説篇216頁） 2014年2月

第11巻

定価 36,300円（税込）

ISBN978-4-8055-1033-9

十一面観音菩薩像 大阪・摩尼院／文殊菩薩及び侍者像 東京国立博物館他 他全30件

A4判上製函入 2分冊（図版篇288頁／解説篇226頁） 2015年2月

第12巻

定価 36,300円（税込）

ISBN978-4-8055-1034-6

阿弥陀如来及び両脇侍像 広島・安国寺／四天王像 奈良・薬師寺 他全30件

A4判上製函入 2分冊（図版篇270頁／解説篇212頁） 2016年3月

第13巻

定価 36,300円（税込）

ISBN978-4-8055-1035-3

阿弥陀如来像 兵庫・寿福寺／叡尊像 奈良・西大寺 他全28件

A4判上製函入 2分冊（図版篇270頁／解説篇212頁） 2017年3月

第14巻

定価 36,300円（税込）

ISBN978-4-8055-1036-0

日蓮聖人像 東京・本門寺／四天王像 奈良・薬師寺 他全28件

A4判上製函入 2分冊（図版篇220頁／解説篇168頁） 2018年3月

第15巻

定価 36,300円（税込）

ISBN978-4-8055-1037-7

聖徳太子像 米・ハーバード大学美術館／聖徳太子像 兵庫・善福寺 他全30件

A4判上製函入 2分冊（図版篇220頁／解説篇184頁） 2019年3月

第16巻

定価 36,300円（税込）

ISBN978-4-8055-1038-4

円鑑禅師像 佐賀・高城寺 他全9件／不動明王像、降三世明王像 大阪・天野山金剛寺 他補遺全30件

A4判上製函入 2分冊（図版篇340頁／解説篇324頁） 2020年3月

日本彫刻史基礎資料集成 鎌倉時代造像銘記篇 第16巻別冊

第一期・第二期（全16巻） 総目録及び作品年代順一覧

非売品

第二期完結にあたり、第一期・第二期（全16巻）の各巻に収録した486件の作品の総目録と年代順一覧を作成。PDF版を弊社HP（<https://www.chukobi.co.jp>）にても公開中。

〔第三期・全8巻〕 正安3年(1301)から元弘3年(正慶2年、1333)までの作品を掲載予定。

水野敬三郎・田邊三郎助・副島弘道・山本 勉・根立研介・武笠 朗・岩田茂樹・奥 健夫・
皿井 舞・井上大樹・山口隆介・編

第17巻

定価41,800円(税込)

ISBN978-4-8055-1041-4

持国天・多聞天像 鳥取・青龍寺／文殊菩薩及び脇侍像 奈良・西大寺 他全31件

A4判上製函入 2分冊(図版篇200頁／解説篇244頁) 2025年3月

第18巻

定価41,800円(税込)

ISBN978-4-8055-1042-1

釈迦如来及び両脇侍像 兵庫・瑠璃寺／聖徳太子像 奈良・法隆寺 他全27件

A4判上製函入 2分冊(図版篇232頁／解説篇192頁) 2026年3月

バウハウス叢書〔新装版全14巻〕 新装版セット定価43,890円(税込)

20世紀初頭に生まれた美術・建築・工芸・デザイン・映画・写真等の新しい造形やその理論を多面的に取り扱った貴重な叢書を、初版本の趣を造本、装丁にいたるまでそのままに復刻した日本語版。

1 国際建築

定価3,080円(税込)

ISBN978-4-8055-1051-3

ヴァルター・グロピウス 著 ^{さだかね} 貞包博幸 訳

B5判変形 カバー装 本文128頁 2020年7月

建築はつねに国民的なものであり、と同時に個人的なものである。人類の輪が個人、民族の二つを包含する。このような国際建築の概念規定のもとに、新しい建築精神を見い出す。

2 教育スケッチブック

定価1,980円(税込)

ISBN978-4-8055-1052-0

パウル・クレー 著 ^{としみつ} 利光 功 訳

B5判変形 カバー装 本文66頁 2019年8月

バウハウスにおける1921、22年度の形態論の講義のエッセンスであり、当時のクレーの創作活動を理解する上でも必須の文献といえる。

3 バウハウスの実験住宅

定価2,420円(税込)

ISBN978-4-8055-1053-7

アドルフ・マイヤー 著 貞包博幸 訳

B5判変形 カバー装 本文94頁 2019年10月

バウハウスの大きな課題の一つである規格住宅の建築方法について国民経済、技術、形式の三つの視点から論じ、これを現代の機械工場生産にふさわしい唯一のものとした。

4 バウハウスの舞台

定価3,080円(税込)

ISBN978-4-8055-1054-4

オスカー・シュレンマー、L・モホリ＝ナギ、ファルカス・モルナール 著

利光 功 訳

B5判変形 カバー装 本文108頁 2020年4月

シュレンマーの舞台芸術論を中心に、モホリ＝ナギの「演劇、サーカス、ヴァラエティー」とモルナールの劇場設計案を収める。バウハウスの舞台工房の活動を知る不可欠の文献。

5 新しい造形（新造形主義）

定価 2,420円（税込）

ISBN978-4-8055-1055-1

ビート・モンドリアン 著 宮島久雄 訳

B5判変形 カバー装 本文84頁 2020年2月

オランダの抽象絵画グループの理念的中心人物ビート・モンドリアンの芸術論集。音楽、舞踊にいたる幅広い芸術論を展開し、バウハウス理念の芸術的側面を支援するものである。

6 新しい造形芸術の基礎概念

定価 2,750円（税込）

ISBN978-4-8055-1056-8

T・v・ドゥースブルフ 著 宮島久雄 訳

B5判変形 カバー装 本文90頁 2020年2月

デ・ステイルグループの中心人物ドゥースブルフの芸術論。抽象絵画に対する一般観衆の無理解、批判に対して、芸術作品一般の原理に基づいて作品の見方を解き明かしている。

7 バウハウス工房の新製品

定価 3,080円（税込）

ISBN978-4-8055-1057-5

ヴァルター・グロピウス 著 宮島久雄 訳

B5判変形 カバー装 本文142頁 2019年10月

バウハウスの工房が活動し始めた1920年代初頭の木材、金属、織物、陶器四工房の公式作品集。巻頭にグロピウスが新しい工房の生産原則となる〈機能主義〉の宣言を掲げる。

8 絵画・写真・映画

定価 3,630円（税込）

ISBN978-4-8055-1058-2

L・モホリ＝ナギ 著 利光 功 訳

B5判変形 カバー装 本文158頁 2020年7月

絵画から映画にいたる視覚造形論で、モホリ＝ナギの発案になるフォトグラムやタイポフォトが論じられており、数多くのその実作例が図版に収録される。

9 点と線から面へ

定価 3,960円（税込）

ISBN978-4-8055-1059-9

W・カンディンスキー 著 宮島久雄 訳

B5判変形 カバー装 本文212頁 2020年4月

抽象絵画の創始者カンディンスキーによるバウハウスでの講義の一部であり、抽象絵画の成立根拠を根本から論じた基礎造形理論として名高い。

10 オランダの建築

定価 2,860円（税込）

ISBN978-4-8055-1060-5

J・J・P・アウト 著 貞包博幸 訳

B5判変形 カバー装 本文102頁 2020年2月

オランダはとりわけデ・ステイル運動の設立に参加したアウトが新しいオランダ建築の本質と目的とについて書いた報告書である。

11 無対象の世界

定価 3,080円（税込）

ISBN978-4-8055-1061-2

カジミール・マレーヴィチ 著 おむか 五十殿利治 訳

B5判変形 カバー装 本文90頁 2020年6月

ロシア・アヴァンギャルドの代表作家マレーヴィチの著作集。その特異な造形思考は本書によりはじめて西欧に伝えられ、抽象絵画の動向に大きな影響を与えた。

12 デッサウのバウハウス建築

定価 4,180円 (税込)

ISBN978-4-8055-1062-9

ヴァルター・グロピウス 著 利光 功 訳

B5判変形 カバー装 本文228頁 2020年7月

グロピウスがデッサウ市で手掛けたバウハウスの校舎、住宅、その他の建物、公共職業安定所の基本構想、図面、建設中と完成後の写真などからなる建築活動報告書。

13 キュービズム

定価 3,080円 (税込)

ISBN978-4-8055-1063-6

アルベール・グレーズ 著 貞包博幸 訳

B5判変形 カバー装 本文124頁 2020年6月

キュービズム運動開始直後の1912年『キュービズム論』を発表したグレーズが再考したキュービズム絵画の理論的解明の書であり、貴重かつ興味ある記録である。

14 材料から建築へ

定価 4,290円 (税込)

ISBN978-4-8055-1064-3

L・モホリ＝ナギ 著 宮島久雄 訳

B5判変形 カバー装 本文258頁 2019年8月

1922年から28年までバウハウスの基礎課程を指揮し、本叢書の斬新なレイアウトをしたモホリ＝ナギがその成果をまとめた。機能主義的、構成主義的な基礎造形の教科書である。

バウハウス叢書別巻 バウハウスとその周辺

利光 功・宮島久雄・貞包博幸 編

20世紀初頭の全ヨーロッパを巻き込んだ芸術運動の息吹を伝えるバウハウス叢書の翻訳完了を機に、バウハウスの果たした真の意義を明らかにするため、両大戦間のドイツの文化全体をとらえて、全2巻にまとめた論文集。

I 美術・デザイン・政治・教育

定価 8,800円 (税込)

ISBN978-4-8055-1460-3

B5判上製カバー装 本文174頁 1996年9月

II 理念・音楽・映画・資料・年表

定価 8,800円 (税込)

ISBN978-4-8055-1461-0

B5判上製カバー装 本文176頁 1999年7月

日本美術年鑑

東京文化財研究所 編

各巻B5判上製カバー装 140～568頁

主要な事件、展覧会、物故者、発表された文献などを記載し、当該年次のわが国美術界の動向を、基本となる資料を収集整理してまとめた昭和11年の刊行以来続く美術年鑑。

平成17年版

定価9,416円(税込)

ISBN978-4-8055-1300-2

[2007年5月]

平成18年版

定価9,900円(税込)

ISBN978-4-8055-1301-9

[2008年3月]

平成19年版

定価9,900円(税込)

ISBN978-4-8055-1302-6

[2009年3月]

平成20年版

定価9,900円(税込)

ISBN978-4-8055-1303-3

[2010年3月]

平成21年版

定価11,000円(税込)

ISBN978-4-8055-1304-0

[2011年3月]

平成22年版

定価11,000円(税込)

ISBN978-4-8055-1305-7

[2012年3月]

平成23年版

定価11,000円(税込)

ISBN978-4-8055-1306-4

[2013年3月]

平成24年版

定価11,000円(税込)

ISBN978-4-8055-1307-1

[2014年3月]

平成25年版

定価11,000円(税込)

ISBN978-4-8055-1308-8

[2015年3月]

平成26年版

定価11,000円(税込)

ISBN978-4-8055-1309-5

[2016年3月]

平成27年版

定価11,000円(税込)

ISBN978-4-8055-1310-1

[2017年3月]

平成28年版

定価11,000円(税込)

ISBN978-4-8055-1311-8

[2018年3月]

平成29年版

定価11,000円(税込)

ISBN978-4-8055-1312-5

[2019年3月]

平成30年版

定価11,000円(税込)

ISBN978-4-8055-1313-2

[2020年3月]

令和元年版

定価11,000円(税込)

ISBN978-4-8055-1314-9

[2021年5月]

令和2年版

定価11,000円(税込)

ISBN978-4-8055-1315-6

[2022年8月]

令和3年版

定価13,200円(税込)

ISBN978-4-8055-1316-3

[2023年10月]

令和4年版

定価4,950円(税込)

ISBN978-4-8055-1317-0

[2025年2月]

令和5年版

定価4,950円(税込)

ISBN978-4-8055-1318-7

[2026年1月]

仏教芸術

各巻定価 3,300円（税込）

仏教芸術学会 編

各巻A4判 100～120頁

日本・中国・インドを対象とした仏教芸術の総合的研究をめざしその世界性と実証性を尊重した仏教美術研究・東洋美術研究における必携のシリーズ、堂々の刊行！ 1948年に創刊され、2017年に350号で休刊となった研究誌『佛教藝術』の伝統を受け継ぎ、仏教をはじめとするアジアの宗教に関わる絵画、彫刻、工芸、建築などの諸芸術および考古学に関する論文、資料紹介、研究ノート等の第一線の研究成果を掲載する学会誌の創刊。[年2回配本]

創刊号

ISBN978-4-8055-2001-7

[2018年10月]

第3号

ISBN978-4-8055-2003-1

[2019年9月]

第5号

ISBN978-4-8055-2005-5

[2020年9月]

第2号

ISBN978-4-8055-2002-4

[2019年3月]

第4号

ISBN978-4-8055-2004-8

[2020年3月]

第6号

ISBN978-4-8055-2006-2

[2021年3月]

第7号

ISBN978-4-8055-2007-9

四川成都出土の天王像の鎧について——下同仁路出土像を中心に——（馬歌陽）／北響堂山石窟南洞の創建当初の内容に関する考察（孫千雅、訳：李梅）／中国河北地方で制作された石造法界仏像について（易丹韵）／青蓮院蔵（絹本着色不動明王二童子画像）の位相（川野憲一）／本法寺蔵《法華経曼荼羅図》の絵師に関する試論（鴈野佳世子） 2021年9月

第8号

ISBN978-4-8055-2008-6

北響堂山石窟北洞に表された弥勒下生の世界（清水真澄）／敦煌莫高窟第三二三窟と大乘菩薩戒の実践——東壁菩薩像と南北壁菩薩列像を手がかりとして——（閻志翔）／先導する「崑崙奴」の図像的役割について——敦煌摩崖變相図の世俗人物群像を中心に——（平法子）／〔特別寄稿〕白鳳時代の建築は遺存するのか（鈴木嘉吉） 2022年3月

第9号

ISBN978-4-8055-2009-3

曇曜五窟における寄進龕の位置づけ（小森陽子）／金光明最勝王經金字塔曼荼羅図の再検討（佐藤優）／円山応挙筆・妙定院所蔵「出山釈迦図」の研究（上嶋悟史）／〔修理報告〕京都府妙覚寺木造日蓮坐像（井上大樹、中尾堯） 2022年9月

第10号

ISBN978-4-8055-2010-9

鳩摩羅天と梵天——いわゆる須弥側阿修羅王図について——（吉村稔子）／大倉集古館所蔵の石造桓氏一族如来立像像主の出自について——桓楚政權との関連を中心に——（孫語崎）／成都龍淵寺考——成都市内出土南朝仏像の原所在をめぐって——（羅玲）／光明皇太后の崩御と唐招提寺金堂盧舍那仏像（閻志翔）／光明寺蔵「當麻曼陀羅縁起絵巻」成立の周辺——當麻曼陀羅・曼陀羅縁起享受環境の検討から——（中野顕正） 2023年3月

第11号

ISBN978-4-8055-2011-6

宝冠阿彌陀如来像新考（井上一稔）／岩手・三熊野神社（成島毘沙門堂）木造阿毘沙門天立像の造像背景をめぐって（佐藤高史）／〔研究ノート〕石山寺兜跋毘沙門天像について（王珏人）／〔資料紹介〕眞光寺観音菩薩像と新出の個人蔵勢至菩薩像（藤岡穰）／『仏教芸術』総目次（創刊号～第10号） 2023年9月

第12号

ISBN978-4-8055-2012-3

キジル石窟航海者窟（第二一二窟）「マイトラカニヤカ・アヴァダーナ」壁画の構成理念について（森美智代）
／東魏北齊の放光表現にみる蔵手形の発生と展開（王姝）／醍醐寺蓮藏院多宝塔の扉絵について（高倉真紀）
／〔資料紹介〕金峯山寺所蔵「金峯山経塚出土紺紙金字経」について（赤尾栄慶） 2024年3月

第13号

ISBN978-4-8055-2013-0

雲岡石窟における中国式服制の形成（柘植健生）／河南省水泉石窟に関する一考察—石窟の造営過程と工人系統をめぐって—（胡皓然）／滋賀・西教寺蔵「礼仏弥陀宝懺」について（呉永三）／奈良県野迫川村・徳蔵寺地藏菩薩立像について（山岸公基・赤津將之）／高田本、琳阿本、康永本の親鸞伝絵における絵相の異同一高田本と琳阿本の先後関係—（柘津宗伸）／〔資料紹介〕岐阜県大垣市・慈応寺薬師如来坐像について（小野佳代） 2024年9月

第14号

ISBN978-4-8055-2014-7

高松塚古墳壁画の男子群像に見える杖状の持物について—打毬をめぐるユーラシア東部の東西交流—（中村健太郎）／荒池瓦窯新出の軒丸瓦からみた東大寺創建期の瓦生産（井口歩）／列祖図に描かれたもの 鹿王院釈迦三尊三十祖像を端緒として（立畠敦子）／〔研究ノート〕土佐国分寺中門について（上野邦一）／〔資料紹介〕山形・性相院木造毘沙門天立像及び山形・立石寺本坊木造不動明王立像について（佐藤高史）／〔特別講座報告〕五台山仏教文化の形成／伝播と造像（稲本泰生） 2025年3月

第15号

ISBN978-4-8055-2015-4

東大寺成立以前の春日野の寺院—興福寺式軒瓦が出土する地点を中心に—（奥村茂輝）／正智院不動明王坐像の史的位置—不動明王にみる経軌・図像・彫像の交差—（藤岡稷）／〔資料紹介〕観心寺金堂安置不動明王像の像内銘について（井上大樹）／〔資料紹介〕青梅市・報恩寺地藏菩薩および二童子像と仏師弘円（山本勉） 2025年9月

第16号

ISBN978-4-8055-2016-1

梁代神将像の形成と伝播（柘植健生）／大権修利菩薩の機能と像容の再検討（工藤裕司）／南宋版細字法華經の一事例—奈良・談山神社本を中心に—（郷司泰仁）／東大寺千手観音菩薩像について（中井夏帆）／京都・毘沙門堂門跡の木造東照大権現坐像・慈眼大師坐像について（赤津將之） 2026年3月

芸術選書

「芸術選書」は、創業から間もない時期に『ペルシアの陶器』『中国の建築』『インドの美術』（1964年、毎日出版文化賞受賞）など、専門的な内容を広く巷間に知らしめるべく、碩学の筆で計18タイトルを刊行した叢書シリーズです。この度「芸術選書」の志を受け継ぐ新たな選書シリーズが刊行。これまで小社が培ってきた専門的「知」を現代の読者の関心に応え、入門書と専門書の間をつなぐ少し先の「芸術選書」、再創刊です。

洛中洛外図屏風 歴博 絵になる都 甲本

定価3,300円（税込）

ISBN978-4-8055-1506-8

泉 万里 著

四六判上製カバー装 本文220頁

国立歴史民俗博物館所蔵の洛中洛外図屏風（通称・歴博甲本）は現存最古の洛中洛外図屏風である。天下泰平にはまだ遠い十六世紀前半の絵画だが、そこに描かれたのは、祇園会も滞りなく行われ、洛中を歩く人々の足取りも軽い平穏息災な都の一年である。この歴博甲本の特徴を絵画史の視点から捉え直す。

[2025年2月]

黒船来航絵巻 《金海奇観》と幕末日本

定価3,180円（税込）

ISBN978-4-8055-1503-7

岩下哲典 著

四六判上製カバー装 本文180頁

嘉永7年（1854）2度目のペリー来航の諸相を細かく画像で残した絵巻《金海奇観》（早稲田大学図書館蔵）は、仙台藩の儒学者・砲術家で、当代一流の漢詩人大槻磐溪の、異国への思いを端的に見ることができる貴重な画像史料である。黒船来航170周年を機に、この作品を軸として19世紀の日本と国際関係を解き明かす。

[2024年11月]

呪術と美術

定価3,520円（税込）

ISBN978-4-8055-1508-2

加須屋誠 著

四六判上製カバー装 本文216頁 □絵8頁

何故ここまで心が震えるのか—時代を超えて伝えられ、残されてきたかたちに籠められた願いを読み解く。人々のさまざまな願いを叶えるために行われてきた呪術行為。その欲望の痕跡を現代まで伝えてきた美術作品。この「双子の姉妹」を、日本における古代から近代の現存する事物から読み解き、イメージによる人間社会の営みを描き出す試み。

[2026年2月]

失われた絵画を再生する デジタル技術を用いた復元への挑戦

定価 3,960円 (税込)

ISBN978-4-8055-1503-7

木下 悠 著

四六判上製カバー装 本文264頁

北斎の絵馬、大坂冬の陣図屏風、モネの睡蓮——本来の姿を失ってしまった絵画作品たち。その再生を目指して、残された写真や模写を、様々な資料とともに読み解き分析していく。図像を受け継ぐ、その方法や挑戦、限界を、復元現場の先頭にたつ開拓者が語るイメージの探検。

[2024年4月]

明治浮世絵師列伝

定価 3,850円 (税込)

ISBN978-4-8055-1502-0

菅原真弓 著

四六判上製カバー装 本文272頁 口絵8頁

「明治の写楽」と称され役者絵を得意とした豊原国周、いわゆる黎明期の出版人としても評価されるべき落合芳幾、近年明治の浮世絵師の代表として評価の高まっている月岡芳年、その死によって浮世絵の歴史は幕を閉じるとも評された小林清親。浮世絵が過去のものとなりゆく時代を生きた「最後の浮世絵師」たちの生涯と作品。

[2023年3月]

鑑定学への招待 「偽」の実態と「観察」による判別

定価 3,520円 (税込)

ISBN978-4-8055-1501-3

杉本欣久 著

四六判上製カバー装 本文212頁 口絵8頁

「真」か「偽」か——。研究の世界でタブー視されてきた、美術作品をめぐる「鑑定」の入門書。観るべきポイントを丁寧にひもといっていく。

[2023年3月]

ル・コルビュジエ 書物としての建築家

定価 3,520円 (税込)

ISBN978-4-8055-1507-5

千代章一郎 著

四六判上製カバー装 本文240頁

20世紀最大の建築家の一人、ル・コルビュジエは数多くの書物——学術書、雑誌だけでなく紀行や詩集まで——を生涯にわたって手掛け、信奉者にも敵対者にも、こどもにも青年にも、大衆にも権力者にも語る言葉と書く文体を手にしていた「言葉の人」であった。このあまり知られていない側面が、ル・コルビュジエ研究の第一人者である著者によって「書物として」読み解かれる建築家の姿。

[2025年9月]

ピラネージ 幻想の建築家

定価 3,850円 (税込)

ISBN978-4-8055-1504-4

長尾重武 著

四六判上製カバー装 本文224頁

建築家、舞台美術家、版画家、考古学者、古物愛好家、インテリアデザイナー……様々な顔をもち近世から近代に移り変わる18世紀イタリアで活躍したジョヴァンニ・パッティスタ・ピラネージ (1720-1778) の生涯と作品をたどり、新しい時代に与えた「幻想」の源を追う。

[2024年4月]

日本・東洋美術史

石山寺縁起絵巻集成

定価 74,800円 (税込)

ISBN978-4-8055-0765-0

相澤正彦・國賀由美子 編

B4判上製函入 横綴3分冊 (図版篇Ⅰカラー 232頁、図版篇Ⅱ カラー 280頁、論考・資料篇 モノクロ124頁)

鎌倉時代から江戸時代へ、時代を代表する絵師によって描き継がれた、滋賀県の古刹石山寺に伝わる重要文化財「石山寺縁起絵巻」。石山寺と滋賀県立近代美術館の全面的な協力のもと、その全場面 (図版篇Ⅰ) に加え模本類も多数収録 (図版篇Ⅱ) し、その全貌にせまる。図版は天地195×左右724mmの大画面で掲載、作品理解の助けとなる論考・資料も多数収録 (論考・資料篇)。

[2016年11月]

朝鮮王朝実録抄 中世美術史料

定価 11,000円 (税込)

ISBN978-4-8055-0747-6

赤澤英二 編 鈴木廣之・高橋忠彦 監修

A5判上製函入 本文264頁 口絵4頁

『朝鮮王朝実録』の内、編者である故赤澤英二が14世紀末から16世紀前半に着目し、膨大な記事を抄出して年代順に配列。当時の美術の動向を日朝交流を基軸に考察、活用の利便性を高めるため原文の訓読と註釈が施された遺稿を再点検し、編者の論文一篇を収録した東アジア美術史研究の重要史料。

[2016年1月]

日本絵画史論攷 紺丹緑紫抄

定価 33,000円 (税込)

ISBN978-4-8055-0800-8

有賀祥隆 著

B5判上製函入 本文472頁 口絵16頁

日本・東洋絵画史研究の第一人者である著者長年の研究を、主題、制作年代、筆者・筆者系統、制作背景の4篇の章に分けて収録、西洋美術に対して日本絵画とは何かを明らかにする論文集。4篇の附として「終章 日本絵画の特質」を収録。

【國華特別賞受賞】

[2017年12月]

日本美術史論集 その構造的把握

定価 24,200円 (税込)

ISBN978-4-8055-0168-9

石田尚豊 著

B5判上製函入 本文470頁 口絵16頁 挿図174点

玉虫厨子、高松塚古墳壁画、華嚴経美術、密教美術、浄土教美術、重源、洛中洛外図屏風、職人尽絵等多彩なテーマを通じて、常に人間精神の深奥なる構造とパースペクティブとの関連において捉え、考古・美術史・歴史の各分野の方法論を駆使して、その時代背景とともに解明した学際的研究の結実。

[2003年5月 (再版)]

空海の起結 現象学的史学

定価 9,240 円 (税込)

ISBN 978-4-8055-0477-2

石田尚豊 著

A5判上製カバー装 本文 408 頁

東京国立博物館資料課長を経て国立歴史民俗博物館の設立に尽力し、青山学院大学・聖徳大学で教鞭をとられてきた著者が 60 歳以降の研究成果のまとめと 50 年に及ぶ美術史学における研究生活をふりかえり、現象学的史学の提唱をし、その醍醐味を説いた、後進への指針ともいえるべき書。

[2004 年 8 月]

日本絵巻物の研究 [全 2 巻]

セット定価 66,000 円 (税込)

セットコード ISBN 978-4-8055-0475-5

秋山光和 著

多くの新知見と精緻な論証、洞察に満ちた議論によって、20 世紀後半の日本学・東洋学を領導してきた秋山博士の、広範な研究対象から、科学的実証的方法・十全な史料検討・明快かつ堅固な論理構築・柔軟な思考と全体的展望をもって表された、日本古代・中世の絵巻物に関する論考を中心に編集した待望の論文集。発表時以降の新知見や論議をもとに、加筆・補注を付して完璧を期した美術史学・歴史学・国文学など人文諸学者必備の基本文献。

上巻

定価 33,000 円 (税込)

ISBN 978-4-8055-0386-7

B5 判上製函入 本文 424 頁 口絵 4 頁 挿図 136 点

[2000 年 5 月]

下巻

定価 33,000 円 (税込)

ISBN 978-4-8055-0387-4

B5 判上製函入 本文 446 頁 口絵 4 頁 挿図 170 点

[2000 年 12 月]

国宝 六道絵

定価 39,600 円 (税込)

ISBN 978-4-8055-0556-4

泉 武夫・加須屋誠・山本聡美 編著 金井杜道 撮影

B4 判上製函入 本文 204 頁 口絵 176 頁

滋賀県大津市聖衆来迎寺に伝わる国宝六道絵 15 幅全てを大判のカラー図版と、各幅の詳細な場面解説を行う。3 名の研究者による「伝来と研究史」「技法と表現」「図様と位置づけ」に関する論文を掲載。『往生要集』などの関係資料を収録した、美術史、仏教史、中世史においても重要な第一級史料研究。

[2007 年 11 月]

仏画の尊容表現

定価 33,000 円 (税込)

ISBN 978-4-8055-0635-6

泉 武夫 著

B5 判上製函入 本文 428 頁 口絵 28 頁 挿図 216 点

本書は、日本絵画史の中でも最盛期の一つをなす平安から鎌倉時代にかけて制作された仏画を対象としてその表現の諸相を分析し、作品の特色、属性、様式史的現象を浮かび上がらせ、総合的理解に至ろうとすることで、仏画に描き出された尊容の表現史を論じている。

[2010 年 10 月]

古代中世絵絹集成 基底材の美術史

定価 28,600円 (税込)

ISBN978-4-8055-0961-6

泉 武夫 著

B4判上製函入 本文124頁 口絵96頁

日本絵画史研究において、様式史的分析以外の手段で制作年代の判断を補強するために、絵画の基底材である絵絹(画絹)の組織がどのように変化し、絵画様式の変遷とどういった対応関係になるか、日本古代・中世絵画の遺品から国宝40件・重要文化財78件を含む150件194点の作品の絹目画像を掲載した。著者30年以上にわたる収集・調査の成果として、貴重な資料と知見を公刊する。【國華賞受賞】

[2022年9月]

中世屏風絵研究

定価 16,500円 (税込)

ISBN978-4-8055-0704-9

泉 万里 著

A5判上製函入 本文420頁 口絵16頁 挿図192点

平安時代の「山水屏風」(神護寺藏)から室町時代の「競馬図屏風」(春日大社藏)まで、屏風絵などのやまと絵系大画面絵画を中心に、その特質と展開をみわたり、模本資料の積極的な活用などによって図様の解釈や推定制作時期などの定説を再検討し、得られた新知見を提示する。【國華賞受賞】

[2013年10月]

ライト & Color 絵画表現の深層をさぐる

定価 39,600円 (税込)

ISBN978-4-8055-0592-2

井手誠之輔・城野誠治・山梨絵美子 著 東京文化財研究所 編

B4判上製函入 本文28頁 口絵208頁

現在可能なコンピュータ・光学技術の粋を集めて撮影し、美術作品のはらむ多様な情報を視覚化して解析を試み、様々な可能性を示唆する。「源氏物語絵巻」、「高松塚古墳壁画」、「紅白梅図屏風」、「燕子花図屏風」などの豊富な事例も紹介、美術研究・愛好家、保存・修復科学、考古学者に必備の書である。

[2009年10月]

池大雅「真景」論攷

定価 30,800円 (税込)

ISBN978-4-8055-0978-4

出光佐千子 著

B5判上製函入 本文304頁 口絵24頁

日本文人画の大成者として高く評価されてきた池大雅(1723-76)。大雅が生涯描いた「真景図」について、その思想を中国の名勝図にまで拡げること、大雅の「真景」観について詳細な作品分析を行っている。その意識の根底には、中国の詩文や版本の図様があり、中国古代の憧れの詩人たちが見ていた景観を鑑賞できるような意図が存在したことを明らかにする。

[2023年12月]

宮廷物質文化史

定価 16,500円 (税込)

ISBN978-4-8055-0768-1

猪熊兼樹 著

A5判上製函入 本文384頁 口絵16頁

前近代日本の宮廷で用いられた殿舎・調度品・装飾などの物質に現れる造形様式と、それらの背景にある社会・制度・習俗などの生活様式を、物質文化史研究の手法を手掛かりに、日本の宮廷における物質文化の歴史を説き起こす。

[2017年8月]

光琳蒔絵の研究

定価 14,300円 (税込)

ISBN978-4-8055-0666-0

内田篤呉 著

A5判上製函入 本文384頁 口絵10頁 挿図268点

図像解釈学、様式論、技術材料論を踏まえて、文化、思想、社会などに視野を拡大して光琳蒔絵の特質の解明を試みる。従来の漆工史研究では解明されなかった光琳蒔絵と光悦蒔絵の課題について、その特質と日本美術史における位置づけを明らかにし、新たな漆工史の研究方法を提言する。

[2011年12月]

江戸の服飾意匠

文芸、美術、芸能との交流と近代への波及

定価 27,500円 (税込)

ISBN978-4-8055-0732-0

大久保尚子 著

B5判上製函入 本文512頁 口絵4頁 挿図255点

文化的成熟を迎え、広汎な享受者層に支えられた近世後期・江戸。その豊潤な服飾文化は、いかに生み出されたのか。同時代の文芸（洒落本、人情本）・芸能（歌舞伎）・出版文化（浮世絵、絵本）との交流の中に成立した意匠表現に着目し、服飾文化にみられる意匠の創案と享受の特質と、その近代への波及を展望する。

[2015年1月]

てら ゆき めぐれ

大橋一章博士古稀記念美術史論集

定価 33,000円 (税込)

ISBN978-4-8055-0702-5

大橋一章博士古稀記念会 編

B5判上製函入 本文472頁 挿図180点

早稲田大学で永らく教鞭をとられてきた大橋一章先生が古稀を迎えるにあたり、その学恩を受けた37名の研究者によりまとめられた献呈論文集。論文の扱う地域はインド・中央アジア・中国・韓国・日本と広い範囲にわたり、研究分野は漢代画像石・仏教美術・近世絵画・博物館学・書道史等の多岐に及ぶ。

[2013年4月]

常陸時代の雪村

定価 22,000円 (税込)

ISBN978-4-8055-0478-9

小川知二 著

B5判上製函入 本文272頁 口絵36頁 挿図141点

雪村は、15世紀末葉に常陸に生まれ育ち、200点余に上る数多くの作品を残しているが、その生涯は全く謎に包まれている。常陸時代の雪村の動向を、地誌的な伝承や地域の時代状況から基礎付けると共に、初期作品を表現様式から位置付けることから、雪村の生涯と画業に迫る意欲的な論考。

[2004年9月]

仏教彫像の制作と受容

平安時代を中心に

定価 19,800円 (税込)

ISBN978-4-8055-0872-5

奥 健夫 著

A5判上製函入 本文728頁 口絵16頁

像の形だけではなく、用材、造像技法など彫像を構成する様々な要素に注目し、平安時代を主体とする彫刻史を展望する。仏像が制作のみならずその受容も含め、多様な展開を遂げたことへの再認識を緻密な検討をふまえて考究する。【國華賞受賞】

[2019年6月]

興福寺南円堂と法相六祖像の研究

定価 13,200円 (税込)

ISBN 978-4-8055-0563-2

小野佳代 著

A5判上製函入 本文336頁 □絵8頁 挿図113点

興福寺南円堂と堂内に安置される6体の法相六祖像を研究テーマに、六祖像が手に執る柄香炉や座り方、さらに六祖像を安置する南円堂の八角形構造などに注目、それらの本来の意義や源流を解明することで、その根本的特質である「供養的性格」を考究し、その制作目的をも明らかにする。

[2008年1月]

仏教説話画の構造と機能 此岸と彼岸のイコノロジー

定価 13,200円 (税込)

ISBN 978-4-8055-0432-1

加須屋誠 著

A5判上製函入 本文444頁 □絵8頁 挿図288点

古代～中世期の人々が思い描いた現世と他界のイメージを現存する仏教説話画の図像解釈から探る研究。本書で主に取り上げる大画面形式の説話画は総覧できる形での鮮明な図版は刊行されておらず、こうした諸作品の詳細かつ多数の部分図に各作品の図様一覧表などの基礎データを提供する。

[2003年2月]

病草紙

定価 27,500円 (税込)

ISBN 978-4-8055-0770-4

加須屋誠・山本聡美 編

B4判上製函入 本文カラー 96頁・モノクロ144頁

平安末期にさかのぼるやまと絵の傑作「病草紙」全21点をオールカラーにて本邦初公開。また模本や異本類など周辺作例も高精細なカラー図版で掲載し、さらには先行研究を総括しつつ、最新の研究成果を踏まえた論考5編を付すことで、多角的な視点からその全貌に迫る。(英文梗概付き)

[2017年6月]

仏教説話画論集 [全2巻]

加須屋誠 著

仏教に基づく絵画のうち、絵解きの対象となる「説話画」は絵巻・掛軸・壁画など形態が異なるため、まとまった研究書が少ない。これまでの研究を乗り越えて、これからの「説話画」研究のための基礎を提供する、図像解釈学の方法を駆使した著者永年の美術史研究の成果。

上巻

定価 33,000円 (税込)

ISBN 978-4-8055-0873-2

B5判上製函入 本文400頁 □絵32頁

書き下ろしを含む、古代から近代にいたる地獄表現、後白河院が関与した六道絵巻、聖衆来迎寺本六道絵の考察など、中世の六道表現を中心とした6篇の論考を収録。

[2019年11月]

下巻

定価 33,000円 (税込)

ISBN 978-4-8055-0874-9

B5判上製函入 本文432頁 □絵8頁

研究方法、観者の「まなざし」分析、中世の絵画芸術を総覧する9篇の論考を収録。

[2021年3月]

完本 六道絵巻

定価 7,700円 (税込)

ISBN978-4-8055-0971-5

加須屋誠 著

A5判上製カバー装 本文220頁 図版184頁 後付32頁

六道とは地獄道・餓鬼道・畜生道・阿修羅道・人道・天道のことである。地獄に堕ちた亡者、さまよう餓鬼、病に苦しむ人々、追われる疫鬼たちの世界を描く「六道絵巻」。国宝を含む「地獄草紙」「餓鬼草紙」「病草紙」「辟邪絵」など現存7作品と模本1作品の全場面を読み解き、その成り立ちに迫る。

[2023年3月]

長谷寺銅板法華説相図の研究

定価 13,200円 (税込)

ISBN978-4-8055-0687-5

片岡直樹 著

A5判上製函入 本文292頁 口絵2頁 挿図120点

奈良・長谷寺の国宝・銅板法華説相図は、表面に『法華経』見宝塔品に基づく多宝塔や仏菩薩の彫刻を施し、27行273字の銘文を刻んだ作品。美術史のみならず日本史・書道史・仏教文学といった多分野の研究者の関心を集める本銅板を、彫刻様式・銘文解釈の両面から分析。従来になかった総合的研究であり初の专著。

[2012年10月]

明代黨業史研究 官民黨業の構造と展開

定価 22,000円 (税込)

ISBN978-4-8055-0631-8

金沢 陽 著

B5判上製函入 本文278頁 口絵24頁 挿図109点

本書は、著者の20年に及ぶ黨業地の実地調査に基づき、関連する先行研究の蓄積を批判的に取り入れ、産業構造の分析をもその視野に取り入れた重層的な研究である。また、新たな視点のもとに達成された中国・明代における官民黨業の構造とその展開を追った黨業史研究の成果である。

[2010年7月]

河合正朝絵画史論集〔全2巻〕

日本絵画史研究を長年牽引してこられた河合正朝氏の半世紀にわたる論考の中から、主要論文を系統的に編纂した集大成。国内の絵画史研究者のみならず、海外の研究者にも通読をたやすくし、美術史研究の一道標として日本美術研究の更なる深化を願うものである。

上巻

定価 33,000円 (税込)

ISBN978-4-8055-0867-1

B5判上製函入 本文500頁 カラー口絵8頁 挿図380点

「室町時代の絵画」「桃山絵画と狩野派」「海北友松と長谷川等伯」を収録。

[2019年1月]

下巻

定価 33,000円 (税込)

ISBN978-4-8055-0868-8

B5判上製函入 本文500頁 カラー口絵8頁 挿図420点

「琳派」「浮世絵」「江戸時代の絵画」「日本美術の見方」「補遺」を収録。

[2020年11月]

甦る若冲《釈迦十六羅漢図屏風》の再生

定価 2,200 円 (税込)

ISBN978-4-8055-0999-9

木下 悠 著

B5判カバー装 本文86頁フルカラー

戦災で失われたとされる柘目描きによる伊藤若冲の大作《釈迦十六羅漢図屏風》。昭和初期の展覧会図録にモノクロ写真だけが残るこの作品を、様々な資料とともに詳細に読み解き、デジタル技術を用いてどのような姿であったかを甦らせた、“イメージの冒険”の全貌。

[2025年6月]

京都国立博物館

須磨コレクション図版目録

中国近代絵画 1 齊白石

定価 3,300 円 (税込)

ISBN978-4-8055-0950-0

京都国立博物館 編

A4判上製カバー装 本文120頁

大正から昭和にかけて、外交の舞台で須磨弥吉郎(1892-1970)が収集した膨大な美術作品のうち、京都国立博物館が寄贈をうけた中国近代絵画を中核とする須磨コレクションをカラー図版にて、地域ごと全5巻で構成。第1巻は中国近代絵画を代表する齊白石の作品33件を掲載。

[2019年3月]

唐代龍門石窟の研究 造形の思想的背景について

定価 30,800 円 (税込)

ISBN978-4-8055-0663-9

久野美樹 著

B5判上製函入 本文556頁 図8頁 挿図230点

唐代龍門石窟は7～8世紀に造営された中国三大石窟の一つ。唐王朝とも関係が深いこの石窟の思想的背景の研究は、仏教美術史、仏教史、歴史研究にとって重要である。従来なおざりにされていた石窟に刻まれた全造像記の解説により本尊如来像の尊格を同定し、龍門石窟の造形思想全体の解釈を試みた労作。

[2011年11月]

移ろう前衛 中国から台湾への 絵画のモダニズムと日本

定価 7,700 円 (税込)

ISBN978-4-8055-0980-7

呉 孟晋 著

A5判上製カバー装 本文528頁 図8頁

政治動向と不可分に展開してきた20世紀の中国と台湾の現代美術において、日本とのかかわりも交えて俯瞰的に通覧することで、東アジアの近現代美術史に新たな視点をもたらす気鋭の論集。ともすれば一国主義中心に傾きがちな美術史観ではとらえきれない美術作品と美術運動について精緻に検証する。

【サントリー学芸賞受賞】

[2024年3月]

狩野光信の時代

定価 24,200 円 (税込)

ISBN978-4-8055-0551-9

黒田泰三 著

B5判上製函入 本文262頁 図32頁 挿図151点

狩野永徳の嫡男として安土城障壁画などに従事し、永徳没後は狩野一門の中心として豊臣秀吉の肥前名護屋城の襖絵などを制作した光信は、華麗な金碧画のやまと絵の伝統に基づいた優美な叙情性を発揮し、花鳥画家と謳われた。光信の花鳥画だけではなく、人物画家としての新たな認識を喚起する。

【徳川賞受賞】

[2007年9月]

国宝 伴大納言絵巻

定価 132,000円 (税込)

ISBN978-4-8055-0610-3

黒田泰三・早川泰弘・城野誠治 著

B3判上製輸送ケース入 本文60頁 口絵330頁

日本美術の最高峰・国宝「伴大納言絵巻」の全画面を、現在最高の技術によって撮影し、原寸の大ききで再現する。さらに拡大した部分図を多数収録し、また史実との関わり、絵巻の伝来、伴大納言の怨霊伝説、本絵巻研究史上の問題点や光学的調査による新発見をまとめた論文を収録する決定版。

[2009年11月]

中国山水画史研究

定価 13,750円 (税込)

ISBN978-4-8055-0799-5

河野道房 著

A5判上製函入 本文407頁 口絵8頁 挿図170点

東アジア美術の中心である中国の山水画の展開と歴史を、奥行き表現を中心に作品史・言説史の両面から考察。漢代から魏晉南北朝時代にかけて成立した山水表現、それらが唐代から北宋にかけて確立した山水画にどのように変化していくのかを明らかにする。

[2018年2月]

茨城彫刻史研究

定価 27,500円 (税込)

ISBN978-4-8055-0349-2

後藤道雄 著

B5判上製函入 本文210頁 図版212頁

茨城県には、7世紀後半の白鳳時代から多数の仏像彫刻が伝存する。著者は、県下に所在する仏像の悉皆調査の成果を踏まえ、奈良から南北朝に至る165件の仏像を時代毎、形式別に区分し、60点余の写真で明示する。個々の事例から都の仏師と地方仏師との影響関係を詳細に論証した。

[2002年5月]

伝世洋剣 ^{みなくち}水口レイピアの謎に挑む

定価 5,500円 (税込)

ISBN978-4-8055-0970-8

小林公治 編

A5判上製カバー装 本文392頁 図版16頁

滋賀県甲賀市の神社に江戸の頃より伝わる長剣、水口レイピア。一見すると西洋で製作され、日本に持ち込まれたかにも見えるこの謎に満ちた一振について、美術史・理化学・文献史の研究者が多角的な視点から、東洋と西洋が交差した大航海時代に誕生した比類なき伝世品の実像に迫る。

[2023年3月]

興福寺創建期の研究

定価 13,200円 (税込)

ISBN978-4-8055-0636-3

小林裕子 著

A5判上製函入 本文242頁 口絵8頁 挿図42点

奈良時代の威容をほとんど失った、南都七大寺伽藍の名刹である興福寺がいかなる思想背景でその大伽藍を形成していったかを、文献、発掘成果、建築、現存作例といった多角的な視点によって明らかにし、多くの先行研究をふまえ、最新の成果を導入して、南都興福寺研究に新たな問題を提起する。

[2011年1月]

べいふつ
米芾「画史」註解〔全2巻〕

セット定価74,800円（税込）

古原宏伸 著

中国絵画史上屈指の鬼才が残した最重要にして難物中の難史料『画史』待望の全文訳、成立後900年にして初の刊行。『画史』の作者・米芾は中国北宋の画家・書家・文人である。『画史』は、米芾が書画の所見の記事・来歴を中心に、巷間の故事、雑事について、若年から最晩年にかけて書き残した文章を収録したものである。この中国絵画の研究史上、屈指の重要史料の原典批判を繰り返し、多くの異本校合を通して、その内容を明らかにし、問題点を指摘した一大労作。

【國華賞受賞】

上巻

定価 36,300円（税込）

ISBN978-4-8055-0608-0

B5判上製函入 本文460頁 挿図497点

[2009年9月]

下巻

定価 38,500円（税込）

ISBN978-4-8055-0609-7

B5判上製函入 本文478頁 挿図598点

[2010年5月]

南蛮漆器考

定価 15,400円（税込）

ISBN978-4-8055-0871-8

小山真由美 著

A5判上製函入 本文342頁 カラー 42頁

16世紀、東西文化の初めての接触から形成されてきた南蛮文化は日本のみならず大航路上の異文化圏にも少なくない影響を残した。この「大航海時代の申し子」である南蛮漆器について、文献史料と在イタリアの遺品を中心にその特質を考察する。

[2019年5月]

円山応挙研究

定価 66,000円（税込）

ISBN978-4-8055-0318-8

佐々木丞平・佐々木正子 著

A4判上製函入 2分冊（研究篇516頁 図録篇554頁）

日本絵画史における巨匠円山応挙の新出作品を数多く含む作品図版931点を掲載した最大の個人画集となる図録篇、社会的背景、資料、技法解析、落款印章分析、絵画思想等の最新研究成果に基づき新たな日本絵画史研究の方法を確立する研究篇よりなる没後200年にして完成した応挙研究の決定版。

【日本学士院賞・國華賞・フンボルト賞受賞】

[1996年12月]

平安仏教彫刻史にみる中国憧憬

定価 12,100円（税込）

ISBN978-4-8055-0781-0

佐々木守俊 著

A5判上製函入 本文344頁 口絵8頁 挿図130点

中国仏教文化受容史の観点から、平安時代の仏教彫像の成立における諸問題、すなわち密教図像の請来とその彫像化、版画（印仏・摺仏）の受容と像内納入の流行の問題を中心に、平安彫刻史における「中国憧憬」の様相をあきらかにすることを目指した、学術研究成果。

[2017年2月]

アジャンター壁画の研究

定価 71,500円 (税込)

ISBN978-4-8055-0590-8

定金計次 著

B4判上製函入 2分冊 (研究篇414頁 図版篇420頁)

インド古代壁画の宝庫であるアジャンター石窟に残る壁画を未公開窟も含めほぼ総ての現存壁画を撮影し、従来全く公にされていないものを多く含むアジャンター壁画全体の図版を資料として公開する。文献資料を援用し、その機能と主題との関係を解明、様式と技法の分析を通じて総合的に研究した。

[2009年3月]

毘沙門天像の成立と展開

定価 20,900円 (税込)

ISBN978-4-8055-0958-6

佐藤有希子 著

A5判上製函入 本文680頁 口絵16頁

古代インドに淵源をもつ毘沙門天が東アジア世界でどのように信仰され、また関連する美術作品を生み出してきたか。東アジアの仏教において重要視された毘沙門天が、中国、朝鮮、そして日本へと伝播した過程について検討するとともに、日本の奈良時代(8世紀)～南北朝時代(14世紀)における様々な受容の様相を明らかにする。【國華奨励賞受賞】

[2022年3月]

花木の象 かばく しょう 国宝都久夫須麻神社

定価 52,800円 (税込)

ISBN978-4-8055-0700-1

須賀みほ 編著 小塚直斗 画像

B4判上製函入 本文368頁 (カラー232頁 モノクロ136頁)

桃山建築の代表的遺構・国宝都久夫須麻神社(長浜市、琵琶湖竹生島)社殿各部の造形表現について、全容および詳細を貴重な初出の図版により紹介する画像資料集。花の造形が社殿の絵画、彫刻、蒔絵などの内観外観を埋め尽くす表現の総体を「花木」をキーワードとして提示し、桃山期の造形の基盤を明らかにする。

[2013年2月]

武士の絵画 中国絵画の受容と文人精神の展開

定価 16,500円 (税込)

ISBN978-4-8055-0882-4

杉本欣久 著

A5判上製函入 本文594頁 口絵8頁

江戸時代における思潮の中心であった儒教的価値観に着目することによって、どのような歴史観が構築できるかという観点から、江戸時代に生きた画家たちが憧憬した「文人」の精神や生き方を捉え、その絵画の成立背景を明らかにする。

[2020年10月]

法華経写経とその荘厳

定価 13,200円 (税込)

ISBN978-4-8055-0740-7

須藤弘敏 著

A5判上製函入 本文594頁 口絵8頁

写経に施された装飾、特に法華経写経の見返絵を軸に、なぜ日本は大陸の写経版経装飾から離れ独自の形式を展開させたのか、その意義を明らかにする。多くの図版に加え、経絵研究の重要な基礎データである「平安時代金字写経記録」や東アジアの「写経紙高法量表」を収録。國華賞受賞論文も含む、永年の研究成果。

[2015年6月]

書に法あり

定価 4,180 円 (税込)

ISBN978-4-8055-0741-4

孫 曉雲 著 百橋明穂 監訳

B5判カバー装 本文272頁 挿図167点

現代中国書道界を代表する書家、孫曉雲氏。書道の史的考察と実践を論じた原著は10万部を越すベストセラーとなった。その間、中国各地の美術館で『孫曉雲法芸術展』、『書法有法（書に法あり）・孫曉雲法作品展』が開催されるなど、大きな関心と呼んだ本格的「書道論」、待望の刊行である。

[2015年7月]

屏風絵にみる季節

定価 28,600 円 (税込)

ISBN978-4-8055-0581-6

武田恒夫 著

B5判上製函入 本文326頁 図8頁 挿図168点

日本絵画史にとって、古来季節表現がユニークな主題になってきた。季節は、花鳥風月などの自然の風物ばかりでなく、公私にわたる年間の諸行事を介しても表象される。屏風絵からみた日本人の季節と景趣表現を古代から近世までその変遷を追い、かかる古代以来の課題を絵画史的展開に投影させる。

[2008年12月]

唐宋山水画研究

定価 30,800 円 (税込)

ISBN978-4-8055-0736-0

竹浪 遠^{はるか} 著

B5判上製函入 本文472頁 図16頁

中国史上における一大転換期であった唐（618～907）・宋（960～1279）時代の山水画を対象に、主題と表現の関係に注目し、現存作品だけでなく題画詩などの多数の文献資料を駆使することでその描写に込められた多彩な意味と画風の変遷過程を解明する独創的研究成果。【國華賞受賞】

[2015年2月]

松竹梅の美術史

定価 5,720 円 (税込)

ISBN978-4-8055-0974-6

竹浪 遠 編

A5判上製カバー装 本文200頁 図64頁

現在では吉祥の表現とされる「松」「竹」「梅」のモチーフには、どのような意味が込められ、どう表現されてきたのか。28件の美術作品のカラーによる解説と、7編の専論にコラムを加え、東洋日本美術における多彩なイメージの来歴を知る、鑑賞にも役立つ美術ガイド。

[2023年3月]

龍の美術史

定価 8,800 円 (税込)

ISBN978-4-8055-1083-4

竹浪 遠・山本 堯 編

A5判上製カバー装 本文432頁 図64頁

豊富な画像と最新の研究でたどる東洋のイマジネーション古代中国に生まれ、朝鮮半島、そして日本へ――変幻自在に姿を変えながら、様々な素材をキャンバスに描き継がれた霊獣・龍。その造形と信仰、思想に考古、絵画、彫刻、陶磁器、刀剣、茶道具、染織などの気鋭の研究者による14篇の論考と図版解説で迫る。

[2026年1月]

田邊三郎助彫刻史論集 日本彫刻とその周辺

定価 33,000円 (税込)

ISBN978-4-8055-0399-7

田邊三郎助 著

B5判上製函入 本文564頁 挿図532点

アジア全域を見渡す広い視野に立った著者の諸論考は、宗教史や芸能史などの研究成果を取り込んで、彫刻史の対象領域を拡張させてきた。本書は、日本・中国の古代から近世にわたる主として仏教彫刻に関する論考37篇を収録し、各論考にはその後の研究動向を踏まえた付記を加える。 [2001年5月]

論集 日本の仮面〔全2巻〕

田邊三郎助 著

文化庁において彫刻を中心とする文化財の調査研究、保存修復及び保護行政の公務に携わり、指導的な役割を果たしてきた著者による、古代面から舞楽面、能面にいたるまでの仮面彫刻に関する論考を豊富な図版と共にまとめる。

上巻

定価 33,000円 (税込)

ISBN978-4-8055-0865-7

B5判上製函入 本文280頁 カラー図版24頁 モノクロ図版106頁

「概説」と「舞楽面」「行道面」に関する論を収録。

[2019年2月]

下巻

定価 35,200円 (税込)

ISBN978-4-8055-0866-4

B5判上製函入 本文280頁 カラー図版26頁 モノクロ図版116頁

「能面」「狂言面」に関する論を収録。

[2019年10月]

ガンダーラの仏教彫刻と生天思想

定価 17,600円 (税込)

ISBN978-4-8055-0966-1

田辺 理 著

A5判上製函入 本文520頁 図8頁

ガンダーラの仏教美術は、これまで様々な考察が行われてきたが、未だに解明されていない問題がいくつも存在する。本書は一見しただけでは仏教と関係があるか否かわからない、ガンダーラの非仏教的な外観の彫刻に着目し、ローマ美術や古代インドの仏教美術との比較、考察を行うことにより、ガンダーラの仏教彫刻と生天思想が深く関連していることを解き明かす。東西美術の架け橋となる画期的な研究成果である。【國華奨励賞受賞】 [2022年12月]

敦煌美術東西交界史論

定価 16,500円 (税込)

ISBN978-4-8055-0960-9

田林 啓 著

A5判上製函入 本文462頁 図8頁

敦煌は古来より東西の様々な文化が交差する地であり、世界最大の仏教石窟寺院、莫高窟の諸石窟は時代とともに複雑な展開をたどった。中国の南朝時代から唐代を経て五代へ至る各時代の諸石窟について、最新の研究成果をもとに詳細な検討を加え、敦煌様式の特徴を浮かび上がらせる。

[2022年3月]

かざりの水脈 日本美術における装飾

定価 5,940円 (税込)

ISBN978-4-8055-1081-0

玉蟲敏子 著

B5判上製カバー装 本文176頁フルカラー

「かざりの幸はう国」の美術論——日本人の生活文化と密接にあり続けた屏風、襖絵、冊子、硯箱、巻物などに見る、「かざり」＝装飾性の観点から日本美術の一千年にわたる歴史を読み解く。200点を超える作品をカラーで掲載し、テキストと図版の融合を目指した「見せる論文集」。

[2025年12月]

ハーバード美術館 南無仏太子像の研究

定価 24,200円 (税込)

ISBN978-4-8055-0975-3

阿部泰郎・阿部美香・近本謙介・レイチェル・サンダーズ・瀬谷 愛・瀬谷貴之 編

B5判上製函入 口絵48頁 本文336頁 挿図130点

鎌倉時代、正応5年(1292)に造られたハーバード美術館蔵南無仏太子像(聖徳太子二歳像)について、像本体、また納入品40点にわたる納入品のひとつひとつを詳細に分析、成立年代の知られる現存最古の南無仏太子像が誕生した背景に迫る、宗教遺産の意義と価値の解明を試みた国際共同研究の成果。

[2023年3月]

かりがねやおんがちよう 雁金屋御画帳の研究

小西家伝来尾形光琳関
係資料にみる小袖文様

定価 36,300円 (税込)

ISBN978-4-8055-0664-6

塚本瑞代 著

B4判上製函入 本文260頁 口絵176頁

尾形光琳が遺した小西家旧蔵資料の中にある小袖の雛形が描かれた「御画帳」は、江戸時代の小袖を研究する上で必須のもの。全図を掲載し、かつ「しきうつし」により文様を描き起こし、文字を解説することで、当時の小袖の在りようにとどまらず、日本のデザインや美意識を端的に語る資料の全容を明らかにする。

[2011年9月]

ボストン美術館日本美術総合調査図録

定価 46,200円 (税込)

ISBN978-4-8055-1000-1

辻 惟雄・アン・ニシムラ・モース・高岸 輝 監修

公益財団法人鹿島美術財団 編

A4判上製布装函入(2分冊) 解説篇440頁/図版篇568頁(カラー64頁/モノクロ504頁)

1991年から3度にわたり鹿島美術財団の支援により行われた、ボストン美術館に所蔵される日本美術悉皆調査の成果をまとめた総合図録。所蔵作品2976件の制作年代・法量・落款さらに調査者による所見など、詳細なデータを提供。また図版篇として3494点の画像を収録し、世界に類をみない貴重な日本美術コレクションの全貌を一冊にまとめた。

[2022年3月]

平安密教彫刻論

定価 18,700円 (税込)

ISBN978-4-8055-0751-3

津田徹英 著

A5判上製函入 本文784頁 口絵16頁 挿図616点

400年にわたる平安密教彫刻がどのように展開していったのか、経典・儀軌を精密に読するとともに、密教図像学的手法を駆使して各尊像の図像表現を解明した、密教造像の意義と展望を示す著者永年の研究成果である。

[2016年1月]

江戸期実景図の研究

定価 16,500円 (税込)

ISBN978-4-8055-0686-8

鶴岡明美 著

A5判上製函入 本文432頁 口絵16頁 挿図253点

谷文晁「公余探勝図」を端緒とする江戸時代後期に盛行した、記録性を重視した実景表現による作品群について、諸作例の特質を分析し、受容の背景について、歴史的事象との関連性を明示した。実景図に具体的な検討を加え、表現の系譜を解明し、表現方法が生成された背景について史的考察を試みた研究成果。
[2012年10月]

日本絵画史年記資料集成 十世紀—十四世紀

定価 9,350円 (税込)

ISBN978-4-8055-0044-6

東京国立文化財研究所 編

A5判上製函入 本文340頁 口絵84頁

日本美術史研究の上で、作品の製作年代や作者を知るための直接的な資料として重要なものが銘文である。本書は平安時代中期から南北朝時代までの500年間に日本で制作された絵画に関する作品のうち、その年記のあるもの324点を430枚の写真と銘文の翻刻で年代順に集成したものである。

[1984年5月]

日本絵画史年記資料集成 十五世紀

定価 20,900円 (税込)

ISBN978-4-8055-0652-3

東京文化財研究所 編

A5判上製函入 本文720頁

『日本絵画史年記資料集成 十世紀—十四世紀』の続編として刊行する、独立行政法人国立文化財機構東京文化財研究所企画情報部の研究プロジェクト「東アジアの美術に関する研究」の平成22年の研究報告書である。日本絵画史の年記資料のうち、15世紀の銘記類833件を収載する。

[2011年3月]

日本東洋古美術文献目録 昭和11年～40年定期刊 行物所載附・著者名索引

定価 38,500円 (税込)

ISBN978-4-8055-0343-0

東京国立文化財研究所 編

B5判上製函入 本文790頁

昭和11年(1936)より40年(1965)までの30年間に、わが国で発行された定期刊行物所載の論文・資料・記事・紹介文献を1200誌を対象に、4万件にわたって採録した日本・東洋全般を包括する美術文献目録。20年振りの復刊にあたり、新たに60頁に及ぶ著者名索引を付し、検索の便をはかった。

[1997年11月]

日本東洋古美術文献目録 1966年～2000年定期刊 行物所載附・著者名索引

定価 55,000円 (税込)

ISBN978-4-8055-0503-8

東京文化財研究所 編

B5判上製函入 本文1200頁

昭和11年から40年までの文献データを収録した前著刊行より36年、昭和41年(1966)より平成12年(2000)までの諸文献4万3千件を分類整理し、日本・東洋美術はもとより広く史学・建築・民俗・考古・国文・宗教などの諸分野の研究に寄与する待望の目録。著者名索引付。
[2005年5月]

美術研究作品資料第4冊

龍華寺 菩薩半跏像**定価 20,900円 (税込)**

ISBN978-4-8055-0547-2

東京文化財研究所 編

B4判上製函入 本文48頁 口絵48頁 挿図47点

神奈川県龍華寺に伝来した天平時代の脱活乾漆造の菩薩半跏像は平成10年に龍華寺の土蔵から偶然発見されたもので、発見時、頭、体、四肢が分離していたため、いまだ技法に不明なところを残す作例の貴重な観察をすることができた。その後、修理を経て往時の姿に復するまでの調査報告。

[2007年5月]

国宝 源氏物語絵巻**定価 99,000円 (税込)**

ISBN978-4-8055-0585-4

徳川美術館・五島美術館 編

B4判上製帙函入 本文40頁 口絵326頁

国宝「源氏物語絵巻」の全容を解明すべく、徳川美術館・五島美術館の共同研究として進められた科学的調査の報告。学術用・鑑賞用として有効に利用できるよう全図は原寸大に収録し、各場面解説に加え、登場人物77名の拡大図や部分図を蛍光画像などと共に網羅的に紹介。

[2009年1月]

仏教美術史論**定価 26,400円 (税込)**

ISBN978-4-8055-0375-1

どのほしあきお
百橋明穂 著

B5判上製函入 本文462頁 口絵8頁 挿図431点

仏教美術研究における説話美術に着目して、中国大陆、朝鮮半島、わが国の様々な作品を比較検討し、伝播と発展の過程を明らかにしつつ、その説話性こそが日本の仏教美術の根本的な特質であることを浮き彫りにする。さらに古代壁画、仏教美術史研究の図像と様式を詳述、東アジアの仏教美術にも論及。

[2000年2月]

あおに 丹青よし 古代美術散策**定価 4,180円 (税込)**

ISBN978-4-8055-0788-9

百橋明穂 著

A5判上製カバー装 本文236頁 挿図90点

日本東洋古代美術史に多くの成果をもたらし、わが国はもとより諸外国の研究者に師表としてその学恩的影響の大なる学究の、50年にわたる足跡をこのたび古希の節目にあたってまとめられた佳品。

[2017年5月]

東アジア美術交流史論**定価 36,300円 (税込)**

ISBN978-4-8055-0670-7

百橋明穂 著

B5判上製函入 本文432頁 挿図350点

日本と中国大陆における古代仏教美術史の交流と、高松塚古墳や高句麗古墳など古代墳墓壁画の密接な相関関係の諸相を解明、東アジアの古代文化の影響関係を日本古代美術という視座から考察、中国訳と英訳を併載し、国際的研究環境を形成した成果。

[2012年12月]

美術史歴参

定価 38,500円 (税込)

ISBN978-4-8055-0701-8

百橋明穂先生退職記念献呈論文集刊行委員会 編著

B5判上製函入 本文680頁 挿図414点

長年にわたり日本と中国の古代美術史を研究し、特にシルクロード、敦煌から中国・朝鮮と日本の仏教美術史上での相互交流に関する論考を多数発表し、古代墳墓壁画における先端的な研究を披瀝してきた百橋博士。その神戸大学退職を記念して、博士の学風に触れた門下生によってまとめられた献呈論文集。

[2013年3月]

じん い そう

神異僧と美術伝播

定価 3,960円 (税込)

ISBN978-4-8055-0888-6

百橋明穂・田林 啓 編

A5判上製力パー装 本文264頁 口絵8頁

史実と虚構のはざまで生成されるイメージをめぐる一不可思議な事績を示した神異僧（じんいそう）を紐帯として繋がり合う仏教美術。日本と中国の研究者による9本の論考を収録し、美術伝播の様相を読み解く。本書は2017年に大和文華館で開催された、神異僧をめぐるシンポジウムをもとにした画期的な論文集である。

[2021年2月]

仏教と造形 —信仰から考える美術史

定価 33,000円 (税込)

ISBN978-4-8055-0898-5

長岡龍作 著

B5判上製函入 本文474頁 口絵16頁

本書は、仏教美術ははじめとする作品を制作された「場」までを考察の対象として(1) 仏身観と表象、(2) 死後世界における祈願と造形の機能、(3) 古代日本における現世観と造形の役割、という三点の関心に応じて論を三部で構成し、人間の宗教的営為の中で果たす造形の役割を明らかにすること、造形という具体的な素材を通じ、その背後にある人間精神を問い直そうとしている。

[2021年12月]

古代インド美術と民間信仰

定価 15,400円 (税込)

ISBN978-4-8055-0754-4

永田 郁 著

A5判上製函入 本文464頁 口絵8頁 挿図230点

古代インド美術は民間信仰という土壌の中でどのように発生し、展開していったのか。民間信仰の神ヤクシャ（葉叉、夜叉）の造像分析を通じ、仏像や菩薩像の生成に民間信仰やその造形が果たした役割を明らかにする。

[2016年2月]

中国金工史

定価 30,800円 (税込)

ISBN978-4-8055-0737-7

中野 徹 著

B5判上製函入 本文704頁 挿図1800点

新石器時代から近世まで、中国の青銅器を中心とした金属工芸の歴史を概観する初めての通史。半世紀に及ぶ学会員の経験からの全編書下ろしであり、通史の展覧会をイメージして構成した出土資料を多数掲載。詳細な「資料文献目録」を付す。

[2015年1月]

光琳論

定価 26,400円 (税込)

ISBN978-4-8055-0880-0

仲町啓子 著 B5判上製函入 本文348頁 口絵16頁

江戸時代を代表する琳派の絵師、尾形光琳（1658～1716）について、著者永年の研究を書ろしにて集大成する。光琳の子孫の小西家に伝わった文書・画稿類、さらには同年代の資料を元に、光琳の伝記を再考することで、彼の絵画制作に対する研鑽の跡を追った。先学の研究を参照しつつも、既知の完成作品にも新たな解釈を加え、光琳の歩んだ道を描き出すことを目的とし、その全体像を新たな視点から、かつ一貫した構想によって捉えなおす。【國華賞・徳川賞受賞】

[2020年9月]

江戸時代の女性画家

実践女子大学香雪記念資料館所蔵 定価 11,000円 (税込)

女性画家作品図録

ISBN978-4-8055-0969-2

仲町啓子 編

A4判上製カバー装 本文112頁 カラー図版160頁 後付24頁

これまで日本美術史の研究において等閑視されてきた江戸時代の女性画家について、その緒に就くべく、その設立から女性画家の作品を収集してきた実践女子大学香雪記念資料館の収蔵品の作品論を中心に、25人の女性画家の多彩な人生と制作の魅力について論じた。さらには実践女子大学香雪記念資料館が所蔵する現代までの女性画家74人175点の作品をカラー図版にて掲載。コラム・略伝も付す充実の内容にて刊行する。

[2023年3月]

日本彫刻史論叢

定価 33,000円 (税込)

ISBN978-4-8055-0380-5

西川杏太郎 著

B5判上製函入 本文530頁 口絵8頁 挿図478点

永年文化財行政の要職を歴任した著者の豊富な経験、知見に基づく論考の集大成。作品の実査による詳細な基礎データや解体修理時の所見と構造図面および細部の具体的な写真により、技法史的観点を中心として考察された本書は、今後の彫刻史研究の礎となるであろう。

[2000年1月]

東西交流の陶磁史

定価 13,200円 (税込)

ISBN978-4-8055-0591-5

西田宏子 著

A5判上製函入 本文580頁 挿図408点

永らく根津美術館の学芸員を務めて、世界各地の中国陶磁をはじめとする交流史を論じた論考。くわえて陶磁器、漆器など様々な展覧会に際し執筆した論考と、オックスフォード大学で当該分野の博士号を日本人女性として初めて取得した著者の留学体験記や、研究者・学芸員としての様々な思いを綴った随筆を併録。【茶道文化学術賞受賞】

[2008年11月]

日本中世肖像彫刻史研究

定価 22,000円 (税込)

ISBN978-4-8055-0956-2

根立研介 著

B5判上製函入 本文296頁 口絵8頁

本書は、わが国の肖像彫刻について論じた研究書である。特にその制作が本格化した鎌倉時代の肖像彫刻に焦点を当て、中世肖像彫刻史の展開の様相や、肖像彫刻の造像目的や機能などを論じるとともに、この時期に造られた肖像彫刻の特色や性格を明らかにしようとする。

[2022年2月]

初期イスラーム文化形成論

エジプトにおける
技術伝統の終焉と創造

定価 18,700円 (税込)

ISBN978-4-8055-0795-7

長谷川奏 著

A5判上製函入 本文462頁 口絵4頁

本書は、エジプトにおける文明の歴史堆積を主題としており、初期文明からヘレニズム文明、地中海文明を経て、イスラーム文明にとってかわられていくまでの時代を対象にしており、その具体的な側面を検証するために、生活雑器をとりまく生活空間がどのように変質していったかを考察する。

[2017年12月]

東洋陶磁史研究

定価 13,200円 (税込)

ISBN978-4-8055-0534-2

長谷部楽爾 著

A5判上製函入 本文624頁 挿図167点

中国陶磁史を中心とした、誠実で真摯な研究活動により、内外の陶磁関係者から信頼され、注目されてきた著者の半世紀にわたる足跡を集大成した著作集。中国・朝鮮・東南アジア・出土中国陶磁などのテーマに分け、50年にわたる著作から代表的な論考を掲載。各論考の末尾に、自註を付した。[2006年11月]

室町水墨画論集

定価 16,500円 (税込)

ISBN978-4-8055-0892-3

畑 靖紀 著

A5判上製函入 本文560頁 口絵8頁

室町時代にひろく愛好された水墨画は中世美術を特徴付ける分野であり、日本文化のなかでも歴史的に重要な位置を占めている。そのような意義をもつ室町水墨画について、雪舟研究を中核にすえ、絵画の受容者を対象とする視点、近代国家の枠組みを越えた中世の文化交流に注目する視点、逸失作品の積極的な復元という三つの課題を踏まえて分析考察を進めた研究成果の公開。

[2021年8月]

中国石窟美術の研究

定価 14,300円 (税込)

ISBN978-4-8055-0688-2

濱田瑞美 著

A5判上製函入 本文400頁 口絵4頁 挿図194点

図像研究を通して石窟空間全体の構想を読み解くことで、石窟美術の歴史を捉える。長期の現地調査により得た図像資料と綿密な読解を加えた多くの経典・仏教史資料を駆使しており、史料の価値も大きい。南北朝期から唐宋期まで、また地域も幅広く扱う、中国石窟美術の歴史を実証的に論述した、気鋭の研究。【國華奨励賞受賞】

[2012年10月]

敦煌石窟美術の研究

定価 15,400円 (税込)

ISBN978-4-8055-0979-1

濱田瑞美 著

A5判上製函入 本文456頁 口絵8頁 挿図200点

敦煌石窟とは甘粛省敦煌地域に所在する石窟の総称で、その代表である莫高窟には塑像と壁画を有する石窟として合計492箇窟が編号されている。往時、窟内にはどのような仏教世界が表現され、そこで人びとは何を想い、何を体験したのか。本書は、仏教石窟が何のために造られ、人びとにとってどのように機能したのかという根幹的な問いに対し、敦煌石窟の豊富な仏教美術を以て解を見出していく。

[2024年2月]

初唐仏教美術の研究

定価 33,000円 (税込)

ISBN978-4-8055-0677-6

肥田路美 著

B5判上製函入 本文502頁 挿図168点

わが国の精神史と造形文化の形成に絶大な影響を及ぼした中国初唐時代の仏教美術に関する総合的研究。当時展開した仏教美術の性格と歴史的意義を時代を特徴づける観点とし、実地調査と仏典・石刻史料など文献資料の実証的検討を通して、多角的な視点と方法論で初唐仏教美術の全体像を明らかにした労作。
【國華賞受賞】 [2011年12月]

論集 東洋美術跋涉

定価 38,500円 (税込)

ISBN978-4-8055-1084-1

肥田路美先生古稀記念論文集刊行会 編

B5判上製函入 本文532頁

永年にわたり早稲田大学で日本・東洋の仏教美術を牽引してきた肥田路美先生の学恩を受けた、第一線の研究者34名による古稀記念献呈論文集。幅広いテーマや、地域、時代を扱う。

[2026年3月]

渡辺華山 作画と思想

定価 14,300円 (税込)

ISBN978-4-8055-0977-7

日比野秀男 著

A5判上製函入 本文340頁 図8頁

本書は武士、開明思想家、画家として生きた渡辺華山(1793-1841)の、晩年の作画活動とその海防思想との関わりを明らかにし、これまで看過されてきた蟄居時代の作品制作時期の推定や遺書の実相に迫る。また華山と師友たちとの交わりから、華山にとって作画とは何であったのか、そして椿椿山に宛てた遺書に記された「極秘永訣」の意味について解明を試みる。

[2023年11月]

絵仏師の時代

定価 30,800円 (税込)

ISBN978-4-8055-0269-3

平田 寛^{ゆたか} 著

B5判上製函入 本文600頁 図16頁 挿図26点

本書は、鎌倉時代までの日本絵画史の骨格を造った仏教絵画の制作の主体をなした絵仏師達の絵画史的意義を明確にし、絵仏師の志向、動向、系譜などから技法に至るまで広く検討した研究篇と、9世紀から14世紀に至るまで絵仏師に関する事例700件を編年的に確定した史料篇からなる大著。

[1994年2月]

徳川家康の服飾

定価 7,150円 (税込)

ISBN978-4-8055-0793-3

福島雅子 著

A5判上製カバー装 本文320頁 図28頁 挿図164点

天下人が好んだ服装とは…? 徳川家康が遺した100点以上の服飾コレクションから、辻が花染・小紋染遺品、「葵紋」の定式化を検討し、中世末から近世初頭の服飾史上の一大転換期に現れた「家康好み」ともいえる新たな武家服飾形式を明らかにする。

[2018年2月]

アジャンター後期壁画の研究

定価 31,900円 (税込)

ISBN978-4-8055-0724-7

福山泰子 著

B5判上製函入 本文632頁 口絵8頁 挿図475点

これまでのアジャンター石窟研究史において、壁画を石窟の造営過程の中で考察したものは数少ない。本書は数々の先行研究を踏まえた上で、5世紀以降に描かれた窟内壁画を石窟荘嚴の一要素として捉え、制作者や寄進者の視点をも取り込み、その究明に取り組んだ独創的な意欲作である。

[2014年2月]

東アジア仏像史論

定価 19,800円 (税込)

ISBN978-4-8055-0893-0

藤岡 穰 著

A5判上製函入 本文778頁 口絵16頁

日本（飛鳥～鎌倉時代）、中国（南北朝～宋時代）、朝鮮（三国～統一新羅時代）の東アジア各地域・時代の彫塑造の様式展開をたどり、さらには科学的調査の結果に基づいた長年にわたる研究の成果から精選・集成された論考により、東アジア仏像史研究に新たな地平を開く。

[2021年7月]

縁起絵・行事絵を読む 中世絵画史料論

定価 7,480円 (税込)

ISBN978-4-8055-1079-7

藤原重雄 著

A5判上製カバー装 本文536頁 口絵8頁

過去を知るため史料としても意義が認められてきた中世日本のやまと絵は、世界的に見ても、豊かな情報を汲み取ることが可能な対象である。こうした認識のもと、宮廷絵師の画業や中世の寺社縁起絵巻・掛幅縁起絵および行事絵を対象に、中世史研究の立場から美術史学や国文学の関心と重なり合う作品や論点を含んだ分野横断的な研究の水準を示す。

[2025年11月]

国宝 高松塚古墳壁画

定価 19,800円 (税込)

ISBN978-4-8055-0470-3

文化庁 監修

B4判上製カバー装 本文30頁 口絵100頁

高松塚古墳壁画発見の衝撃から30年、最新高精細デジタル撮影によるオールカラー印刷により、今再び男女群像、四神たちがよみがえる。壁画の黒カビ、退色など文化財保護の問題や顔料・染料の問題など多くの論議をよんだ話題の書。色鮮やかな古代の遺産を子孫に護り伝えるための決定版写真集。

[2004年6月]

校刊美術史料 七大寺日記 七大寺巡礼私記

定価 2,200円 (税込)

ISBN978-4-8055-0034-7

つねよ
藤田経世 編

B5判 本文50頁

『七大寺日記』は大江親通が嘉承元年（1106）に、大和の七大寺を巡礼した時の手記と推定され、『七大寺巡礼私記』は保延6年（1140）に、同じ寺々を再び巡ってから、諸種の文献を引用して作った書である。この平安後期の南都の諸寺の建築や仏像などの実状を伝える2篇を演習用に製本した抜刷。

[1972年3月]

校刊美術史料〔全3巻〕

セット定価66,000円(税込)

セットコード ISBN978-4-8055-0030-9

藤田経世 編

南都七大寺はじめ諸寺院の美術に関する重要な史料の内、未公刊の史料、原本との校合が不十分な文献、入手困難な刊本など、根本史料を再校合の上、異体字を作成し集大成した。美術史・仏教学・国史学・建築史学に多大な恩恵をもたらした。各項目ごとに解題、参考文献、下巻には総索引を付す。

寺院篇〔上巻〕 七大寺日記、七大寺巡礼私記 他

定価19,800円(税込)

ISBN978-4-8055-0031-6

B5判上製函入 本文384頁 1999年5月再刊

寺院篇〔中巻〕 法隆寺本古今日録抄、薬師寺史料集 他

定価26,400円(税込)

ISBN978-4-8055-0032-3

B5判上製函入 本文518頁 1999年5月再刊

寺院篇〔下巻〕 内山永久寺資料 他、総索引付

定価19,800円(税込)

ISBN978-4-8055-0033-0

B5判上製函入 本文380頁 1999年5月再刊

【日本学士院賞・國華賞・メトロポリタン美術館島田賞受賞】

日本の美術と世界の美術

定価4,620円(税込)

ISBN978-4-8055-0528-1

前川誠郎 著

A5判上製カバー装 本文258頁 口絵8頁

永く西洋美術史研究を領導し、その普及に努めてきた著者は美術のみにとどまらず、文学への造詣は古今東西にわたって通じており、わが国各時代の美術作品や美術家を祖上にのせ、関連する西洋や中国の美術、歴史、文学、音楽と付け合わせて醍醐味を引き出してくれる多くの発見と卓見の好著。

[2006年8月]

八部衆像の成立と展開

定価15,400円(税込)

ISBN978-4-8055-0791-9

水野さや 著

A5判上製函入 本文444頁 口絵16頁

奈良・興福寺の脱活乾漆造八部衆像で名高い「八部衆像」。その図像と群像形式は、いかにして形成されたのか。八部衆像の源流を六世紀の中国に求め、その後の東アジア・中国、韓国、そして日本一での展開を、丹念な現地調査で得た現存作例から明らかにする、「八部衆像」論の決定版。

[2017年12月]

中国絵画の内と外

定価16,500円(税込)

ISBN978-4-8055-0878-7

宮崎法子 著

A5判上製函入 本文752頁 口絵8頁

中国絵画史研究の第一人者である著者の集大成というべき論文集。第1部では中国絵画とそれを取りまく世界との関係を、主題と社会の相関、ジェンダー、日本との比較、近代における研究史やコレクション形成など多彩な観点から読み解き、第2部は、宋代から清代までの、道釈図や山水画など多岐にわたる作例について、絵画表現という豊かな情報を、関連文献資料を援用しながら検討する。[2020年3月]

インド仏教美術史論

定価 38,500円 (税込)

ISBN978-4-8055-0619-6

宮治 昭 著

B5判上製函入 本文638頁 挿図330点

30年に及ぶ実地調査に基づき、先行研究の蓄積を批判的に取り入れ、新たな視点のもとに達成された研究成果。インドの仏教美術史を、特に図像の成立、発展、変貌という視点でとらえ、土着的・外来的な異宗教・異文化との融合によって生成する様相を明らかにした世界的成果の公刊。

[2010年3月]

柳澤孝^{たか}仏教絵画史論集

定価 38,500円 (税込)

ISBN978-4-8055-0524-3

柳澤 孝 著

B5判上製函入 本文664頁 口絵24頁 挿図489点

東京文化財研究所の美術部長であった故柳澤孝女史は、永年にわたって日本仏教絵画史研究に携わり、網羅的かつ綿密な作品調査を行い、それらの成果をもとに多くの著書・論文を著している。斯界の仏画研究そのものの水準を飛躍的に引き上げたこれまでの研究成果を一冊にまとめた。

[2006年5月]

中近世染織品の基礎的研究

定価 14,300円 (税込)

ISBN978-4-8055-0733-9

山川 曉^{あき} 著

A5判上製函入 本文304頁 挿図170点

染織史研究における基準作比定の要件と、基準作を編年基準として応用するための分析手法を詳述。国内では研究が進んでいない織物構造分析の手法と、文書資料を駆使し、中近世の伝法衣や芸能装束など作品研究を展開。学芸員として染織史固有の分析方法を探索し観察を重ねてきた著者による、基礎研究の集大成。

[2015年2月]

海のシルクロードの染織史

定価 18,700円 (税込)

ISBN978-4-8055-0775-9

吉田雅子 著

A5判上製函入 本文516頁 口絵16頁 挿図356点

大航海時代、海のシルクロードを通じて日本に舶載された染織品を手がかりに、それらの制作地、制作年代、制作目的、交易経路から文化交渉の営みを描き出す。調査作品には慶長遣欧使節請来品、豊臣秀吉伝来品など重要文化財を含む。染織技法、様式、史料を分析し染織品がたどった東西交渉史の実像に迫る未踏の労作。【意匠学会賞受賞】

[2017年2月]

京狩野の研究

定価 30,800円 (税込)

ISBN978-4-8055-0639-4

脇坂 淳^{あつし} 著

B5判上製函入 本文410頁 口絵8頁 挿図156点

室町時代から幕末まで画壇に君臨した狩野派のうち、京都に留まり、公家や寺院の御用絵師として京都を中心に活躍した一派を京狩野と呼んでいる。個々の研究範囲に留まり、体系的な研究が待たれていた、近世京都画壇250年の流れの中で京狩野の画態と営為を明確にした研究の公刊。

[2010年12月]

仏伝図論考

定価 15,400円 (税込)

ISBN978-4-8055-0679-0

渡邊里志 著

A5判上製函入 本文564頁 口絵32頁 挿図218点

仏伝図は釈迦の生涯と事蹟を描いた美術作品であり、インドから日本までアジア全体に存在する。平安時代から室町時代に日本で描かれた仏伝図を、多くの先行研究を踏まえて批判・評価し、文献記録と現存する作品から新資料も含めて網羅的に明示し、全体像と特色、仏教美術史上の意義を明らかにする意欲作。

[2012年3月]

近代日本美術史

松岡壽先生

青木 茂 解題

B5判上製函入 本文262頁 口絵136頁

松岡壽（1862～1944）は日本近代洋画の確立に尽力した画家であり、多くの後進を育てた教育者でもある。師の齢80を祝って、教え子である東京高等工業学校工業図案科の卒業生によって昭和16年に作られた本書は、明治洋画草創期の証言として今日重要な基礎史料である。ほとんど入手不可能の稀観本の復刻。
[1995年7月]

定価 16,019円（税込）

ISBN978-4-8055-0299-0

松岡壽研究

青木 茂・歌田眞介 編

A5判上製函入 本文486頁 口絵16頁 挿図54点

松岡壽は、明治初期洋画家及び浅井忠・小山正太郎と共に明治美術会の創設に参加した主要メンバーとして近代日本美術史上に位置付けられてきた。本書は、松岡所蔵の美術資料や著作物、イタリア留学時代を含む日記類、気鋭の研究者による論文から松岡の足跡を検証する。

[2002年7月]

定価 13,200円（税込）

ISBN978-4-8055-0415-4

鷺湖及鼎湖

がこおよびていこ

幕末・明治画家日記

石井柏亭 編 青木 茂・石井 洋 解題

菊判上製函入 本文216頁 口絵24頁

鈴木鷺湖（1816～70）は谷文晁に師事した日本画家であり、その子石井鼎湖（1848～97）は明治美術会の創立に参加した画家である。本書は、鷺湖の50回忌及び鼎湖の23回忌にあたる大正8年（1919）に、それを記念して孫の柏亭が200部の私家版として友人知己に配った稀観本の復刻である。
[2005年9月]

定価 5,500円（税込）

ISBN978-4-8055-0513-7

近代彫刻の先駆者 長沼守敬 —史料と研究

石井元章 編

A5判上製函入 本文776頁 口絵8頁 挿図346点

本書は明治期の彫刻家、長沼守敬（ながぬまもりよし、1857～1942）の生涯と作品をまとめた、本邦初の史料集兼、研究書である。長沼は岩倉具視や木戸孝允、渋沢栄一など明治期に活躍した人々の肖像を制作し、イタリア彫刻の最先端の技術を日本にもたらした、日本彫刻界初期の実力ある先駆者である。長沼の生涯を詳述する伝記編、54件に及ぶ長沼の作品を解説する作品編、最新の研究成果をまとめた論考編、それらに付随する膨大な史料を通して、長沼守敬の真価を問う。
[2022年2月]

定価 19,800円（税込）

ISBN978-4-8055-0959-3

美術研究作品資料 第3冊 青木繁《海の幸》

定価 13,200円 (税込)

ISBN978-4-8055-0501-4

石橋美術館・東京文化財研究所 編

B4判上製カバー装 本文77頁 口絵31頁 折込図8点 挿図66点

近代日本美術史を代表する青木繁の名作、重要文化財《海の幸》が描かれて100年。石橋美術館と東京文化財研究所の共同研究により撮影技術とコンピュータ技術の粋を集めて、現在可能な限りの印刷技術をもって再現する美術資料集。原寸で全図を16分割して収録、1/2大の全図を折込で掲載。

[2005年4月]

岡倉天心アルバム [増補改訂]

定価 3,960円 (税込)

ISBN978-4-8055-0706-3

茨城大学^{いづら}五浦美術文化研究所 監修 中村^{すなわ} 愿 編

A5判カバー装 本文256頁 挿図600点

天心の生涯と環境・時代状況を、未公開写真を含めた当時の遺品・写真600余点で具体的に例示すると共に、簡潔なコメントによって天心の生涯を浮き彫りにする。天心の多方面にわたる活躍を具体的に例示した『岡倉天心百科事典』に、東日本大震災で流出した天心設計の『五浦六角堂』再建の過程を新たに収録。

[2013年10月]

日本近代洋画の成立 白馬会

定価 27,500円 (税込)

ISBN978-4-8055-0496-3

植野健造 著

B5判上製函入 本文364頁 挿図241点 CR-ROM付

明治29年に結成された洋風美術団体「白馬会」は、明治43年までに13回の展覧会を開催し、翌年解散した。西洋の新しい芸術思潮と技術を基盤とした白馬会が、当時の日本美術界や社会に与えた影響は大きく、当時の資料を駆使してその活動の全貌を跡付ける。付録としてCD-ROMを付す。

【倫雅美術奨励賞受賞】

[2005年6月]

創作版画誌の系譜 総目次及び作品図版1905-1944年

定価 55,000円 (税込)

ISBN978-4-8055-0569-4

加治幸子 著

B5判上製函入 本文1116頁 口絵4頁

平旦／方寸／虹／白刀／こころみ／月映など明治から大正・昭和前期に刊行された創作版画誌（版画同人誌、連刊版画集、団体の機関紙、画廊の情報誌等）を創刊順に「刊行目録」として編纂し、851冊すべての目次と貼付された版画すべてを収録する。図版枚数は7300枚にのぼり、作家は1200人以上となる。【野上紘子記念アート・ドキュメンテーション学会賞受賞】

[2008年1月]

近代日本美術教育の研究 明治時代

定価 41,800円 (税込)

ISBN978-4-8055-0246-4

金子一夫 著

B5判上製函入 本文818頁 挿図300点

本書は膨大な資料を駆使して、明治期美術教育の展開と各時期の特性、さらに個別的な諸問題を実証的に明らかにした論集である。一方、近代日本美術史と美術教育史に新たな視点を呈示した明治美術資料集成であり、明治期の美術関係者2500人余を収録した「美術家人名事典」でもある。

[1992年2月]

工部美術学校の研究 イタリア王国の美術外交と日本

定価 33,000円 (税込)

ISBN978-4-8055-0637-0

河上真理 著

B5判上製函入 本文640頁 挿図81点

イタリア人を教師として設立された日本初の官立西洋美術教育機関である工部美術学校について、その創設から閉校までの経緯を、日本だけでなくイタリアに残る膨大な公文書を読み解くことによって日伊双方より解明し、文化史、美術史、美術教育史的観点から考察する。

[2011年3月]

藤島武二研究 「東洋」の女性像 「帝国」の風景画

定価 19,800円 (税込)

ISBN978-4-8055-1086-5

児島 薫 著

A5判上製函入 本文448頁 図8頁 挿図216点

藤島武二(1867-1943)は明治から昭和前期までの長きにわたり日本の洋画界を牽引した人物であり、現在も高く評価されている。本書ではあらためて藤島の画業を彼が生きた時代の文脈に戻して考察し、画家が描いた女性像や風景画を、そうした時代の日本の理想を映し出すものとして読み解いていく。東アジアの近代美術史でも注目される藤島の画業について、豊富な新資料によって新たな視点から論じる研究書である。

[2026年3月]

明治前期油画基礎資料集成 東京芸術大学収蔵作品

定価 40,700円 (税込)

ISBN978-4-8055-0210-5

坂本一道・佐藤一郎・歌田眞介他 編

A4判上製函入 2分冊(研究篇210頁 図版篇264頁)

東京芸術大学には、明治初期の旧派(脂派)に属する高橋由一、百武兼行、山本芳翠、五姓田義松、浅井忠、小山正太郎等、14作家71点の油画作品が収蔵されている。これらの全作品を自然科学的調査を駆使して、各作家毎の絵画材料・絵画技術の基本資料を呈示、絵画作品の特質と変遷を明確にする。

[1991年2月]

明治後期油画基礎資料集成 東京芸術大学収蔵作品

定価 45,100円 (税込)

ISBN978-4-8055-0457-4

佐藤一郎 編

A4判上製函入 2分冊(研究篇276頁 図版篇320頁)

わが国の近代洋画の基礎を築いた黒田清輝等白馬会、太平洋画会の画家たちの油画作品76点を、科学技術の調査方法(側光線・紫外線蛍光・赤外線・X線・顕微鏡等)を駆使して各作品の材料・技法・保存・修復に関する詳細な情報とその研究成果を呈示する。

[2004年9月]

美術史における日本と西洋

国際美術史学会
東京会議1991

定価 10,680円 (税込)

ISBN978-4-8055-0303-4

CIHA 日本国内委員会 編

B5判上製函入 本文594頁

近年の美術史研究の発達は、広範な地域と時代を対象とするようになり、文学や歴史学の研究法や政治社会学の分析法などさまざまな研究法も用いるようになった。日本美術と西洋美術の相互の連関性を解明するために招聘された、内外の研究者22名による国際シンポジウムの公式報告書。英文併記。

[1995年9月]

月岡芳年伝 幕末明治のはざまに

定価 3,960円 (税込)

ISBN978-4-8055-0854-1

菅原真弓 著

A5判半上製力バー装 本文432頁 口絵24頁

滅びゆく浮世絵の歴史の掉尾に位置し、今なお鮮烈な印象を与え続ける月岡芳年。三十歳で明治維新に立ち会った絵師は、激動の時代を直視し、変転する「浮世」をリアルに描ききった。報道、伝記・回顧録などの資料を博搜し、作品主題と構図に緻密な分析を加えることで、血肉を備えた一人の浮世絵師の人物像を浮かび上がらせる。【芸術選奨文部科学大臣新人賞受賞】 [2018年10月]

題材による美術教育 「題材論的方法」の体系的研究

定価 30,800円 (税込)

ISBN978-4-8055-0433-8

立原慶一 著

B5判上製函入 本文308頁 挿図190点

題材(制作の動機づけとして児童・生徒に与えられる授業課題)を切り口として、その「題材」を「造形表現」にもたらすことの画面に実現された内容を意識的・批判的に観取する体験によって生徒の人間形成が意識的・無意識的に行われていくための実践的方法論の確立をめざした画期的教育論考。

[2003年1月]

ごせだ 五姓田義松史料集

定価 18,150円 (税込)

ISBN978-4-8055-0744-5

つのだ 角田拓朗 編

A5判上製函入 本文584頁 口絵16頁

70件以上の史料から、洋画家五姓田義松の実像を探る史料集兼研究書であり、各史料の翻刻と内容分析で構成され、義松の人物像や制作背景などを解明。修行記録や日記などの史料は、一人の日本人画家の克明な原資料であり、明治洋画史観の再考を促す意義をもち、文化史的基礎情報を提供する。

[2015年9月]

明治期美術展覧会出品目録

定価 19,800円 (税込)

ISBN978-4-8055-0288-4

東京国立文化財研究所 編

B5判上製函入 本文540頁

明治期の日本画壇を代表する五美術団体(鑑画会/明治美術会/白馬会/日本青年絵画協会/日本絵画協会)の展覧会出品データ13,500件をまとめた資料集。団体ごとに展覧会別・作家別に収録し、明治期の美術家・美術作品の総覧として、美術品、美術情報処理に携わる人々に必備の書。 [1994年6月]

明治期府県博覧会出品目録 明治4年～9年

定価 34,100円 (税込)

ISBN978-4-8055-0456-7

東京文化財研究所 編

B5判上製函入 本文842頁

明治期の博覧会は明治4年に始まり明治半ばまで10数年間に全国で80回以上開催された。近代へ移行する美術史の研究のみならず、社会、経済史的観点からもその出品目録は重要な資料となる。本書は明治9年までに開催された42件の府県博覧会の出品データを収録。出品者索引を付す。

[2004年5月]

昭和期美術展覧会出品目録 戦前篇

定価 27,500円 (税込)

ISBN 978-4-8055-0523-6

東京文化財研究所 編

B5判上製函入 本文1090頁

明治期・大正期の美術展覧会や内国・万国・府県博覧会などの美術品出品データを丹念に収録してきた「美術品出品目録」シリーズの第6弾の刊行。本書が対象とした時代区分としての「昭和期〔戦前篇〕」という呼称は、昭和元年より昭和20年の終戦までと限定した。

[2006年5月]

大正期美術展覧会の研究

定価 27,500円 (税込)

ISBN 978-4-8055-0491-8

東京文化財研究所 編

B5判上製函入 本文760頁 挿図300点

フランス・韓国・台湾の研究者も含め、気鋭の近代美術史研究者40余名の論考により、明治44年に開設された文部省美術展覧会から昭和5年までの各種美術展覧会や美術活動の展開・特質等、大正期美術の諸相を多方面から論述する。

[2005年5月]

黒田清輝著述集

定価 17,600円 (税込)

ISBN 978-4-8055-0550-2

東京文化財研究所 編

A5判上製函入 本文682頁 挿図36点

東京美術学校西洋画科の創設に際して指導者として参画し、日本近代洋画の確立者に位置づけられる黒田清輝。彼の遺した日記『黒田清輝日記〈全4巻〉』（小社刊）、及び文集『絵画の将来』（小社刊）の刊行に続き、当時の諸新聞、雑誌等に掲載された文献を収集し収録した著述集。

[2007年9月]

黒田清輝フランス語資料集

定価 19,800円 (税込)

ISBN 978-4-8055-0625-7

東京文化財研究所 編

A5判上製函入 本文636頁 口絵16頁 挿図10点

日本近代洋画の父、黒田清輝のパリ滞在初期（22歳）の日常生活をうかがわせ、清輝の肉声そのものを感じさせる、邦語資料とは大いにニュアンスの異なる記事を含む新出の資料集。既刊資料を補完する、重要な日記・書簡の翻訳を待望の原文併載スタイルで収録。

[2010年3月]

美術研究作品資料 第5冊 黒田清輝《湖畔》

定価 6,600円 (税込)

ISBN 978-4-8055-0571-7

東京文化財研究所 編

A4判上製カバー装 本文98頁 口絵27頁 挿図59点

日本近代洋画壇の指導者、黒田清輝の代表作の一点《湖畔》。この名作が誕生から今日までどのように見られ、語られてきたかを、画家とモデル、創作のプロセス、作品の移動、公開保存、評価の変遷など、これまでの調査と収集してきた資料を駆使して、光学的画像解析とともに多角的に検討する。

[2008年3月]

美術研究作品資料 第6冊 **横山大観 《山路》**

定価 7,700円 (税込)

ISBN978-4-8055-0699-8

東京文化財研究所 編

A4判上製カバー装 本文96頁 (オールカラー)

近代日本絵画の巨匠、横山大観が43歳のときに描き、第5回文部省美術展覧会に出品され、大胆な筆致で“新南画”の先駆けとなった《山路》。所蔵する永青文庫と東京文化財研究所の共同研究により、近赤外線反射撮影および蛍光X線分析での定性分析、高精細画像撮影による光学的解析で多角的に本作品を検証する。

[2013年3月]

木村荘八日記〔明治篇〕 校註と研究

定価 13,200円 (税込)

ISBN978-4-8055-0427-7

東京文化財研究所・小杉放菴記念日光美術館 編

A5判上製函入 本文480頁 口絵24頁

木村荘八は岸田劉生らとヒュウザン会、生活社、パンの会、草土社と活動を共にし、大正、昭和期の画壇に大きな足跡を遺した。

彼の遺した詳細な日記のうち、多感な青年期の日記（明治44年から大正2年）を、詳細な註を付し、研究論文8編によって多角的に論じた資料研究を公刊する。

[2003年2月]

東京文化財研究所七十五年史〔全2巻〕 セット定価 80,300円 (税込)

東京文化財研究所 編

本書は、前身の帝国美術院付属美術研究所が昭和5年に設立されてから平成17年で75周年を迎えたのを機に、これまで行ってきた事業の記録と収集された資料の目録を掲載し、有形、無形の文化財に関する調査・研究・保存および関連分野への資料提供を図ろうとするものである。

本文編

定価 38,500円 (税込)

ISBN978-4-8055-0611-0

B5判上製函入 本文560頁 挿図153点

[2010年3月]

資料編

定価 41,800円 (税込)

ISBN978-4-8055-0573-1

B5判上製函入 本文912頁

[2008年4月]

児島虎次郎研究

定価 13,200円 (税込)

ISBN978-4-8055-0490-1

松岡智子 著

A5判上製函入 本文508頁 口絵48頁 挿図81点

わが国で最初の西洋美術館、大原美術館のコレクションの基礎的収集を行った児島虎次郎について、彼の日記や彼宛のフランスやベルギーの画家たちの未公開書簡などの新史料に基づき画家、美術品収集家、文化交流者としての3つの側面から新たに捉え直した。

[2004年11月]

藤岡作太郎「李花亭日記」〈美術篇〉

定価 19,250円 (税込)

ISBN978-4-8055-0855-8

村角紀子 編

A5判上製函入 本文720頁 口絵16頁

明治期の国文学者藤岡作太郎(1870～1910)の著した「李花亭日記」(石川近代文学館蔵)から、美術との関連の深い明治32～36年の日記と紀行文を選出して翻刻する。

作品鑑賞記や寺社拝観記、美術研究者や文学者らとの交流が綴られるなど、名著『近世絵画史』(明治36年刊)執筆の背景のみならず、明治期美術界の状況を知るうえで貴重な史料の公開。 [2019年3月]

日本近代美術と西洋 国際シンポジウム 1988

定価 10,680円 (税込)

ISBN978-4-8055-0248-8

明治美術学会 編

B5判上製函入 本文334頁 口絵26頁

日本の近代美術は、西欧の影響と旧来の伝統という二つの文化、二つの感受性の出会いと葛藤の産物である。1988年の国際シンポジウムは、国内外の研究者44名が会して絵画・彫刻・建築・文学等多方面から日本の近代を論じ合う画期的な試みであった。16名の研究発表を集録。

[1992年4月]

お雇い外国人キョッソーネ研究

定価 9,350円 (税込)

ISBN978-4-8055-0373-7

明治美術学会・勸印刷局朝陽会 編

A5判上製函入 本文422頁 口絵28頁 挿図73点

大蔵省印刷局のお雇い外国人キョッソーネは、紙幣・切手・公債等の原版を彫刻し、本格的な銅版技術を与え、幾多の弟子を育成、本邦における近代印刷の基礎を築いた。さらには明治天皇や数多くの元勳の肖像画を制作し、原イメージを歴史上に定着させた。最新の研究と資料による基礎文獻。

[1999年6月]

新訂増補 岡倉天心と五浦

定価 3,080円 (税込)

ISBN978-4-8055-0891-6

森田義之・小泉晋弥 編

A5判カバー装 本文326頁 口絵8頁

近代日本を代表する思想家・岡倉天心が晩年に居を定めた茨城県五浦での事績を中心に、天心が近代日本に及ぼした影響を多面的に論じた論文集。1998年刊行の旧版を全面的に改訂し、東日本大震災による六角堂の被災と再建を経て、新しい知見を盛り込んだ5編の論考を追加しての刊行。

[2021年3月]

にながわのりたね 蜷川式胤「奈良の筋道」

定価 14,300円 (税込)

ISBN978-4-8055-0492-5

米崎清実 編著

A5判変形上製函入 本文480頁 口絵1丁 挿図110点

「奈良の筋道」を筆録した蜷川式胤は好古家として著名であるが政府の実務官僚でもあった。彼の事蹟を明らかにすることは明治国家の形成過程や政府の文化行政を検証していくことと同様の意味をもつ。歴史学、美術史、文化財学など幅広い研究分野から待望されていた文化財調査の記録。

[2005年2月]

蜷川式胤「八重の残花」

定価 13,200円 (税込)

ISBN978-4-8055-0853-4

米田雄介 編

A5判変形上製函入 本文268頁 口絵64頁

正倉院宝物殿の本格的調査研究の資料である、明治政府に出仕していた好古家蜷川式胤の日記「八重の残花」を翻刻、現存する正倉院所蔵の宝物とあわせて詳述する、正倉院宝物のみならず日本の文化財研究に広く貢献する一書。

[2018年4月]

蜷川式胤「^{らくよう}椎の落葉」

定価 19,800円 (税込)

ISBN978-4-8055-0986-9

米田雄介 編著

A5判変形上製函入 本文648頁 口絵16頁

明治時代前期の古器旧物の調査や保護、博覧会の開催などを中心になって担った好古家蜷川式胤が、明治15年(1882)までに記した日記「椎之落葉」全6巻の翻刻。『観古図説—陶器之部』制作や、シーボルトやモースなど当時来日していた外国人との交流など、式胤の晩年の活動を知ることができる本書は歴史学や美術史、陶磁器の歴史など、幅広い分野の研究の基本資料である。

[2024年10月]

西洋美術史

デューラーの遍歴時代 初期素描の研究

定価 28,600円 (税込)

ISBN978-4-8055-0616-5

青山愛香 著

B5判上製函入 本文334頁 挿図118点

本書は謎の多いデューラーの遍歴時代に焦点をあて、第一次イタリア旅行に赴く直前の4年間で、若き画家の様式確立上大きな意味を持つこと、また従来の説を覆して、その時代の作品をデューラーのものと断定し、それらを豊富な図版と具体的な作品研究から明らかにした独創的な見解の公刊である。

【辻莊一・三浦アンナ記念学術受賞】

[2009年12月]

デューラーと名声 芸術家のイメージ形成

定価 25,300円 (税込)

ISBN978-4-8055-0397-3

秋山^{あきら} 聰 著

B5判上製函入 本文372頁 図18点 挿図213点

生前より名声を保ち続けた画家デューラーが、いかに名声を意識し希求したかを分析する。作品中に仕掛けられた技量の誇示などを指摘、美術の展開に果たした名声のメカニズムの役割を明らかにする。巻末に15、16世紀ヨーロッパにおける「描かれた蝇」の作例を網羅した作品カタログを掲載する。

【地中海学会ヘレンド賞受賞】

[2001年2月]

アルベルティ「芸術論」 [新装普及版]

定価 8,800円 (税込)

ISBN978-4-8055-0638-7

L・B・アルベルティ 著 森 雅彦 編著

A5判上製カバー装 本文342頁 挿図60点

イタリア・ルネサンス期における万能人といわれる天才、レオン・バッティスタ・アルベルティの三大芸術論のうち「彫刻論」に加え、「都市ローマ記」「画家における点と線」「絵画の初程」などの小論も収録。原典の翻訳に加え、研究・解題篇としてアルベルティ学の論究をはかる労作。

[2011年5月]

ルネサンス期トスカーナのステンドグラス

定価 27,500円 (税込)

ISBN978-4-8055-0784-1

伊藤拓真 著

A4判上製函入 本文300頁 図54点

ルネサンス期トスカーナで独自の制作者層が出現したことにより、イタリアのステンドグラス芸術は北方諸国と異なる展開を見せた。現存作品や文書資料を複数の文脈で分析し、ステンドグラス芸術に関わる諸問題を個別に取り上げ、ルネサンス期トスカーナにおけるステンドグラスの展開を編年的に把握し考察。【地中海学会ヘレンド賞受賞】

[2017年2月]

美術家列伝〔全6巻〕

ジョルジョ・ヴァザーリ 著

森田義之・越川倫明・甲斐教行・宮下規久朗・高梨光正 監修

西洋美術史における不朽の歴史的名著、待望の全訳刊行。美術史研究の第一線で活躍する研究者による新訳に加え、各伝記ごとに解説と詳細な註、可能な限り多数の写真図版を掲載した邦訳決定版。

〔第一巻〕（第1回配本）

定価 33,000円（税込）

ISBN978-4-8055-1601-0

森田義之・越川倫明・野村幸弘・谷古宇尚・高梨光正・吉澤早苗 訳

A4判上製函入 本文434頁 挿図200点

献辞・総序に始まり、三つの芸術（建築、彫刻、絵画）の技法論と、ルネサンスの幕開けをなす、チマプーエ、ジョットにはじまる14世紀の美術家の30編の伝記を収録。 [2014年3月]

〔第二巻〕（第5回配本）

定価 33,000円（税込）

ISBN978-4-8055-1602-7

森田義之・越川倫明・甲斐教行・宮下規久朗・高梨光正・瀬分 緑・芳野 明・

小林もり子・京谷啓徳・飛ヶ谷潤一郎・高橋健一・盛本直美・森田優子・荒本文果 訳

A4判上製函入 本文760頁 挿図450点

ブルネッレスキ、ドナテッロ、マザッチョ、ピエロ・デッラ・フランチェスカ、アルベルティ、ボッティチェリなど15世紀に西洋美術に革新をもたらした美術家の伝記54編を収録。 [2020年3月]

〔第三巻〕（第2回配本）

定価 33,000円（税込）

ISBN978-4-8055-1603-4

森田義之・越川倫明・甲斐教行・宮下規久朗・高梨光正・足立 薫・石澤靖典・

飛ヶ谷潤一郎・高橋健一・深田麻里亜・坂本篤史・友岡真秀 訳

A4判上製函入 本文556頁 挿図350点

ルネサンスの最盛期を彩る16世紀の美術家たちの生涯を著した第三部のうち、その序論からレオナルド・ダ・ヴィンチ、ラファエッロからパルミジャーノにいたる36編を収録。 [2015年3月]

〔第四巻〕（第3回配本）

定価 33,000円（税込）

ISBN978-4-8055-1604-1

森田義之・越川倫明・甲斐教行・宮下規久朗・高梨光正・瀬分 緑・飛ヶ谷潤一郎・

宇埜直子・深田麻里亜・坂本篤史・友岡真秀 訳

A4判上製函入 本文450頁 挿図320点

ヴァザーリと同時代に活躍した16世紀の画家、パルマ・イル・ヴェッキオからバッチョ・バンディネリまで、多彩なジャンルと地域にまたがる美術家たち16編の伝記を収録。 [2016年2月]

〔第五巻〕（第4回配本）

定価 33,000円（税込）

ISBN978-4-8055-1605-8

森田義之・越川倫明・甲斐教行・宮下規久朗・高梨光正・小林もり子・飛ヶ谷潤一郎・

高橋健一・宇埜直子・深田麻里亜・坂本篤史・友岡真秀・山本 樹 訳

A4判上製函入 本文520頁 挿図320点

少年時代からの友人であったサルヴィアーティをはじめ、ガローファロ、ダニエーレ・ダ・ヴォルテッラ、タッデオ・ブッカリなど16世紀の美術家の伝記17編を収録。 [2017年2月]

〔第六巻〕（第6回配本）

定価 33,000円（税込）

ISBN978-4-8055-1606-5

森田義之・越川倫明・甲斐教行・宮下規久朗・高梨光正・小林もり子・深谷訓子・

古川 萌・友岡真秀・山本 樹・竹本芽依 訳

A4判上製函入 本文504頁 挿図320点

『美術家列伝』掉尾を飾る、ミケランジェロ、ティツィアーノそしてヴァザーリ自身の自伝など伝記10編を収録。 [2022年12月]

ベネデット・ヴァルキ パラゴネ 諸学芸の位階論争

定価 6,600円 (税込)

ISBN 978-4-8055-0962-3

オスカー・ベツチュマン／トリスタン・ヴェディゲン 編 清瀬みさを・小松原郁 訳

A5判上製カバー装 本文364頁

ルネサンス期、イタリア美術界で絵画を中心に美術と学問、絵画と彫刻、美術と文学との優劣比較をめぐる熾烈を極めた論争、「パラゴネ」（諸学芸位階論争）。それは、空虚な観念論ではなく、美術家たちがしのぎを削った革新的な創作活動を通じて、美術各分野の存在根拠を問う、実存的な探究であった。美術家の社会的地位向上と「美術」という概念の形成を導いた西洋美術史の結節点となるパラゴネ論争調停の要、ベネデット・ヴァルキ（1503～1565）の論著、初の完訳。 [2021年12月]

ジョルジョーネ解説

定価 3,520円 (税込)

ISBN 978-4-8055-0562-3

エドガー・ウィント 著 森田義之・甲斐教行 訳

A5判上製カバー装 本文180頁 図4頁 挿図54点

16世紀初頭にヴェネツィアで活躍した画家ジョルジョーネの残した《テンペスタ》、《三人の哲学者》、《刺客》、フォンダコ・デイ・テデスキの壁画の4作品を、図像解釈学の泰斗であるエドガー・ウィント（1900～71）が読み解いたモノグラフ。刊行後の反響、研究などを解題で補足する。 [2009年1月]

アルブレヒト・デューラーの芸術

定価 36,300円 (税込)

ISBN 978-4-8055-0566-3

ハインリッヒ・ヴェルフリン 著 永井繁樹・青山愛香 訳

B5判上製函入 本文384頁 図1丁 挿図155点

アルブレヒト・デューラーについて、20世紀初頭に一世を風靡したスイスの美術史家であるヴェルフリン（1864～1945）が、生涯において個人の画家のみを対象に論述した唯一の専攻研究である。偉大な2人の芸術家・芸術史家の500年スパンの対話が、時代を超えて届いた傑作である。

[2008年2月]

芸術価値論 美的価値体験

定価 34,100円 (税込)

ISBN 978-4-8055-0672-1

ルドルフ・オーデブレヒト 著 太田喬夫 訳

B5判上製函入 本文430頁 挿図24点

1927年に刊行されたルドルフ・オーデブレヒト（1883～1945）の名著であり、その眼目は芸術創造の内的法則性を追求し、美的意識の批判的な基礎づけを企図したもの。芸術の創造性と価値を美学における現象学的芸術学の根本問題として追求し、美学史上、独自の芸術体験論を確立させた重要文献の本邦初訳。 [2011年11月]

カーレル・ファン・マンデル「北方画家列伝」注解

定価 35,200円 (税込)

ISBN 978-4-8055-0705-6

尾崎彰宏・幸福 輝・廣川暁生・深谷訓子 編・訳

B5判上製函入 本文880頁 挿図245点

本書はファン・マンデル著『絵画の書』第4巻「北方画家列伝」の翻訳・訳注・解説論文からなる。総勢94名もの画家たちについて語った、15～17世紀にいたる西洋美術を理解するための基本的文献であり、ネーデルラントの画家たちの生涯と作品について語られた貴重な歴史資料であると同時に「作品」でもある。 [2014年2月]

知性の眼 イタリア美術史七講

定価 3,080 円 (税込)

ISBN978-4-8055-0543-4

小佐野重利 著

A5判上製カバー装 本文194頁 挿図104点

デジタル画像や動画ばかりを見るのに慣れてしまったわれわれには、美術を見るための「知性の眼」を保ち続けるのは至難のことである。日本におけるルネサンス美術史研究を代表する筆者による、「視覚の時代」15世紀イタリア美術を軸に、西洋美術を堪能するための魅惑の「扉」となる7つの思索。

[2007年4月]

新古典主義

定価 4,950 円 (税込)

ISBN978-4-8055-0314-0

ヒュー・オナー 著 白井秀和 訳

A5判上製カバー装 本文312頁 挿図109点

古代への憧憬や大革命のヴィジョンなど、18世紀後期から19世紀初頭に勃興した西欧新古典主義の美学や様式を、多数の図を使って判りやすく語った本書は、ダヴィッド、カノーヴァなど絵画、彫刻、工芸、建築の多様な分野に言及し、この美術思潮の本質を説く名著である。

[1996年9月]

西洋美術史論考 北方ヨーロッパの美術

定価 26,400 円 (税込)

ISBN978-4-8055-0520-5

勝 國興 著

B5判上製函入 本文456頁 図16点 挿図195点

北方世界に甚大な影響を与えた画家デューラーを核にして、フランスからドイツへの美術の伝播の問題やイタリア・ルネサンスの人文主義との関係、ドイツ民族のアイデンティティの追究や表現といった北方美術の特質を中世から現代まで視野に取めて論ずる著者畢生の論集。

[2006年2月]

美術史学の系譜

定価 13,750 円 (税込)

ISBN978-4-8055-0798-8

加藤哲弘 著

A5判上製函入 本文484頁 図2点

美学・比較美術論の第一人者である著者が、ドイツ語圏で展開された「新しい美術史学」の成立の過程を概観し、美術史学が誕生する背景を明らかにして、近代美術史学の「系譜」形成を包括的に多様な視点から論じる。

[2018年1月]

カント美学の根本概念

定価 27,500 円 (税込)

ISBN978-4-8055-0514-4

金田千秋 著

B5判上製函入 本文436頁

近代美学の最重要文献である『判断力批判』において著者カントが中心に据えた《ästhetisch》(アステティシユ)を徹底的に検討し、その誕生と普及、変容の過程を解き明かす。近代を生成した中心的概念の検証に他ならず、未だ乗り越えることのできない大命題について論究する。

[2005年10月]

プラートの美術と聖帯崇拝

定価 27,500円 (税込)

ISBN978-4-8055-0494-9

金原由紀子 著

B5判上製函入 本文336頁 口絵12頁 挿図148点

イタリアの小都市プラートにあえて目をむけ、プラートが聖母マリアの遺物「聖帯」を都市の象徴として位置づけたプロセスを解明し、プラートの美術作品をその表象として読み解くという独創的な視点で、政治・社会史的コンテクストから図像・プログラム上の諸問題を論じる画期的研究。

【地中海学会ヘレンド賞受賞】

[2005年1月]

ニコラ・ブッサンとイエズス会図像の研究

定価 28,600円 (税込)

ISBN978-4-8055-0537-3

木村三郎 著

B5判上製函入 本文400頁 口絵16頁 挿図179点

17世紀フランスの画家ニコラ・ブッサンの描いたイエズス会図像とフランシスコ・ザビエルに関する研究を主題に、フランス近代研究と東西交渉史という観点から図像学、出版史、南蛮学、実証主義研究、「場」の理論の方法など、様々な手法を駆使して新知見を提示した、著者20年にわたる研究成果。

[2007年2月]

フランス近代の図像学

定価 27,500円 (税込)

ISBN978-4-8055-0850-3

木村三郎 著

B5判上製函入 本文430頁 口絵12頁

フランス近代において常に美術史の中心にあったニコラ・ブッサンを中心とした、フランス17世紀の絵画における図像表現のありかたと、18世紀におけるその受容に関する研究集成。神話図像、宗教図像、歴史図像、寓意図像という視点から行った、ニコラ・ブッサンの物語表現とその後代への影響を明らかにする。

[2018年1月]

新古典主義美術の系譜

定価 3,850円 (税込)

ISBN978-4-8055-0884-8

木村三郎 監修

A5判上製カバー装 本文264頁

18世紀中頃から19世紀初頭にかけての西欧の美術・建築作品について使われる批評用語である「新古典主義」。本書は1点の作品に焦点を合わせた作品分析によって、また時代を通観した視点からの、「新古典主義」時代のフランスの美術と建築の展開に迫る8篇の論考を収録。

[2020年11月]

ボルソ・デステとスキファノイア壁画

定価 28,600円 (税込)

ISBN978-4-8055-0431-4

京谷啓徳 著

B5判上製函入 本文266頁 口絵18頁 挿図258点

フェッラーラ君主ボルソ・デステの注文により制作されたスキファノイア宮殿「12ヶ月の間」装飾壁画においていかに彼が称揚されているか、すなわち壁画における「君主称揚のレトリック」の諸相を明らかにし、美術作品がルネサンス君主のプロパガンダの場としていかに機能しているかを考究する。

【マルコ・ポーロ賞・地中海学会ヘレンド賞受賞】

[2003年2月]

イメージ制作の場と環境

西洋近世・近代美術史に
おける図像学と美術理論

定価 14,300円 (税込)

ISBN978-4-8055-0862-6

近世美術研究会 編

A5判上製函入 本文420頁

日本大学・神戸大学・名古屋大学を中心に開催されてきた研究会に、慶應義塾大学・東京藝術大学を加えた近世美術研究会における5年に亘る研究会の成果として、近世・近代の西洋美術史における図像学による方法論と美術理論の研究を軸として、学術性の高い研究成果を広く世に問うことを目的に、20名の論考を収録する。

[2018年12月]

11世紀イベリア半島の装飾写本

“モサラベ”美術から
ロマネスク美術へ

定価 30,800円 (税込)

ISBN978-4-8055-0671-4

久米順子 著

B5判上製函入 本文296頁 図絵48頁

10世紀の“モサラベ美術”から12世紀のロマネスク美術へ。イベリア半島独自の様式から汎ヨーロッパ的な美術様式へ。この変化は、なぜ、どのように、11世紀のイベリア半島で起こったのか。政治・社会・宗教的要因を踏まえ、多数の写本の実見調査を通して、装飾写本における様式移行の諸相を考察した労作。【辻莊一・三浦アツナ記念学術奨励賞受賞】

[2012年11月]

ローマ

ある都市の肖像312～1308年

定価 38,500円 (税込)

ISBN978-4-8055-0713-1

リチャード・クラウトハイマー 著 中山典夫 訳

B5判上製函入 本文568頁 挿図260点

ローマ研究の大家、リチャード・クラウトハイマーは、前人未到の中世ローマの建築・壁画・モザイク・彫刻について考察し、該博な知識と繊細な感性とがあいまった深い洞察のもと、中世都市ローマの肖像を生き生きと見事に描ききった。現在も美術史のみならず社会史をもゆるがす、偉大な世界的成果である。

[2013年7月]

ボッシュ「悦楽の園」の聖書における寓意的解釈

定価 44,000円 (税込)

ISBN978-4-8055-0545-8

ピーター・グラム 著

A4判上製函入 2分冊 (研究篇516頁 図版篇252頁)

ヒエロニムス・ボッシュの「悦楽の園」は、多くの研究者によって宗教的かつ教訓的な絵と見なされているにも関わらず、その内容は十分に解明されているとはいえない。本書は、聖書を中心に説教集や教訓書などの宗教書や当時の百科全書にあたり、作品に描かれた寓意を解き明かす。[全篇英文版]

[2007年6月]

西洋版画の歴史と技法

定価 4,730円 (税込)

ISBN978-4-8055-0703-2

アントニー・グリフィス 著

越川倫明・佐藤直樹・小林亜起子・袴田紘代・伊藤彰子・武笠由以子 訳

B5判カバー装 本文190頁 挿図135点

世界最大の版画コレクションのひとつである大英博物館の版画素描部長を務めた著者が、さまざまな技法とその歴史的展開を、多くの図版と明快な文章で語る。西洋版画を知るための必携の入門書。

[2013年9月]

美術史学の歴史

定価 30,800円 (税込)

ISBN978-4-8055-0289-1

ウッド・クルターマン 著 勝 國興・高阪一治 訳

B5判上製函入 本文556頁 挿図149点

プラトンの古代から20世紀の現在に至るまでの美術史学について、その業績の本質・意義等の解題を加えつつ通史的に辿った世界で初的美術史家人名辞典の日本語版。登場する関連美術家＝美術史家は実に1192人に達し、美術史研究者はもとより図書館等のツールとして必備の辞典である。

[1996年5月]

レオンの「960年聖書」研究

定価 21,450円 (税込)

ISBN978-4-8055-0782-7

毛塚実江子 著

A5判上製函入 本文416頁 口絵16頁

スペインの古都レオンのサン・イシドロー王立参事会聖堂に所蔵されている960年の年記を持つ聖書(『960年聖書』)は、初期中世キリスト教美術を代表する写本作例である。『960年聖書』のモノグラフ研究であると同時に、新たな視点から挿絵群を分析し、制作者の意図に迫る試みである。

[2017年2月]

アンドレ・フェリビアン「王立絵画彫刻アカデミー講演録」註解

定価 19,800円 (税込)

ISBN978-4-8055-0997-5

栗田秀法・望月典子 共編訳

A5判上製函入 本文428頁

アンドレ・フェリビアン(1619-95)によって、ルイ14世治下の1667年に、王立絵画彫刻アカデミーで開催された7回の講演会をまとめた「王立絵画彫刻アカデミー講演録」は、フランスを「芸術の国」へと誘い、近代に至る芸術上の変革の起点となった重要資料の翻訳に註解を付す。

[2025年3月]

17世紀オランダ美術と〈アジア〉

定価 9,350円 (税込)

ISBN978-4-8055-0859-6

幸福 輝 編

A5判上製カバー装 本文472頁 口絵8頁

フェルメール作品に描かれる中国磁器、レンブラントの版画に用いられた日本の和紙一。本書は2017年、盛会のうちに終了した国立西洋美術館主催のシンポジウムを受けた論集であり、17世紀オランダ美術について絵画のみならず、版画、磁器や漆器、カリグラフィーなど、多彩な分野にまたがってアジア、わけでも日本や中国を中心にした東アジアとの関連性を考察する本邦初の試みである。

[2018年12月]

ヤン・ファン・エイク史料集成

一宮廷・
作品・伝記

定価 19,800円 (税込)

ISBN978-4-8055-0984-5

幸福 輝・今井澄子・杉山美耶子 編著

A5判上製函入 本文530頁

西洋絵画史上、油彩画の発展に決定的な役割を果たした15世紀フランドル絵画の巨匠ヤン・ファン・エイクに関して、同時代のみならず、後世の重要な史料で言及される箇所を集成・編集した翻訳書。それぞれの史料についての解説を付す。同時代・後世でのフランドル絵画についての知見はもとより、油彩画の歴史をふまえる上で必携の資料本。

[2024年12月]

西洋美術論考

古代末期・中世から近代へ

定価 47,300 円 (税込)

ISBN 978-4-8055-0409-3

越 宏一 著

B5判上製函入 本文 746 頁 口絵 16 頁 挿図 569 点

著者はウィーン学派オットー・ベヒトに師事し、ライヒエナウ壁画の総合的研究で著名である。本書は著者が西洋古代末期・中世から近代までの美術について発表した論考・エッセイを集めたもので、様々な作品を頭脳と眼で考察し、様式的・図像学的課題を実証的に論証した労作である。

[2002年2月]

ルクス・アルティウム 越宏一先生退任記念論文集

定価 30,800 円 (税込)

ISBN 978-4-8055-0623-3

越宏一先生退任記念論文集刊行会 編

B5判上製函入 本文 400 頁 挿図 279 点

オットー・ベヒト、オットー・デームスといったウィーン美術史学派の優れた美術史家の薫陶を受け、広範な西洋中世美術史を学び、国内の西洋美術史研究を領導してきた東京藝術大学教授・越宏一先生の退任に際し、指導を受け、あるいは学風に接した34人の執筆者による、献呈論文集。

[2010年3月]

ロココを織る フランソワ・ブーシェによる ボーヴェ製作所のタピスリー

定価 16,500 円 (税込)

ISBN 978-4-8055-0739-1

小林亜起子 著

A5判上製函入 本文 464 頁 口絵 8 頁 挿図 200 点

フランソワ・ブーシェは、ロココ時代を代表する画家であるとともに、一世を風靡した装飾美術のデザイナーでもあった。

本書はフランスの社会史や文学史の視点を交えつつ、ブーシェがボーヴェ製作所のためにデザインした6つのタピスリー連作を詳細に考察し、多彩な芸術家の新たな姿を提示する意欲的成果。 [2015年6月]

人文学としてのアルス 西洋における人文 主義的藝術の系譜

定価 25,300 円 (税込)

ISBN 978-4-8055-0363-8

斎藤 稔 著

B5判上製函入 本文 526 頁 口絵 24 頁 挿図 104 点

テクネーあるいはアルスとしての芸術の根本問題を問う試みとして古代ギリシャ・ローマ、キリスト教の中世、ルネサンスの時代を主たる対象にして造形芸術の成立と展開、その歴史的検証と理論的吟味を進め、西欧の文化・文明に脈々と流れる人文主義について論究する。

[1999年1月]

ディドロ「絵画論」の研究

定価 44,000 円 (税込)

ISBN 978-4-8055-0693-6

佐々木健一 著

B5判函入 3分冊 (上製2冊・並製1冊) 本文 976 頁

本書は、詳細な全文註解とディドロの美学思想全体の展開や総括などの諸考察および対訳形式の校訂版原典という3分冊からなり、美学史上重要な著作である『絵画論』を主題とする世界唯一のモノグラフで、著者35年にわたる研究の集大成である。

[2013年1月]

ジョットの藝術 スクロヴェーニ礼拝堂壁画を中心として

定価 19,800円 (税込)

ISBN978-4-8055-0184-9

佐々木英也 著

B5判上製函入 本文446頁 口絵32頁 挿図213点

中世イタリア最大の画家ジョットは、アッシジやパドヴァに遺る壁画作品によって今も多大な感銘を与え続けている。本書はジョットの生涯の活動を跡づけ、ルネサンスの先駆者といわれる所以を明らかにし、「聖母マリア伝」及び「キリスト伝」壁画を論究し、東西の図像関係を考察した力作。

【マルコ・ポーロ賞受賞】

[1989年7月]

聖痕印刻 ジョットの後期壁画をめぐる

定価 19,800円 (税込)

ISBN978-4-8055-0304-9

佐々木英也 著

B5判上製函入 本文392頁 口絵32頁 挿図154点

サンタ・クロチェ聖堂の聖フランチェスコの「聖痕印刻」を中心に、フランチェスコの受痕をめぐる、その神学的意義や精神史的批判、さらに原典批判、精神医学的解釈など様々な問題を視野に入れ、ジョットの後期壁画を美術史、キリスト教史に位置づける。

[1995年11月]

ファンシー・ピクチャーのゆくえ

定価 6,600円 (税込)

ISBN978-4-8055-0964-7

英国における「かわいい」美術の誕生と展開

佐藤直樹 著

A5判上製カバー装 本文520頁 口絵8頁

ゲインズバラとレノルズによって確立された、英国18世紀「ファンシー・ピクチャー」。19世紀の復興を経て、拡大する大衆文化のなかで人気を博し、版画や写真、唯美主義、あるいはパリの象徴主義やポスト印象派を経由してフィンランドの女性画家に至るまで、広範な時空にまたがるその展開は、「かわいい」に注目する現代を鏡のように映し出す。

[2022年3月]

死者を記念する 古代ギリシアの墓辺図研究

定価 18,700円 (税込)

ISBN978-4-8055-0792-6

篠塚千恵子 著

A5判上製函入 本文782頁 口絵8頁 挿図344点

葬礼図像として「墓辺図」が現れるようになったのはどのような背景があったのか、アッティカの墓の美術の歴史を考古学的に考察した力作。【地中海学会賞受賞】

[2017年11月]

アルブレヒト・デューラーの芸術

定価 27,500円 (税込)

ISBN978-4-8055-0338-6

下村耕史 著

B5判上製函入 本文416頁 口絵8頁 挿図195点

ドイツ・ルネサンス最高の芸術家デューラーが遺した多数の作品や芸術論を手がかりに、彼が理想とした芸術の実現のための鍵となるkunst（技芸）やnatur（本質）などの様々な観念の考察を通して、理論と実践の奥義を解明した著者30年の研鑽の力作である。

[1997年10月]

デューラー 「測定法教則」 注解

定価 28,600円 (税込)

ISBN978-4-8055-0578-6

下村耕史 訳・編

B5判上製函入 本文362頁 挿図254点

芸術表現の奥義には、科学としての体系化が根源にあることを説いたアルブレヒト・デューラーが、絵画実践の方法論としてユークリッド幾何学や立体の四次元解析図法などを援用して考察した作図法の翻訳・注解と、この文献の美術史上の位置や数学史からも論究した不世出の画家の著述解釈。

[2008年11月]

アルブレヒト・デューラー 「築城論」 注解

定価 15,400円 (税込)

ISBN978-4-8055-0714-8

下村耕史 編著

A4判上製函入 本文166頁 挿図58点 折込図4図

巨匠デューラーが、ハンガリーを蹂躪したトルコ軍に対し強固な要塞を築城する必要から著した著書。単なる要塞の構築だけでなく、フィラレーテを初めイタリアで様々に語られた「理想都市」構想を含むルネサンス諸命題の系譜の探求にとっても重要な西洋美術・建築史研究に必備の難解極まる文献の本邦初訳。

[2013年6月]

美術史「ウィーン学派」 オーストリアにおける
ドイツ語圏学問活動百年の回顧

定価 4,180円 (税込)

ISBN978-4-8055-0393-5

ユーリウス・フォン・シュロツサー 著 細井雄介 訳

A5判上製カバー装 本文220頁

ヴィクトリア、リーグルなど美術史の中の美術史ともよぶべき研究の中核を形成し、優れた人材と学術的貢献を多数生み出したウィーン学派のそれぞれの学問的事跡や履歴を詳細かつ客観的に論述。168名の学派年代順人名一覧、著者の経歴、著作目録他、ゴンブリッチによる師の想い出、索引を掲載する。

[2000年11月]

美術文献解題

定価 50,600円 (税込)

ISBN978-4-8055-0745-2

ユリウス・フォン・シュロツサー 著 勝 國興 訳

B5判上製函入 本文960頁

シュロツサー『美術文献解題』は、西欧の美術作品に言及した美術文献（第1次文献初版本800余点）を網羅し、解説と批判を加えた解題書である。本書は1924年ドイツ語初版を底本とし、イタリア語版、フランス語版を並行参照、増補した第2次研究文献と最初の解題を収めた本邦初の『美術文献解題』の完全訳本。

[2015年10月]

ギリシア陶器

定価 6,600円 (税込)

ISBN978-4-8055-0890-9

エリカ・ジーモン 著 芳賀京子・藤田俊子 訳

A5判上製カバー装 本文568頁 図絵8頁

全世界にちらばる名だたる古代ギリシア陶器を集成し、182件378点の図版を収めて、ひとつひとつに詳細な解説と分析を付す。刊行以来ギリシア美術鑑賞を志すすべての読者に格好の道案内となり、様々な入門書やカタログの記述に影響を与えてきた「新しい古典」の全訳。

[2021年2月]

ヒルデガルト・フォン・ビンゲン

幻視の世界、
写本の挿絵 定価 19,800円 (税込)
ISBN 978-4-8055-0965-4

鈴木桂子 著

A5判上製函入 本文648頁 口絵8頁

ヒルデガルト・フォン・ビンゲン(1098-1179)の三大幻視著作に収められた数々の幻視。本書はそれらのヴィジュアルな側面を加齢という観点と造形世界との関連で追究し、幻視を描く写本挿絵について斬新な解釈を展開する。またヒルデガルトが挿絵原作者かという問題にも著者ならではの的方法論により深く立ち入る。幻視世界に焦点をあて、挿絵がどこにされた写本すべてを扱った国内外初の試み。独創的視点からヒルデガルト理解に新たな一歩を切り開く。

[2022年11月]

レオナルドの手稿、素描・素画に関する基礎的研究

定価 71,500円 (税込)
ISBN 978-4-8055-0493-2

裾分一弘 著

B5判上製函入 本文818頁 挿図203点

ダ・ヴィンチが書き遺した膨大な手稿や画帖など絵画作品以外の文化財を徹底的に点検し、内容、年代、資料としての価値、収蔵機関など、あらゆる情報を提供する著者畢生の労作。ダ・ヴィンチの全貌を研究する上で必須の、周辺の記録をも含めた500点余の図版を取める資料篇と研究篇よりなる。

[2004年12月]

古代アッティカ杯

ギリシア美術の比例と装飾の研究

定価 16,500円 (税込)
ISBN 978-4-8055-0576-2

関 隆志 著

A5判上製函入 本文408頁 口絵16頁 挿図80点

古代ギリシアの美意識に永らく存在すると考えられてきた「黄金分割」。著者は500点を超す、古代アッティカ杯の実測調査からその伝説を否定し、新しく星形五角形を基準とする「魔除けの分割」という比例関係を発見した。欧米の学界をも驚かせた画期的研究を一書にまとめる。

[2008年5月]

ガストン・フェビュスの『狩猟の書』挿絵研究

定価 24,200円 (税込)
ISBN 978-4-8055-0877-0

高木麻紀子 著

A5判上製函入 本文602頁 口絵8頁

西洋中世美術史上で広く知られる、豪華な装飾が施された、ガストン・フェビュスの『狩猟の書』写本群を体系化した上で、この中世末期の世俗彩飾写本におけるイメージの変遷の諸相を解明することを目指す初の試みである。【渋沢・クローデル賞奨励賞受賞】

[2019年1月]

ルチオ・フォンタナとイタリア20世紀美術

伝統性と革新
性をめぐって 定価 7,480円 (税込)
ISBN 978-4-8055-0767-4

たにふじ
谷藤史彦 著

A5判上製カバー装 本文496頁 挿図カラー 36点・モノクロ 180点

イタリア20世紀を代表する芸術家ルチオ・フォンタナ(1899-1968)が切り拓いた「新しい空間概念」とは何だったのか。同時代の美術思潮を貫く「伝統性」と「革新性」の中で、その芸術の形成と展開を紐解く。本邦初のモノグラフ。

[2016年8月]

ピカソの「古典」時代

——一九一四年～一九二四年
前衛と伝統が共存する創作の〇一年——

定価 16,500円 (税込)

ISBN 978-4-8055-0990-6

塚田美香子 著

A5判上製函入 本文296頁 □絵4頁

パブロ・ルイス・ピカソ (1881-1973) の創作スタイルは、彼の死後、半世紀を経た今なお、影響を与え続けている。本書はピカソのある10年間の制作姿勢に着目し、ピカソが古典古代の美術作品を自らの作品に如何に取り入れたのかを解き明かし、ピカソが古典へと立ち戻った意図を問う。

[2024年11月]

ビザンティン余白詩篇写本挿絵研究

定価 13,200円 (税込)

ISBN 978-4-8055-0863-3

辻絵理子 著

A5判上製函入 本文272頁 □絵8頁

中期ビザンティン時代 (9～13世紀半ば) の作例が残る、本文周囲に残した余白に挿絵を描く形式を有する写本群である余白詩篇写本を扱い、極めて複雑で入り組んだ構造をもつこれらの写本群の挿絵に、いかにアプローチし得るかを検討する気鋭の研究。

[2018年10月]

ローマ サンタ・サビーナ教会木彫扉の研究

定価 41,800円 (税込)

ISBN 978-4-8055-0446-8

辻佐保子 著 岡村 崔 写真

A4判上製函入 本文516頁 □絵44頁 挿図355点

ローマのサンタ・サビーナ教会に現在まで遺る、初期キリスト教美術の遺品である18点の木彫扉パネル1点1点について、古代末期・中世初期にわたる多数の諸作例と比較し、根拠となるキリスト教文献を探索した研究論文に、写真家・岡村崔による詳細・鮮明な木彫パネルの写真を口絵として収録する。

【地中海学会賞受賞】

[2003年11月]

ユトレヒト詩篇挿絵研究

言葉の織りなした
イメージをめぐる

定価 44,000円 (税込)

ISBN 978-4-8055-0518-2

ツバタ
鼓みどり 著

A4判上製函入 本文548頁 □絵6頁 挿図278点

9世紀初頭に作成されたカロリング朝ランス派の代表作である『ユトレヒト詩篇』の見出し挿絵の画面を作りあげている仕組みに注目し、その発想の源泉を探る。166点の見出し挿絵と詳細な図解分析表を付録として併載し、広く中世キリスト教美術研究に寄与する労作である。

[2006年2月]

アレティーノまたは絵画問答

ヴェネツィア・ル
ネサンスの絵画論

定価 5,280円 (税込)

ISBN 978-4-8055-0521-2

ロドヴィーコ・ドルチェ 著 森田義之・越川倫明 訳・解説

A5判上製カバー装 本文350頁 □絵1丁 挿図40点

ヴァザーリ『美術家列伝』に対抗し執筆され、16世紀のヴェネツィア絵画批評史における最も重要な文献。ヴェネツィアの当代きつての大文筆家ピエトロ・アレティーノとトスカナ出身の文法学者ファブリーニとの対話という形で、同時代の絵画観と画家の作品の特質を縦横に論じたものである。

[2006年5月]

セザンヌ受容の研究

定価 22,000 円 (税込)

ISBN 978-4-8055-0536-6

永井隆則 著

B5判上製函入 本文400頁 口絵52頁

セザンヌが明治35年日本の美術雑誌に初めて紹介されて以来、昭和20年まで日本人によって書かれたセザンヌ論を網羅的に調査し、日本で形成されたセザンヌ像の変遷を歴史的に辿ると共に、その思想的典拠を明らかにする。日本国内の美術館所蔵のセザンヌ作品一覧(写真全80点)を添える。

[2007年2月]

ピラネージ《牢獄》論 描かれた幻想の迷宮

定価 41,800 円 (税込)

ISBN 978-4-8055-0743-8

長尾重武 編著 渡辺晋輔・飛ヶ谷潤一郎 執筆

A4判上製函入 ファクシミリ版30葉 解説書300頁 挿図243点

ジョヴァンニ・バッティスタ・ピラネージの最も特徴的な作品群のひとつであり、未だ多くの謎を残す版画シリーズ《牢獄》。本書では、国立西洋美術館所蔵《牢獄》全30葉(初版・再版)を原寸大ファクシミリ版(シート寸法394mm×430mm)にて再現。作品、作家、先行研究を詳細に読み解く論考とともに、その内容に迫る。

[2015年8月]

油彩への衝動

定価 8,250 円 (税込)

ISBN 978-4-8055-0746-9

蛭川順子 編

A5判上製カバー装 本文336頁 口絵32頁 挿図250点

本書は2013年に関西大学で開催された国際シンポジウムおよびポスターセッションを受けた論集であり、油彩を美術史、表象文化史、文化交渉史など、あらゆる「歴史的文脈」の中で捉える試みである。蛭川教授による各章リード文によって、油彩画の全貌をより一貫性をもって展望できる構成となっている。

[2015年9月]

ロドス島の古代彫刻

定価 38,500 円 (税込)

ISBN 978-4-8055-0519-9

芳賀京子 著

B5判上製函入 本文714頁 口絵16頁 挿図407点

ロドス島の彫刻活動を解明することは、古代ギリシア・ローマ世界の芸術活動を理解する上で、最重要課題であるにもかかわらず現在に至るまでなされていなかった。本書は碑文、古文獻、出土彫刻の膨大な量の史料に詳細な考察を加え、最新の研究成果を集大成した金字塔。

【地中海学会ヘレンド賞受賞】

[2006年2月]

芸術学の根本問題

定価 22,000 円 (税込)

ISBN 978-4-8055-0275-4

E・パノフスキー 著 細井雄介 訳

B5判上製函入 本文302頁 口絵24頁 挿図34点

絵画のイコノロジー研究により20世紀の美術史学界をリードした碩学、E・パノフスキーの方法論のエッセンス8篇に対論としてヴェルフリンの論文1篇を集成、その後の諸研究の一切の基盤となる根本問題を論じている。ドイツ語原本より完訳した美術史学探究の「詩と真実」を記した歴史的名著。

[1994年4月]

時代の目撃者 資料としての視覚イメージを利用した歴史研究

定価 3,960円 (税込)

ISBN978-4-8055-0548-9

ピーター・バーク 著 諸川春樹 訳

A5判上製カバー装 本文308頁 挿図82点

芸術作品の研究を主とする従来の美術史の範囲を大きく拡張し、文化人類学的観点から各々の時代が生んだあらゆる媒体のイメージの根拠を、時代の目撃者の眼に徹することによって詳細に探求した、視覚イメージを通じた文明批評であり、メディアの時代といわれる現代の要請が生んだ必読の書。

[2007年10月]

サンドロ・ボッティチェッリの悔悛

後期作品研究：メディチ、サヴォナローラ、ダンテのはざま

平井彩可 著

定価 15,400円 (税込)

ISBN978-4-8055-0994-4

A5判上製函入 本文300頁 口絵8頁

イタリア・ルネサンスを代表する芸術家サンドロ・ボッティチェッリ（1444/45-1510）が残した数々の優美な名作は、彼の画業の前半期にあたる。それに対し後半期は概して絵画的魅力の後退期とみなされがちで、妥当な評価を受けずにきた。本書は彼の画業の後半期、1490年代以降の作品を紐解くことにより、「衰退した後半期」という単純な認識を覆し、彼の知識と思考の集大成に迫る。 [2025年2月]

ギリシアの陶画家 クレイティアスの研究

定価 39,600円 (税込)

ISBN978-4-8055-0497-0

平山東子 著

B5判上製函入 本文388頁 折込図4頁 口絵8頁 図版82頁

アッティカ黒像式陶器の代表作として広く知られる『フランソワの壺』の陶画家であるクレイティアスを取り上げ、51点の作品カタログと数多くの写真資料、実測図を付し、その作品の総体と編年を明確化し、様式、器形、装飾方法、図像表現、作品の機能などの考察を通じ、全容の解明を試みる。

【地中海学会ヘレンド賞受賞】

[2005年4月]

ヴィッラ・マダマのロτζジャ装飾

メディチ家
教皇の理想図像

定価 17,600円 (税込)

ISBN978-4-8055-0783-4

深田麻里亜 著

A5判上製函入 本文416頁 口絵8頁

ローマに建つヴィッラ・マダマ内「庭園のロτζジャ」のヴォールト及び壁面装飾を主要な考察対象とし、各図像の詳細な検討を行う。それにより、メディチ家の二人の君主を称揚する図像について指摘し、新たなヴィッラのロτζジャ内部における装飾プログラムの存在を明らかにする。

[2017年2月]

美の顕現 イタリア・ルネサンス美術論集

定価 2,970円 (税込)

ISBN978-4-8055-0773-5

カルロ・デル・ブラーヴォ 著 甲斐教行 訳

A5判上製カバー装 本文224頁

著者カルロ・デル・ブラーヴォは、長らくフィレンツェ大学で教鞭をとり、芸術家と作品に対する強い信念と審美性にあふれるそのアプローチでルネサンスから近現代に至るイタリア美術史に独自の方法論で新たな美術史の可能性を提示し続けた。現代を象徴する碩学の代表的論考を収めた日本オリジナル論文集。

[2016年10月]

ミケランジェロ研究

定価 2,970円 (税込)

ISBN978-4-8055-0856-5

カルロ・デル・ブラーヴォ 著 甲斐教行 訳

A5判上製カバー装 本文264頁

「包括的図像解釈」の方法論を二大巨匠ミケランジェロとラファエロに適用した本書は、われわれの図像上の「常識」が立証された史実からほど遠いものであることを思い出させる驚くべき成果である。デル・ブラーヴォが描き出す「創作的解釈」それ自体がひとつの物語であり、冒険であると言える。

[2018年8月]

ジャン＝シメオン・シャルダンの芸術

定価 18,700円 (税込)

ISBN978-4-8055-0897-8

—啓蒙の時代における「自然」と「真実」—

船岡美穂子 著

A5判上製函入 本文520頁 □絵16頁

本書はたくみな写真と魔術にも比される絵画技法を特徴とし、やがて19世紀以降の近代絵画の展開にも影響を与えていった、ジャン＝シメオン・シャルダンの全画業を対象とした国内初にして最新の学術研究書である。当時の啓蒙思想家や美術愛好家たちに高く評価され、美術史のみならず、文学・哲学・社会史といった隣接分野から高い注目を集めるこの画家についての初のモノグラフィー。

【渋沢・クロード賞受賞】

[2022年2月]

チチェローネ 建築篇

定価 41,800円 (税込)

ISBN978-4-8055-0424-6

ヤーコプ・ブルクハルト 著 瀧内楨雄 訳

B5判上製函入 本文586頁 □絵12頁 挿図554点

19世紀に生きたスイスの美術史家・文化史家ブルクハルトがイタリアの美術作品案内という体裁をとりつつ古代からルネサンスを経てバロックに至る様式史を叙述した歴史的名著。三部構成となっている原著の第一部「建築篇」を本邦初めて全訳、500点以上の挿図と詳細な訳註を加えて刊行する。

[2004年12月]

チチェローネ 絵画篇

定価 36,300円 (税込)

ISBN978-4-8055-0627-1

ヤーコプ・ブルクハルト 著 瀧内楨雄 訳

B5判上製函入 本文464頁 □絵24頁 挿図570点

19世紀に生きたスイスの美術史家・文化史家ブルクハルトがイタリアの美術作品案内という体裁をとりつつ古代からルネサンスを経てバロックに至る様式史を叙述した歴史的名著。「建築篇」に続き、「絵画篇」を訳出、刊行する。

[2011年4月]

絵具の事典 [新装普及版]

定価 4,180円 (税込)

ISBN978-4-8055-0624-0

ホルベイン工業技術部 編

B6判カバー装 本文247頁

今日、画家が使用している油絵具や水彩絵具・アクリル絵具など各種絵具の定義・歴史・組成・種類・使用上のポイントについて具体的に解説すると共に、絵具の色名由来・組成・使用上の特性と注意点を、製造の現場から描く人の立場を考慮して、わかりやすく解説する事典。

[1996年12月]

絵具の科学〔改訂新版〕

定価 3,520円 (税込)

ISBN978-4-8055-0860-2

ホルベイン工業技術部 編

A5判カバー装 本文216頁

「絵具とはなんだろうか？」1900年創業の老舗画材メーカー、ホルベイン工業の技術部による絵画に携わる全ての人に贈る、絵具のハンドブック。本書は絵具を中心にして、絵画材料の組成と使用方法、使用時に生じるトラブルとその対処方法を、製造の現場から簡便に説明した、類書のないロングセラーの全面改訂版！！

[2018年11月]

絵具材料ハンドブック〔改訂新版〕

定価 3,300円 (税込)

ISBN978-4-8055-1078-0

ホルベインラボ 編

A5判カバー装 本文212頁

油絵具、水彩、クレヨン、パステルなどの絵具は、三つの要素で構成されている。すなわち、発色のための「顔料」、顔料を定着させるための固着成分である「油脂・樹脂・ロウ・糊材」、性能を補う成分である「溶剤等の助剤」の三要素である。本書は、それらの原材料を概観・組成・性質・製法・用途の五つの観点から整理し、わかりやすく解説した実用的なデータブックである。

[2025年11月]

アルブレヒト・デューラー「人体均衡論四書」注解

定価 31,900円 (税込)

ISBN978-4-8055-0300-3

前川誠郎 監修 下村耕史 訳・注

A4判上製函入 本文410頁 挿図142点

北方ルネサンスの巨人が、人体表現において、美と数の理想的比例を発見し、それを体系化した画技と科学の集大成の書を世界で初めて全訳、翻刻。人体図版142図を収録し、美学、美術史学に加えて、ウィトルウィウスに通ずる宇宙論的解明としての人体表現の数学的プロポーションを極限にまで追究。

[1995年11月]

美の司祭と巫女 西洋美術史論叢

定価 22,000円 (税込)

ISBN978-4-8055-0264-8

前川誠郎先生記念論集刊行会 編

B5判上製函入 本文380頁 図絵4頁 挿図165点

〔収録論文〕ナウムブルクの彫刻家／アトリビューションの有効性／解釈の遠近法／デューラーの素描《オルフェウスの死》と銅版画《ヘラクレス》について／システィナ礼拝堂天井画の《ノアの物語》の制作意義／世界地図から世界風景へ／ドメニキーノの「剽窃」事件を巡る考察 他

[1992年11月]

ビザンティン聖堂装飾プログラム論

定価 33,000円 (税込)

ISBN978-4-8055-0716-2

益田朋幸 著

B5判上製函入 本文560頁 図絵16頁 挿図285点

ビザンティンの複雑な聖堂建築をどう壁画で飾るか。その装飾の“物語”の原理を「円環」「相称性」「中軸」という3つのキーワードで考える全く新しい試み。図像学的新知見や未公開の貴重な写真など多数を収録した、欧米にも類を見ない学会を揺るがす画期的研究。

[2014年2月]

パルテノン・フリーズ 観察と考察

定価 41,800円 (税込)

ISBN978-4-8055-0649-3

水田 徹 著

B4判上製函入 本文386頁 口絵16頁 挿図900点

西洋の古代美術史上最大規模を誇る古代ギリシア・パルテノン神殿を飾った全長160メートルに及ぶ浮彫彫刻の全容を細大漏らさず観察・記述・図版化し、日本及び世界におけるパルテノン研究の深化に大いに寄与する観察と分析。通算6度にわたる現地調査・撮影の成果の報告。

[2011年3月]

エドゥアール・マネの思い出

定価 3,520円 (税込)

ISBN978-4-8055-0987-6

アントナン・ブルースト 著 三浦篤 監修 泉美知子／井口俊 訳

A5判上製カバー装 本文280頁

19世紀フランス絵画史の巨匠であり、近代絵画の祖と目される画家エドゥアール・マネに関する最重要史料の翻訳新装版。マネ没後、幼少時代からマネの親友であり、フランスの芸術大臣を務めたアントナン・ブルーストが雑誌に連載した追悼記事が初出。現在に至るまで、マネについてのもっとも重要な史料と目される本書について、マネを専門として研究してきた三浦篤氏（大原美術館館長・東京大学名誉教授）監修による詳細な訳注、解題を付した決定版！

[2024年12月]

ルネサンス美術における南と北

イタリア絵画とネーデルラント絵画の諸問題

定価 19,800円 (税込)

ISBN978-4-8055-1076-6

ミラード・ミース 著 辻 成史／森田義之／芳野 明／川上幸子 訳

A5判上製函入 本文492頁

ネーデルラント絵画とイタリア・ルネサンス絵画をめぐる複雑な関係、ピエロ・デッラ・フランチェスカの画業、今日のタイポグラフィに通じるルネサンスの書体学、聖ヒエロニムスをめぐる図像学、ラファエッロ、ヴェネツィア絵画……。アルプス南北にまたがる広大なルネサンス美術の世界を、ハーヴァード大学やプリンストン高等研究所で教育に携わるだけでなく、イタリアでの文化財レスキュー活動など現場に携わる貢献を数多く果たし、アメリカを代表する往年の碩学が読み解く。

[2025年8月]

ブリュゲルの“劇場” 罪・祝祭・諺

定価 7,920円 (税込)

ISBN978-4-8055-0989-0

森 洋子 著

A5判上製カバー装 本文492頁フルカラー 挿図約360点

「本書の書名『ブリュゲルの“劇場”—罪、祝祭、諺—』には、画家ブリュゲルが人間のさまざまな罪深い営みを“舞台上で演じる役者の名演技、のように描いている、というメッセージを込めた。(中略)さらにブリュゲルはそうした人間模様に同時代のポピュラーな諺を織り込み、ヴィジュアル効果を使って諺の道徳教訓性を伝えている、というメッセージもある」(本書「あとがき」より引用)。ブリュゲル研究に心血を注ぐ著者、渾身の研究成果。

[2025年3月]

様式への問い 文様装飾史の基盤構築

定価 30,800円 (税込)

ISBN978-4-8055-0769-8

アーロイス・リーグル 著 加藤哲弘 訳

B5判上製函入 本文434頁 挿図197点

唯物論的美術史に対して、内的衝動の「芸術意思」が芸術の自立的発展となると説いたウィーン学派の始祖リーグルの名著の公刊。

[2017年4月]

ヴァフィオの杯 アーロイス・リーグル論文集

定価 27,500 円 (税込)

ISBN978-4-8055-0565-6

アーロイス・リーグル 著 細井雄介 訳

B5判上製函入 本文270頁 口絵1丁 挿図27点

彗星のごときその夭折を惜まれた秀逸な美術史学者リーグルの論考を選りすぐり、1929年に集成した論集。編者であるゼドルマイアの巻頭序文、巻末にはドヴォジャーク、ティーツェ、ペヒトによる伝記的資料を収載して、この一代を画した偉大な美術史家の精神的肖像を明示した。 [2008年2月]

オランダ集団肖像画

定価 38,500 円 (税込)

ISBN978-4-8055-0558-8

アロイス・リーグル 著 勝 國興 訳

B5判上製函入 本文496頁 挿図102点

リーグルは近代美術史学の「基礎概念」を築いたウィーン学派の始祖である。本書はレンブラントを頂点とするオランダ16～17世紀の集団肖像画の独自の絵画システムを抽出し、その「注視の倫理学」といわれる絵画解釈は、芸術作品の基調をなす普遍的思想として今に至るも不滅の功績を樹立した。

[2007年11月]

末期ローマの美術工芸

定価 33,000 円 (税込)

ISBN978-4-8055-0553-3

アロイス・リーグル 著 井面信行 訳

B5判上製函入 本文362頁 口絵31頁 挿図116点

ウィーン学派の重鎮リーグルの主著である本書は、4世紀から8世紀までの末期ローマの文化を、建築・絵画・彫刻・工芸の領域にわたり考察したもので、芸術作品の自立的発展を性格付けた「芸術意志」なる普遍的概念をもって考究された、芸術学研究の学問的方法論の模範とされる古典文献である。

[2008年8月]

造形芸術の歴史的文法

定価 38,500 円 (税込)

ISBN978-4-8055-0694-3

アーロイス・リーグル 著 細井雄介 訳

B5判上製函入 本文496頁

本書は、ウィーン美術史学派の始祖アーロイス・リーグル (1858～1905) が遺した手稿を、1966年に彼の学徒が編集した遺著である。造形表現の「芸術言語」を、人類文化全体のなかにおける歴史的文法というメタファーとして把握した、リーグルの、そして美学全体の仰ぎ見る最終到達点である。

[2014年1月]

料理術の精神 ある美術史家の食卓

定価 2,970円 (税込)

ISBN978-4-8055-0749-0

C.F.v. ルーモール 著 中山典夫 訳

B6判上製カバー装 本文340頁 挿図8点

美術史家カール・フリードリヒ・フォン・ルーモールが、彼のお雇い料理人の名で著した本書は、素材の味を活かすヌーヴェル・キュイジーヌの源泉ともなった。一家言あるレシピから、料理術が生きることに結びついた芸術であることや、当時の文化史的考察、台所から見た社会風刺などが語られる。幻のロングセラー、本邦初訳。

[2016年1月]

初期ギリシア芸術における自然再現

定価 2,750円 (税込)

ISBN978-4-8055-0544-1

エマヌエル・レーヴィ 著 細井雄介 訳

A5判上製カバー装 本文112頁 挿図30点

ウィーン大学で古典考古学を学んだレーヴィは、本書において初期ギリシア芸術における彫刻再現の一般原理を分析し、初期芸術の各段階を記憶像に基づく概念的再現から、直接の対象知覚による遠近法的再現へと進む変遷の進展段階を解明した。古典ギリシア彫刻研究の秀逸な古典的名著である。

[2007年7月]

芸術論叢 [全2巻]

セット定価 49,500円 (税込)

ロベルト・ロンギ 著 岡田温司 監訳

20世紀の美術史学において、名著『ピエロ・デッラ・フランチェスカ』や『イタリア絵画史』など数々の研究業績を残したロンギは、著名な詩人学者であり、前世紀の最も重要な美術史家であった。難解な言語上の問題や、昨今の美術史研究の方法論が図像学一辺倒なるがゆえに我が国への紹介が遅れたが、この正統なアカデミズム美術批評の邦訳とその詳細を極めた注解は待望久しい訳業である。

【ピーコ・デッラ・ミランドラ賞受賞】

I アッジから未来派まで

定価 24,200円 (税込)

ISBN978-4-8055-0336-2

B5判上製函入 本文416頁 口絵16頁 挿図80点

[1998年9月]

II 歴史・批評・方法

定価 25,300円 (税込)

ISBN978-4-8055-0371-3

B5判上製函入 本文440頁 口絵16頁 挿図81点

[1999年9月]

ピエロ・デッラ・フランチェスカ

定価 38,500円 (税込)

ISBN978-4-8055-0567-0

ロベルト・ロンギ 著 池上公平・遠山公一 訳

B5判上製函入 本文512頁 口絵20頁 挿図137点

15世紀イタリア・ルネサンス絵画を代表するひとり、ピエロ・デッラ・フランチェスカ (1415～92) には伝記的資料が欠けているため、不十分であった従来の画家・作品研究を補う基本書として、現在に至るも重要な存在意義を持ち続ける古典的名著である。訳者による詳細な解説を付した。

[2008年2月]

日本・東洋建築史

日本近代の建築保存方法論

法隆寺昭和大修理と
同時代の保存理念

定価 14,300円 (税込)

ISBN978-4-8055-0876-3

青柳憲昌 著

A5判上製函入 本文 388頁 口絵4頁

昭和時代前半期の建造物修理に焦点をあてつつ、歴史的建築の形や色の「復原」のみならず、修理工事の技術的側面を含めてその実態を解明し、当時の修理技術者たちの保存思想について、さらには建築を「保存」するという行為そのものに内在している本質的な問題についての考察を加えつつ、さらにそれが現代の保存に何を示唆しているのかを問い直す。【建築史学会賞受賞】 [2019年12月]

今井兼次に於ける建築と思想に関する研究

定価 18,150円 (税込)

ISBN978-4-8055-0683-7

あげまつ
上松佑二 著

A5判上製函入 本文668頁 挿図カラー 80点・モノクロ336点

日本近代建築の結節点に立つ建築家・今井兼次の生涯を4期に分けて論じ、その思想とキリスト教精神の背景に至るまでを論述する。近代建築において独自の道を歩み、豊かな精神をもつ今井の全体像を建築家としてのみならず、画家、教育者、著述家、とりわけ人間として包括的に論じた建築的意味をもつ作家論。 [2012年12月]

戦前期の地方都市における近代都市計画の動向と展開

定価 9,900円 (税込)

ISBN978-4-8055-0583-0

浅野純一郎 著

A5判上製函入 本文338頁 挿図86点

戦前期の全国43地方都市の沿革、成立、変遷を論じた現代につながる都市のコスモロジー。札幌・函館・仙台・新潟・富山・高岡・金沢・松本・岐阜・静岡・清水・浜松・豊橋・岡崎・津・和歌山・堺・尼崎・岡山・広島・呉・下関・高知・福岡・八幡・長崎・佐世保・熊本・大分・鹿児島など収録。 [2008年10月]

地方における戦後都市計画

戦災復興から
現在まで

定価 7,480円 (税込)

ISBN978-4-8055-0883-1

浅野純一郎 著

A5判上製カバー装 本文364頁

都市はいかに再構築されたのか。戦災によって被害を受けた地方都市に焦点をあて、戦災復興都市計画の特徴やその後の市街地形成経過への影響を明らかにしていくことで、戦後の都市計画や市街地展開の実態に迫る。

[2020年12月]

台湾ヤミの住まいの建築論

定価 14,300円 (税込)

ISBN978-4-8055-0634-9

足立 崇 著

A5判上製函入 本文272頁 口絵8頁 挿図99点

本書は台湾の蘭嶼という小島に暮らすヤミと呼ばれる人々の「住まい」について、神話や伝説の解釈、またフィールドワークで得られた空間構成や建築に関わる儀礼などの知見を通して、建築において重視される「住まう」ことをその場所の現象に即して究明する試みである。

[2010年10月]

平安時代貴族住宅の研究

定価 38,500円 (税込)

ISBN978-4-8055-0452-9

飯淵康一 著

B5判上製函入 本文632頁 挿図151点

平安時代貴族住宅で行われた儀式に着目し、これがどのように展開されていたのかを空間的視点から解明することにより、平安時代の貴族住宅を日本住宅史の中に位置づける。また同時に平安宮内裏および平安京をも対象とし、都市的文脈を究明する中から貴族住宅の空間的特質をより深く論じている。

【日本建築学会賞受賞】

[2004年2月]

続平安時代貴族住宅の研究

定価 4,400円 (税込)

ISBN978-4-8055-0620-2

飯淵康一 著

A5判上製カバー装 本文154頁

平安時代貴族住宅で行われた儀式に着目し、これがどのように展開されていたのかを空間的視点から解明し、日本住宅史の中に位置づけた前著『平安時代貴族住宅の研究』（日本建築学会賞受賞）以降に発表された、「対の儀式空間」に関するテーマを中心とした研究成果の集約版。

[2010年4月]

源氏物語 その住まいの世界

定価 9,900円 (税込)

ISBN978-4-8055-0182-5

池 浩三 著

A5判上製函入 本文356頁 挿図90点

『源氏物語』の舞台となったさまざまな寝殿や対屋、塗籠などの平安貴族住宅の建築空間を、平安時代の婚姻制および寝殿造に関する先行研究の成果をふまえ、筋立の展開や主人公の内面を投影した象徴的本質として解明した、『源氏物語』の読解に不可欠の学際的研究書。

[1989年9月]

綱町三井倶楽部 J・コンドルの建築をめぐる

定価 4,070円 (税込)

ISBN978-4-8055-0400-0

石田繁之介 著

A5判上製カバー装 本文236頁 口絵8頁 挿図74点

英国人建築家ジョサイア・コンドルは明治期に来朝し、わが国の西洋建築の父祖といわれる。東京・港区に現存する綱町三井倶楽部もその作品の一つである。著者は建築家と施主側担当者との往復書簡や、立地取得に至る経緯や時代背景を、新出資料を元に名建築の誕生と来歴を読み解く。

[2001年6月]

フエ ベトナム都城と建築

定価 4,730 円 (税込)

ISBN978-4-8055-0851-0

伊藤 毅 編

B5判カバー装 本文176頁 口絵16頁 挿図169点

ベトナム最後の王朝があった古都フエ。王宮の遺跡が広範囲にわたって残り、都市史・建築史上さまざまな重要な論点を含む対象であるフエの全貌を、詳細な現地調査に基づいて明らかにする共同研究成果の公開。

[2018年3月]

旧軍用地と戦後復興

定価 7,150 円 (税込)

ISBN978-4-8055-0780-3

今村洋一 著

A5判上製カバー装 本文368頁 挿図150点

終戦によって遊休国有地となった旧軍用地が、どのように都市に組みこまれ、戦後復興が図られたのかを、全国的な動態と個別の都市の具体例から包括的に考究し、戦後史としてだけでなく、人口減少時代を迎えた現代の土地活用と都市計画の課題にも広く示唆を与える気鋭の論文集。

【日本不動産学会著作賞（学術部門）受賞】

[2017年1月]

日本建築規矩術史

定価 23,100 円 (税込)

ISBN978-4-8055-0753-7

おおうえ
大上直樹 著

B5判上製函入 本文416頁 挿図250点

規矩術は日本の主要な建築設計技法のひとつであるが、近代以前の規矩術は古来秘伝とされ、内容が困難なため真の技法が解明されたとは言い難い。中世・近世の規矩術の変容過程を解明し、近世以前の規矩術の体系化を初めて試み、今日、常識とされている現代軒規矩術の諸問題を挙げ著者の新たな知見を示す。

[2015年12月]

仏領期ベトナムにおける建築・都市計画

定価 18,700 円 (税込)

ISBN978-4-8055-1085-8

大田省一 著

A5判上製函入 本文408頁 口絵4頁

1860年のサイゴン開港から1945年のインドシナ連邦の崩壊までのフランス植民地時代（仏領期）のベトナム（現在のベトナム社会主義共和国）について、ハノイを中心とした仏領インドシナの建築、ベトナムの近代都市史の通史の記述を中心として、フランスにより持ち込まれた建築、都市計画が、現地でどのように変容していったかを論じる。東南アジアにおける植民地近代について、建築を軸としてさまざまな視点から分析し、都市を読み解く新たな視角を提供する、気鋭の研究。

[2026年3月]

近世・近代の歴史意識と建築

定価 12,100 円 (税込)

ISBN978-4-8055-0729-2

加藤悠希 著

A5判上製函入 本文320頁 挿図34点

近世・近代の日本において、過去の建築の歴史に対する関心・知識はどのようなものであったか。伊勢神宮の考証・有職故実の研究・豊臣秀吉にまつわる建築の由緒、という三つの事例から、当時の人々が建築へ向けた視線と、そこに投影される歴史意識について検討する。

【建築史学会賞受賞】

[2015年1月]

日本建築史論考

定価 18,700円 (税込)

ISBN978-4-8055-0361-4

川上 貢 著

B5判上製函入 本文386頁 挿図60点

中世禅僧の住まいや建築生産組織などに関わる歴史的事実を解明し、さらに方丈や塔頭の性格や施設の構成、昭堂、客殿、書院そして庫裏など、その用途や形式を分類・整理し、寺院建築から城郭の殿舎、大番小屋、対面所、茶屋、会所から問面記法、町屋に至る日本建築の意匠と構造を論究した労作。

[1998年10月]

禅院の建築 禅僧のすまいと祭享〔新訂〕

定価 4,730円 (税込)

ISBN978-4-8055-0510-6

川上 貢 著

A5判上製カバー装 本文282頁 挿図45点

禅寺における塔頭は塔のほりを意味し、塔をまつり永く保護をするための施設である。日本中世住宅史の権威である著者が禅宗寺院における日々の生活空間であり、また儀式・儀礼にも密接に関わる塔頭の建築に焦点を当て、その発生から変容への過程を明らかにする名著の改訂新版。

[2005年9月]

近代日本の小学校建築史 鉄筋コンクリート造校舎の成立と展開

定価 33,000円 (税込)

ISBN978-4-8055-0982-1

川島智生 著

A4判上製函入 本文448頁

大正期に建設が始まった近代日本の鉄筋コンクリート造による小学校はその豊かな建築類型にもかかわらず、近年老朽化による建て替えなどで次々と失われている。本書は長年にわたり、400校にせまる全国の近代小学校建築の調査に携わってきた著者による、その実態に迫る歴史的な考究である。

[2024年3月]

寝殿造の空間と儀式

定価 30,800円 (税込)

ISBN978-4-8055-0682-0

川本重雄 著

B5判上製函入 本文452頁 挿図102点 折込図3丁

本書は「寝殿造」と儀式の関わりを研究する著者の研究の集大成であり、住まいに関する貴族の日記や部類記が多く残る11~12世紀を中心に、「寝殿造」の歴史像と空間的特質などを明らかにし、儀式の内容や列席者、儀式の舞台の変遷が、貴族の社会体制と秩序の変化に起因することを詳細に論ずる。

【建築史学会賞・紫式部学術賞受賞】

[2013年2月]

きくだきのちゅうもん 木碁之注文

定価 24,200円 (税込)

ISBN978-4-8055-0691-2

木碁之注文研究会 編著・中川 武 監修

A5判上製函入 2分冊 (影印・釈文篇374頁/解題・現代語訳篇174頁) 挿図254点

原本として現存する最古の木割書であり、日本建築技術史上における重要な一級史料の翻刻。16世紀後半の戦国大名・大友氏に奉仕していた大工が筆録していたと考えられている大工技術書であり、影印・釈文篇と解題・現代語訳篇の2分冊を、同書研究会による長年の研究成果を踏まえた解説付きで刊行する。

[2013年2月]

町人都市の誕生

いきとすい、あるいは知

定価 3,960円 (税込)

ISBN978-4-8055-0963-0

呉谷充利 著

A5判上製カバー装 本文282頁 口絵1頁

「都市の未来は自らの歴史を欠いて真の展望を持ち得ない。その時間軸をたしかなものにすることこそ、都市を考えるもっとも重要な課題であろう」日本の近代化を、商都大坂がどのように誕生し、町人の街として成長してきたか、歴史資料、近世・近代文学まで視野に、上方と江戸／東京との文化的土壌を比較することで考察する新たな都市論。

[2022年3月]

建築制作論の研究

定価 30,800円 (税込)

ISBN978-4-8055-0757-5

建築論研究会 編 (編者代表 西垣安比古)

B5判上製函入 本文634頁 挿図123点

東日本大震災を経て、近代的技術概念を問い直すことは不可避のテーマとなった。建築技術の在り方について、世界観・自然観そのものを問い直すまで遡源することが要請されるのだ。「建築制作」という主題をめぐる、建築論の立場からその問題点を考究し、新たな展望を開く全7章25篇の論考集。

[2016年1月]

朝鮮半島の住まいと家具の歴史

定価 44,000円 (税込)

ISBN978-4-8055-0995-1

小泉和子 著

B5判上製函入 本文424頁

本書は朝鮮半島における宮殿と住宅の家具と室内意匠を総覧する本邦初の通史。日本の家具・室内意匠史研究の第一人者である著者が、中国と朝鮮半島の家具・室内意匠史への理解を抜きにして、日本のそれについての理解はかなわないという意識のもと、長年にわたって進めた研究の成果。室内意匠、家具、設えなど、朝鮮半島で育まれた住文化史を知る必携書。

[2025年3月]

風景現象の建築論的研究

定価 13,200円 (税込)

ISBN978-4-8055-0690-5

香西克彦 著

A5判上製函入 本文284頁

人間存在に関わる全事象の中への風景現象の定着と、風景論の原論の構築の探求を目的とする。『万葉集』や芭蕉の俳諧などの歴史的・文学的・経験的風景現象に詠みこまれた事例から、見るという経験を通し、風景なるものの全体的把握と見ることの主客の間に生起する人間と世界との構造を探るユニークな論考。

[2012年11月]

都市・建築空間の史的研究

定価 13,200円 (税込)

ISBN978-4-8055-0777-3

小寺武久 著 西澤泰彦・片木 篤・溝口正人・野々垣篤・掘田典裕 編

A5判上製函入 本文374頁 挿図75点

小寺武久博士 (1933-2006) が示された都市空間の復原、都市建設の造形理念、建築と都市空間の相互関係、都市空間とそこで育まれた文化との関連など、複眼的視点に立った研究手法を後世に伝える建築史研究の成果。

[2017年2月]

近世初期上層公家の遊興空間

定価 14,300円 (税込)

ISBN978-4-8055-0633-2

後藤久太郎 編著・松井みき子 著

A5判上製函入 本文354頁 挿図25点

『无上法院日記』を研究の底本として、院を取り巻く上層公家の日常生活、人間関係、生活文化の視点から上皇や公家女性の日常的な遊興施設の用法を分析し、それを通して上層公家住宅史の一面をとらえ、近世の生き生きした日常を甦らせた、新しい視点による建築史研究。

[2010年12月]

近世民家における意匠操作

見せかけ技法と
寸法調整技法を通して

定価 12,100円 (税込)

ISBN978-4-8055-0967-8

坂井禎介 著

A5判上製函入 本文344頁

これまで体系的にまとめられてこなかった部材幅等の民家の寸法をまとめ、それを元に、見せかけの部材や寸法調整技法（特殊な部材計画や特殊な部材配置）によって民家の意匠を意図的にコントロールする「意匠操作」を分析。実例を挙げて分類するとともに、それらの意匠意図や、意匠のこだわりの度合いを明快に示す。

[2022年12月]

近世建築指図の総合的研究〔全3巻〕

後藤久太郎・伊東龍一 編

本叢書では、全国の寺社などに保管されている近世建築に関する指図類を調査・撮影し、それら貴重な史料を網羅・総合的に収録した基本台帳作成を企図している。

〔第1巻〕 平面図としての「指図」の作図技法・描法の展開に関する研究

定価 41,800円 (税込)

ISBN978-4-8055-0659-2

A4判上製函入 本文352頁 (内カラー 56頁) 図絵60頁 挿図300点

[2012年2月]

〔第2巻〕 タイトル未定

価格未定

ISBN978-4-8055-0660-8

〔第3巻〕 建築指図の修補技法に関する研究

定価 35,200円 (税込)

ISBN978-4-8055-0650-9

B5判上製函入 本文248頁 図絵8頁 挿図174点 DVD付

[2011年3月]

萩藩江戸屋敷作事記録

定価 36,300円 (税込)

ISBN978-4-8055-0695-0

作事記録研究会 編

B5判上製函入 本文568頁 図絵4頁 附録図10枚

巨大で複合的な江戸藩邸が、各種の資源（人材・建設資材・資金等）、工期をどのようなマネジメント手法のもと建設されたのか。山口県文書館毛利家文庫に残される萩藩江戸屋敷に関わる浩瀚な「作事記録」のうち、特に重要なものを選定・全文翻刻するとともに、解説及び関係する屋敷絵図を付す史料集成。

[2013年2月]

大名江戸屋敷の建設と近世社会

定価 13,200円 (税込)

ISBN978-4-8055-0708-7

作事記録研究会 編

A5判上製函入 本文380頁 挿図48点

資料編にあたる『萩藩江戸屋敷作事記録』の姉妹篇として、主として同記録の分析を行った結果解明された江戸時代の大名屋敷の建設マネジメント手法に関する論文10篇を掲載。大名江戸屋敷の作事に際して作成された浩瀚な「作事記録」に基づく共同研究の成果を公開するものである。 [2013年12月]

建築保存概念の生成史〔新装版〕

定価 6,820円 (税込)

ISBN978-4-8055-0895-4

清水重敦 著

A5判上製カバー装 本文428頁

日本近代において建築保存概念が生成していく過程を近世からの継承と転換として論じていく。文化財保存の史的再読を通して日本の建築保存の意味の拡張を意図しつつ、近世近代建築史として伝統と西洋の混濁の具体的様相を描き出し、保存から日本と東アジアの新たな建築史叙述を志向する。建築史学会賞、日本建築学会賞、日本イコモス奨励賞を受賞した『建築保存概念の生成史』(2013年刊)の新装版。 [2022年3月]

延暦寺の建築史的研究

定価 15,400円 (税込)

ISBN978-4-8055-0595-3

清水 擴^{ひろし} 著

A5判上製函入 本文420頁 挿図74点

本書では「天台三千坊」と謳われた、平安時代の比叡山延暦寺について基本史料の徹底的な史料批判を行ったうえで、関係史料を博搜することによってその草創期から最盛期までの建築・美術・彫刻などについて、可能な限り総合的に明らかにした、延暦寺の歴史研究における決定的な根本文献である。 [2009年7月]

国宝・中世日本の仏堂

定価 28,600円 (税込)

ISBN978-4-8055-0996-8

伊藤延男 監修 清水 擴^{ひろし}・藤井恵介 編

B4判変型上製函入 モノクロ絵88頁 解説248頁 図版138点 図面123点 収録

中世に創建された和様色の強い代表的な10件の中世本堂に、近世前期に再建された平安時代からの大寺院3件を加えた国宝の仏堂13棟を掲載。専門家による学術的知見を記した解説と、写真・図面を一書に収録し、日本建築史において基礎資料となった『日本建築史基礎資料集成』で未公刊であった『仏堂V』制作のために執筆・収集された資料を装いも新たに刊行する。

[2025年3月]

木造建築の設計技術史

定価 16,500円 (税込)

ISBN978-4-8055-0899-2

白井裕泰 著

A5判上製函入 本文420頁 挿図74点

本書は、建築の創造の問題を取り扱うものである。木造建築の設計方法の歴史的考察による技術史の自立的な体系化を目標とし、そのうえで理念と形態を媒介する機能・生産・技術との相互の関連性を論じ、建築の本質的な「構造」を解明する。

[2021年11月]

ベトナム・フエ城宮殿建築の修復と復原

定価 33,000円 (税込)

ISBN978-4-8055-0772-8

白井裕泰 編著

A4判上製函入 本文268頁 挿図710点

ベトナムの世界遺産「フエの建造物群」の構成遺産である隆徳殿と昭敬殿を修復・復原した際の記録を中心にまとめて収録。この研究は日越共同保存事業に重要な意味合いを有し、多大な国際貢献を果たした。今後実施される世界遺産の建造物修復などの事業において礎となる研究成果の公開。 [2016年10月]

古代寺院僧房の研究

鈴木嘉吉建築史論集

定価 27,500円 (税込)

ISBN978-4-8055-0762-9

鈴木嘉吉 著

B5判上製函入 本文420頁 図面16頁 図面95点 挿図56点

鈴木嘉吉博士初の論集全2巻の第1冊。本巻は僧の住居である僧房を研究対象とする。

また元興寺極楽坊本堂・禅室など、国宝・重文の解体修理に携わった経験から、諸堂の遺構を考古学的・建築史的に当初の形態に復原し古建築の検視を行い、日本建築の重要な筋道である古代住宅の実体を解明した記念碑的業績である。 [2016年4月]

古代寺院建築の研究

鈴木嘉吉建築史論集

定価 35,200円 (税込)

ISBN978-4-8055-0763-6

鈴木嘉吉 著

B5判上製函入 本文580頁 挿図383点

鈴木嘉吉博士の初の論集全2巻の第2冊。本巻は飛鳥・白鳳時代、平安時代以降、古代建築の構造などの章立てで、明治期以来懸案の法隆寺の再建非再建論争について独自の新再建論を提示し、また薬師寺の移建の経緯などを語り、また長年の古代建築の解体修理に携わった得難い経験と歴史観から、学界に新たな刺激的提案をし続けた鈴木建築史学の詳細を提示する。 [2017年9月]

中世鎌倉五山の建築

定価 4,950円 (税込)

ISBN978-4-8055-0771-1

鈴木 亘 著

A5判上製カバー装 本文264頁 挿図18点

本書は中国禅寺の制度に倣って創設された中世鎌倉五山の禅院建築について、その創立から鎌倉時代末および南北朝期における最盛期の主要伽藍と室町時代前期にいたる塔頭の建築を考察した。永い中国の歴史の中でも最も洗練され、来日僧と入宋僧の指導により招来され建立され、これら全体と部分を統一し完成した様式を備えた南宋の建築は、わが国の中世建築の成立に極めて重要な位置を占めることを論じ、先行する文献・遺構研究などを咀嚼・敷衍して、従来、あまり明確ではなかった鎌倉五山建築の伽藍と塔頭の配置と形式により新たな知見を付与する研究である。 [2016年7月]

書院造と数寄屋造

定価 24,200円 (税込)

ISBN978-4-8055-0728-5

鈴木 亘 著

B5判上製函入 本文368頁 挿図65点

寝殿造から書院造へ、そして江戸期に完成した数寄屋造へと日本住宅史における様式概念の発達史に様々な観点から検討を加え、書院造の淵源を中世禅院にまで遡って論じ、様式の発展過程とその特色を明らかにした労作。 [2014年11月]

建築史の空間

定価 8,800円 (税込)

ISBN978-4-8055-0369-0

関口欣也先生退官記念論文集刊行会 編

B5判上製カバー装 本文224頁

わが国中世の禅宗様建築史研究をはじめ、民家はもとより東洋建築史全般に亘る徹底した方法論と遺構調査を究明・実行した関口博士。その横浜国立大学退官を記念して、門下生たち12人が「住の空間」、「寺社の空間」、「様式と技術の空間」のテーマのもとに論文を書き下ろした献呈論文集。 [1999年1月]

関野貞^{ただし}日記

定価 20,900円 (税込)

ISBN978-4-8055-0586-1

関野貞研究会 編

A5判上製函入 本文834頁 口絵4頁 挿図272点

わが国の古建築研究のパイオニアであり、近代の文化財保護の基礎を築いた関野貞(1868～1935)の手控えとしての私的・公的記録を記した日記・日録の翻刻。日本、朝鮮、中国における文化財調査・保護政策の策定から、近代日本の文化財行政の発展過程が克明かつ具体的に記述されている重要資料。 [2009年2月]

近世在方集住大工の研究

定価 52,800円 (税込)

ISBN978-4-8055-0617-2

高橋恒夫 著

B5判上製函入 本文644頁 挿図653点

近世の日本各地の主要な19件の在方集住大工(地方在住の大工集団)について、地道な現地調査と資料収集から、その発生の背景や要因、実態、大工の活動や組織、技術などの形態について、網羅的かつ体系的な考察を試み、従来の建築生産史研究における大工研究の隙間を埋める画期的な研究成果。 [2010年1月]

明治期建築学史

定価 13,200円 (税込)

ISBN978-4-8055-0869-5

角田真弓 著

A5判上製函入 本文492頁 口絵8頁

現在の「建築学」はいかに形成されたのか。明治期の西洋建築の移入と西洋技術・情報の受容過程を、一次資料の丹念な分析から跡付ける。近代工学教育における建築教育の特性、建築学の学問的領域の確立、建築とその関連領域(「工芸」「図学」「図案」との境界を明らかにする労作。

【建築史学会賞受賞】

[2019年1月]

すまいの現象学 玉腰芳夫建築論集

定価 38,500円 (税込)

ISBN978-4-8055-0681-3

玉腰芳夫建築論集編集委員会 編

B5判上製函入 本文690頁 口絵1丁 挿図220点

著者玉腰芳夫(1938～84)は、京都大学の建築論研究の俊英として嘱望されていたが、惜しくも早世した。本書は、既発表の全論考と未完の著作構想の遺稿群を編集し、ひとが生きる場所、すなわちすまいの現象学的把握を通じて、著者がめざしたすまい研究の到達点を明らかにする。 [2013年11月]

京都御所造営録 造内裏御指図御用記〔全5巻〕 セット定価 154,000円（税込）

詫間直樹 編

宮内庁書陵部に所蔵される「造内裏御指図御用記」全8冊は、江戸時代後期の寛政年間に再建された京都御所造営に関する重要な基本史料の一つである。記主は朝廷において禁裏執次で内裏造営の御指図御用掛を務めた明法博士大判事の勢多章純である。この近世の京都御所研究には不可欠の史料の全文翻刻を行い、寛政度京都御所の再建過程およびその実態を明らかにする。

〔第1巻〕

B5判上製函入 本文312頁 口絵8頁
天明八年四月七日～同年十二月三十日

定価 30,800円（税込）

ISBN978-4-8055-0613-4

[2010年2月]

〔第2巻〕

B5判上製函入 本文378頁 口絵8頁
天明九年（寛政元年）正月四日～同年六月三十日

定価 30,800円（税込）

ISBN978-4-8055-0653-0

[2011年2月]

〔第3巻〕

B5判上製函入 本文432頁 口絵8頁
寛政元年閏六月一日～同年十二月三十日

定価 30,800円（税込）

ISBN978-4-8055-0655-7

[2012年2月]

〔第4巻〕

B5判上製函入 本文390頁 口絵8頁
寛政二年正月三日～同年六月三十日

定価 30,800円（税込）

ISBN978-4-8055-0655-4

[2013年2月]

〔第5巻〕

B5判上製函入 本文432頁 口絵8頁
寛政二年七月五日～寛政四年十月三十日（付 総索引）

定価 30,800円（税込）

ISBN978-4-8055-0656-1

[2014年2月]

能楽堂の誕生 「日本の近代化」を遂げた劇場空間

辻模一郎 著

A5判上製カバー装 本文344頁

能楽堂は、日本の近代建築の歴史の中で特殊な建築空間である。日本の歴史的な実演芸術の多くは歌舞伎劇場のように、日本的独自性・西洋的要素の両者を備えた「伝統」的空間を形成したのに対し、能楽堂はそのような「伝統」の二重性をもたずに、独自の歴史的展開を遂げてきた。本書は能楽堂の建築空間の実体に迫ることで、従来の劇場史研究にみられた建築的視座の限界を超える試みである。

[2025年9月]

定価 6,820円（税込）

ISBN978-4-8055-1077-3

棟持柱祖形論

土本俊和 著

A4判上製函入 本文384頁 挿図223点

棟持柱構造は歴史的な木造建築の一典型であり、日本建築史を貫く代表的な形である。本書はこの構造を歴史的な建造物の祖形として位置づけ、理論的・建築史的・民家研究的の三つのアプローチによって、海外の木造建築を含む多角的観点と実証的な知見を提供する。

[2011年3月]

定価 33,000円（税込）

ISBN978-4-8055-0630-1

中国古代理造園史料集成

増補 哲匠録 疊山篇
秦漢一六朝

定価 49,500円 (税込)

ISBN 978-4-8055-0408-6

田中 淡・外村 中・福田美穂 編

B5判上製函入 本文806頁

中国の造園は秦、漢時代以来の悠久の歴史を擁し、明清の現存遺構とは異なる純粋卓越した伝統が培われてきた。本書は中国庭園史の初期に属する秦漢—南北朝時代の文献史料を各代の造園家別にして集めた基礎史料集であり、さらに巻末に造園家人名・庭園名・建物名・引用文献名の各種索引を付す。

[2003年5月 [増補改訂]]

田中淡著作集 [全3巻]

田中 淡 著

中国建築史の泰斗、田中淡が拓いた世界——。

中国や欧米をはじめ国外においても重視される、最高レベルにあり続けた田中の中国建築・庭園史研究。没後10年を経ても価値のまったく衰えない、その成果の核心たる研究論文を中心に収録。

〔1〕中国建築の特質

定価 6,050円 (税込)

ISBN 978-4-8055-1150-3

A5判上製カバー装 本文280頁 挿図206点

稀代の歴史家が語る中国建築の精髓! 「本書に収められた21本の文章は、田中淡氏が全力を傾けて解説しようと試みた中国建築の特質について、ほぼすべての中国建築を対象として、多様な方法をもちいて論じている。読者諸賢には是非心から賞味していただきたいと願うばかりである。」《「解題」(藤井恵介/東京大学大学院教授)より抜粋》

[2018年3月]

〔2〕中国建築と庭園

定価 8,800円 (税込)

ISBN 978-4-8055-1151-0

A5判上製カバー装 本文624頁 挿図310点

中国や欧米をはじめ国外においても重視される、最高レベルにあり続けた田中の中国建築・庭園史研究。没後10年を経ても価値のまったく衰えない、その成果の核心たる研究論文を中心に収録。

[2023年2月]

〔3〕中国建築と日本

定価 8,800円 (税込)

ISBN 978-4-8055-1152-7

A5判上製カバー装 本文584頁 挿図290点

中国建築史の泰斗が読み解く、日中建築の実相。鎌倉時代初期の東大寺再興において登場した新たな建築様式「大仏様」の内実、飲食や狩猟にかかわる生活技術史。斯界を代表する著者による、中国文化全体を視程に収めた研究の真価が本書によって初めて明らかとなる。

[2024年2月]

世界建築史論集 中川武先生退任記念論文集

定価 27,500円 (税込)

ISBN 978-4-8055-0738-4

中川武先生退任記念論文集刊行委員会 編

B5判上製函入 2分冊

日本・東アジア篇274頁・西アジア・西洋・南アジア・カンボジア・ベトナム篇278頁 挿図390点

日本建築の生産史研究やエジプト、カンボジアの遺跡調査など多岐にわたり、早稲田大学の建築史研究を長年牽引されてきた中川武先生が退任を迎えるにあたり、その学恩を受けた研究室出身者によりまとめられた献呈論文集。

[2015年3月]

コー・ケーとベン・メアレア アンコール広域拠点遺跡群の建築学的研究

定価 38,500円 (税込)

ISBN978-4-8055-0719-3

中川 武・溝口明則 監修

A4判上製函入 本文402頁 口絵2頁 挿図カラー640点・モノクロ177点 附図36枚

近年、国際的にも大きく注目され始めたクメール王国の主要な地方拠点であるコー・ケーとベン・メアレアを対象にして、広域に散在する遺跡の精確な基礎資料（遺跡目録、各地の遺跡分布図、主要寺院遺跡の伽藍平面図等）を作成し、細部調査によってクメール王国の実像に迫る研究成果の公開。

[2014年2月]

プレア・ヴィヘア アンコール広域拠点遺跡群の建築学的研究 2

定価 44,000円 (税込)

ISBN978-4-8055-0858-3

中川 武・溝口明則 監修

A4判上製函入 本文324頁 附図35枚

クメール帝国の各地に点在する重要遺跡の建築学、岩石学、地理学、考古学など学際的な基礎資料を網羅的に収集し、クメール王国の実像に迫ることをめざした学術成果の第2巻。2012～2015年度まで行われたタイ国境の世界遺産プレア・ヴィヘア寺院の調査報告書。

[2018年11月]

近世民家普請と資源保全

定価 11,000円 (税込)

ISBN978-4-8055-0730-8

中村琢巳 著

A5判上製函入 本文316頁 挿図163点

江戸時代において、民家は建てられた後にどのような生涯を辿ったのか、当時の社会化された建築生産の仕組みは何か、古材リサイクルやメンテナンスなど資源保全から近世の民家普請を解明、木造建築である民家の独特なその生涯像を浮かび上がらせて、長期継続的な建築の存続を支えた当時の「建築に対する生命観」を提示する。資料「飛騨地方の居宅絵図集」を付す。【建築史学会賞受賞】 [2015年2月]

日本建築辞彙〔新訂〕

定価 6,600円 (税込)

ISBN978-4-8055-0673-8

中村達太郎 著 太田博太郎・稲垣栄三 編

A5判上製カバー装 本文626頁 挿図800点

東京帝国大学教授・中村達太郎（1860～1942）が単独で編纂、約4000語を収録し、以後の古建築用語辞典のほとんどの淵源であり、歴史学的辞書として、また民俗学の実用辞典として使用されてきた学界の一大文化遺産である名著の新訂決定版。五十音順に並び替え、多くの註を付した。

[2016年5月]

臨終の住まいの建築論

定価 13,200円 (税込)

ISBN978-4-8055-0587-8

西村謙司 著

A5判上製函入 本文278頁 口絵8頁 挿図38点

古来、わが国では仏教美術における荘厳の本質を、死生の営みのあり方の問題として捉えてきた。本書は源信の『往生要集』などを対象として、「臨終行儀」や「迎講」などの行われる臨終の住まいをテーマとして、その史的展開と成立構造を明らかにした学際的成果の公開である。

[2009年2月]

源氏物語 その生活と文化

定価 13,200円 (税込)

ISBN978-4-8055-0462-8

ひなた
日向一雅 著

A5判上製函入 本文340頁 挿図68点

『大内裏図考証』『延喜式』等々によりながら、内裏の殿舎の構造や利用のされ方、貴族の一日の生活や国守の生活について検討、『源氏物語』の背景となっている平安貴族の生活と併せて考察することで、古記録をはじめとする文学以外の諸資料が文学を読み解く上で有効に活用できることを示す。

[2004年2月]

建築史研究の新視点〔全3巻〕

西 和夫 著

隣接する諸領域の学際的研究により、双方の認識が深まり豊饒な成果を獲得することは、学史的にも明らかである。著者の40年以上に亘る多角的視点による考察と豊富な史料博搜により、建築史と美術史はもとより文献史学、民俗学、文化財保存学等関連分野における稀有な出会いの実現を果たした。

〔第1巻〕建築と障壁画

定価 27,500円 (税込)

ISBN978-4-8055-0356-0

B5判上製函入 本文436頁 口絵9丁

[1999年2月]

〔第2巻〕建築と民俗・芸能・技術・地震

品切

B5判上製函入 本文446頁 口絵6頁

〔第3巻〕復原研究と復原設計

品切

B5判上製函入 本文370頁 口絵8頁

密教建築空間論

定価 10,450円 (税込)

ISBN978-4-8055-0341-6

藤井恵介 著

A5判上製函入 本文426頁 口絵4頁 挿図83点

わが国における密教の開祖、最澄や弘法大師空海をはじめとする諸密教寺院において行われた灌頂や修法をキーポイントにして、それらの教義がどのように建築的空間や施設を容納していったのか、多くの史料や指図などを援用して具体的に論究し、宗教と建築が人間を核にダイナミックに展開する。

[1998年2月]

近世武家集団と都市・建築

定価 10,450円 (税込)

ISBN978-4-8055-0411-6

藤川昌樹 著

A5判上製函入 本文304頁 挿図43点

本書は、慶長～寛永期の京都に展開された武家集団の居住の場の性格を解明することを通じて、近世武家集団の居住の特質について考察し、当該期の都市・建築像の理解に新たな知見を加え、静態的な空間分析が主流であった建築史学における都市史研究に動態的な分析を導入する意欲作である。

[2002年2月]

いんぐうおよびし ていのず

裏松固禪「院宮及私第図」の研究

定価 71,500円 (税込)

ISBN978-4-8055-0539-7

藤田勝也・京樂真帆子・岩間 香 編

A3判横上製函入 本文70頁 口絵254頁 挿図44点

江戸時代後期のわが国屈指の有職故実研究家、裏松光世（固禪、1736～1804）によって、公家の住宅やそのしきたりのあり方に関する様々な史料を収集し校訂した著書を準備したのが、『院宮及私第図』である。有職故実はもとより、建築、歴史、美術、国文学などに影響を与える史料の翻刻と解題、研究、

[2007年2月]

裏松固禪「宮室図」詳解

定価 38,500円 (税込)

ISBN978-4-8055-0797-1

藤田勝也 著

B4判上製函入 本文152頁 口絵112頁

江戸後期の有職故実家、裏松固禪（1736～1804）が編纂した「宮室図」の全容を影印、紹介する。図版篇、本文篇の二部構成からなり、詳細な註解を施してその意義を明らかにする。美術史、国史、建築史、住宅史の分野に新知見を提示する労作。

[2018年2月]

関東地方の屋敷林

定価 12,100円 (税込)

ISBN978-4-8055-0748-3

不破正仁 著

A5判上製函入 本文308頁 口絵12頁 挿図205点

「屋敷林」は建築学や、農林学・地理学・気候学等の分野で多角的に評価されている。屋敷林全体の配置・形態について、800枚以上の明治期の銅版画を分析し景観構成要素を解明し、さらに関東地方を対象に約100件の屋敷林の現状調査を行い、景観史研究に新たな着眼点を提示する。

【日本造園学会賞（著作部門）受賞】

[2016年2月]

木造建築遺産保存論

定価 13,200円 (税込)

ISBN978-4-8055-0861-9

マルティネス アレハンドロ 著

A5判上製函入 本文392頁 口絵8頁

従来、「木」対「石」の構図で語られてきた、日本と西洋の建築遺産保存の比較。本書は、この対立の構図を乗り越えるために、両者の木造建築遺産保存に注目し、建築遺産の評価基準の違いなどの理念的な側面を踏まえつつ、日本の特質を浮かび上がらせ、その課題と今後の展望を論じる。

【日本イコモス奨励賞受賞】

[2019年2月]

古代の神社造営

定価 11,000円 (税込)

ISBN978-4-8055-0894-7

丸山 茂 著

A5判上製函入 本文224頁

古代の神社建築について、『日本書紀』『古事記』といった史料の記述から、古代の神社について文献史料による歴史の提示を試みることで、神社建築の形成の経緯を考察し、古代神社史から中世建築史への橋渡しを論述する。

[2021年7月]

近世寺社境内とその建築

定価 13,200円 (税込)

ISBN978-4-8055-0403-1

光井 渉 著

A5判上製函入 本文416頁 挿図77点

日本近世の寺社境内とそこに所在した建築を対象とし、寺社境内の空間形成に携わった集団が、いかなる条件のもとで何を指向し何を創り上げたかといったプロセスを解明し、近世社会の様相を寺院境内とその建築から描く。社会・権力・民衆・寺社との相関関係を如実に表す事例を取り上げ検討。

【建築史学会賞受賞】

[2001年11月]

木割表現論

定価 12,100円 (税込)

ISBN978-4-8055-0731-5

山岸吉弘 著

A5判上製函入 本文296頁 挿図80点

木割書とは、主に数的比例関係によって建築を表現する理論「木割」を中心に、装飾図案や生活用品の雛形など広く建築に関わる要素を記録した史料を指す。本書は「王子造り」という建築様式に着目し、多彩な原典とともに木割書の世界をより深く追求する意欲的研究である。

[2014年12月]

ダマスクス 都市の物語

定価 5,500円 (税込)

ISBN978-4-8055-0972-2

ロス・バーンズ 著 松原康介 編訳 前田修・谷口陽子・守田正志・安田慎 共訳

A5判上製カバー装 本文464頁 図絵16頁

紀元前7000年頃に創生したシリアの首都であるダマスクスが、アラム人、ペルシア人、ギリシヤ人などによる支配を経て、独立に至るまでの波乱に満ちた、多彩で複雑な都市の歴史を辿る。本書はRoss Burns, *Damascus: A History*, 2nd Edition, Routledge, 2019.の全訳に、日本語版のために著者提供のカラー写真31点を追加した、シリアの歴史を知る必携書である。

[2023年3月]

アレppo 都市の物語

定価 4,400円 (税込)

ISBN978-4-8055-0973-9

ロス・バーンズ 著 松原康介 編訳 柴田大輔・藤田康仁・杉本悠子・川本智史 共訳

A5判上製カバー装 本文400頁 図絵16頁

古代からイスラーム時代にかけて発展し、中東地域で最も長く存続してきた都市の一つであるアレppo。その歴史と豊かな都市空間を探求する。本書はRoss Burns, *Aleppo: A History*, Routledge, 2016.の全訳に、日本語版のために著者提供のカラー写真30点を追加した、シリアの歴史を知る必携書である。

[2023年3月]

日本建築技術史の研究 大工道具の発達史

定価 41,800円 (税込)

ISBN978-4-8055-0465-9

渡邊 晶 著

A4判上製函入 本文512頁 挿図800点

縄文時代から江戸時代まで大工道具の発達過程を建築生産技術と関連付けて明らかにした決定版。800点を越す写真図版と表により実証的に説明し、科学史、考古学、建築、歴史と多分野に亘り必備の書。

[2013年6月 (再版)]

建築技術比較発達史の研究

ユーラシア大
陸の西と東

定価 38,500円 (税込)

ISBN978-4-8055-0735-3

渡邊 晶 著

A4判上製函入 本文496頁 口絵48頁 挿図430点

前著『日本建築技術史の研究』(2013年重版)に続き、本書ではユーラシア大陸の西と東に研究対象を広げ、斧・鑿・鋸・カンナなどの建築用主要道具の発達史を明らかにし、つくられるモノ(木の建築)とつくるヒト(建築工人)の関連の中で、日本における建築技術史上の画期の背景や要因を広い視野から考察する。

[2015年2月]

西洋建築史

建築美学講義

定価 4,400円 (税込)

ISBN978-4-8055-0555-7

上松佑二 著

A5判上製カバー装 本文260頁 挿図143点

著者は、『世界観としての建築』や『建築空間論』の執筆で著名な建築美学論者である。永年に亘り東海大学で建築空間論を講義されてきた成果を纏めた本書は、第1講「建築美学の課題」から始まり、第13講「空間美—美的空間体験」まで、西洋建築史のほとんどの領域を叙述する広範囲なものである。

[2008年3月]

建築の形態と比例の研究

古代ギリシアから現代へ

定価 11,000円 (税込)

ISBN978-4-8055-0475-8

浅野捷郎^{としお} 著

A5判上製函入 本文320頁

古代ギリシアから現代にいたる建築の形態と比例の研究書。ここでいう建築比例とは、建築形態の量的規定の操作概念および方法と定義され、建築形態とは建築構成の基本形式と寸法関係を定義する。ブルネレスキやル・コルビュジエなどを例にして、それらの建築形態の関係を分析する。

[2004年7月]

アルベルティ「建築論」

定価 22,000円 (税込)

ISBN978-4-8055-0010-1

L・B・アルベルティ 著 相川 浩 訳

B5判上製函入 本文390頁 図6頁 挿図44点

アルベルティが著した建築論は、西洋建築史上2番目の古典であり、後世に大きな影響を与えてきた。建築技術の細部から都市問題まで、建築美の理想的特性を説いた本書は、古典主義建築の本質を説くとともに、ルネサンスから近世へかけての古代ローマ的装飾様式の資料としても重要である。

[1982年11月]

パルテノンの世界

その建築システムの復元的考察

定価 16,500円 (税込)

ISBN978-4-8055-0584-7

池 浩三 著

B5判上製カバー装 本文198頁 挿図75点

世界の建築史上、永遠の規範であり、西欧文明の象徴的頂点に位置するパルテノン神殿は、古来より黄金比の完璧な原型とまで讃えられてきた。

本書は、その偶像的建築形態に対し、実地調査による欧米の学界を驚かす様々な発見・知見を実証し、認識を新たにさせる瞠目すべき数々の貢献を提示した。

[2008年11月]

様式の生成 19世紀ドイツ建築論における「様式統合」理念に関する研究

定価 14,300円 (税込)

ISBN 978-4-8055-0779-7

石川恒夫 著

A5判上製函入 本文432頁 挿図98点

19世紀ドイツ建築論における「様式統合」理念に関する研究の公刊。付録に「いかなる様式で我々は建築すべきか」(H・ヒュプシュ)の貴重文献を収録。

[2017年2月]

バスティード フランス中世新都市と建築

定価 4,730円 (税込)

ISBN 978-4-8055-0598-4

伊藤 毅 編

B5判カバー装 本文196頁 図絵4頁

バスティード (bastide) とは、13世紀半ばからおよそ100年の間にかけて建設された一群のヨーロッパ中世新都市のことである。本書は2005年から「バスティード研究会」が行ってきた、創立の歴史的考察から、詳細な実地調査報告までを含む3年度にわたる一連の共同研究の成果である。

[2009年8月]

フリースラント オランダ低地地方の建築・都市・領域

定価 4,730円 (税込)

ISBN 978-4-8055-0852-7

伊藤 毅 編

B5判カバー装 本文236頁 図絵8頁

オランダ北部に位置するフリースラント州における、中世より独自の文化的・歴史的な連繋をもって続いてきた「11都市」と呼ばれる都市群を、実地調査と古地図などの資料をもとに分析、その背景を明らかにする、数年に及ぶ詳細な言質調査をベースに学際的視点から明らかにした我が国初の成果であり、フィールド調査を通してあらたな都市史の方法論の構築を目指す。

[2020年3月]

スペイン初期中世建築史論 10世紀レオン王国の建築とモサラベ神話

定価 17,600円 (税込)

ISBN 978-4-8055-0786-5

伊藤喜彦 著

A5判上製函入 本文696頁 図絵8頁 挿図213点

本書は異なる文化が接触する辺境であり、社会のパラダイムが大きく変化する過渡期であった10世紀のイベリア半島初期中世におけるプレロマネスク建築を、文献資料と現存する遺構の造形・工法の分析から、知られざる初期中世の建築と社会を描き出し社会的文脈と建築的造形とから論じた本格的研究書である。【建築史学会賞受賞】

[2017年2月]

ルネサンス・パラッツォの誕生

定価 33,000円 (税込)

ISBN 978-4-8055-0981-4

稲川直樹 著

B5判上製函入 本文492頁 図絵8頁

イタリア・ルネサンス期の近世市民社会の発展によって生まれてきた、王宮や豪華な私邸または重要な公共建築物などを示す新しい建築類型“パラッツォ”がどのように形成されたかを、古代ローマからルネサンスまで通覧し、多くの具体的な作品からその成立をたどる。

[2024年3月]

ウィーンのシュテファン大聖堂

定価 19,250円 (税込)

ISBN978-4-8055-0787-2

岩谷秋美 著

A5判上製函入 本文544頁 挿図241点

ドイツ後期ゴシックを代表する建築であるウィーンのシュテファン大聖堂。様々な要素の複合体として完成した点に注目し、独創的な形態や荘厳な作用が導き出される原理を明らかにするとともに、その背景となる動機を解き明かす。

[2017年2月]

近代建築 [特装版]

定価 27,500円 (税込)

ISBN978-4-8055-0680-6

オットー・ヴァーグナー 著 樋口 清・佐久間博 訳

A4判布装上製函入 本文218頁 (内2色刷り188頁) 挿図570点

“建築の必要様式”を主張した近代建築の古典的教科書とされる本書は、建築が歴史様式や折衷主義の混沌たる様相を呈していた19世紀末、建築の正統に位置し、近代建築理念を真に体系化し、広範な影響を及ぼした。原書と装幀・判型を同じくし、本文全頁に図版を配置した、改訂新訳と相俟つての豪華愛蔵版。

[2012年7月]

建築講話 [全2巻]

ヴィオレ＝ル＝デュック 著

中世建築を広義の立脚点から解説していったヴィオレ＝ル＝デュックの軌跡は、結論として普遍的な建築哲学に到達している。『建築講話』は全歴史を通じて最も刺戟的な建築論のひとつとなり得ている。本書は全20講よりなり、I巻は第10講まで、II巻には第11講から第20講までを注釈を付して訳出する。40年の時を経てこの古典の邦訳を完結した。

第I巻

定価 30,800円 (税込)

ISBN978-4-8055-0499-4

飯田喜四郎 訳

B5判上製函入 本文424頁 口絵18頁 挿図105点

[2004年11月]

第II巻

定価 38,500円 (税込)

ISBN978-4-8055-0857-2

飯田喜四郎・黒岩俊介 訳

B5判上製函入 本文360頁 口絵20頁 挿図92点

[2024年5月]

ル・コルビュジエの手

定価 1,980円 (税込)

ISBN978-4-8055-0530-4

アンドレ・ヴォジャンスキー 著 白井秀和 訳

A5判上製カバー装 本文138頁 挿図20点

著者は20年余にわたりル・コルビュジエのアトリエで後年はチーフとして、各地の著名なユニテ・ダビタシオンや数々の設計・建設に協働して携わった腹心の部下である。ル・コルビュジエ生誕100年を記念し、「手」をキーワードに師匠を偲んで書かれた生身のル・コルビュジエの追憶である。

[2006年11月]

アントニオ・サンテリア「新都市」註解

定価 57,200 円 (税込)

ISBN 978-4-8055-0541-0

鶴沢 隆 編・解説

A3判上製函入 2分冊 (カルトン入 10点 解説篇 104頁)

ほぼ 100 年前に「2000 年の建築をめざして」とも謳われた「未来派建築」の中心的建築家 A・サンテリア。1914 年に発表された「新都市」のドローイングは、近代建築の到来を予告するメルクマールとして歴史に刻まれている。その主要作品 173 点の原寸オールカラーによる復刻が実現した。

[2007 年 2 月]

パリの歴史的建造物保全

定価 18,700 円 (税込)

ISBN 978-4-8055-0734-6

江口久美 著

B5判上製函入 本文 288 頁 □絵 2 頁 挿図 160 点

1897 年設立のパリ市の諮問機関「古きパリ委員会 (CVP)」が、いかに歴史的記念物保全に都市史的視点を導入して、その後のフランスの豊かな都市景観に大きく貢献している歴史的環境保全制度の展開への基点となりえたかを明示する。

[2015 年 1 月]

イングランド住宅史

定価 40,700 円 (税込)

ISBN 978-4-8055-0480-2

大橋竜太 著

B5判上製函入 本文 700 頁 挿図 581 点

原始時代の住居から現代建築にいたるまで、イングランドにおける、すべての時代の住居建築に関して、政治・社会史、建築史などの広い分野から全編を書き下ろして叙述、また数多くの写真や図面を掲載し、日本の「建築学」をベースにした総合的な視点から初の通史としての全体像を提示する。

[2005 年 2 月]

建築オーダーの意味

古代・中世・ルネサ
ンスの古典オーダー

定価 41,800 円 (税込)

ISBN 978-4-8055-0466-6

ジョン・オナイアンズ 著 日高健一郎 監訳

A4判上製函入 本文 406 頁 挿図 203 点

古代から近世に至るオーダーの変遷を作例と史料に基づいて記述する。ウィトルウィウスやアルベルティなどを例にオーダー成立の史的背景、古典様式理念など、形態と様式の背景にある建築思潮の系譜と発展を重視し、西洋建築のみならず美術史、文化史などの研究者にとっても重要な内容を含む。

[2004 年 9 月]

中世後期シエナにおける都市美の表象

定価 16,500 円 (税込)

ISBN 978-4-8055-0692-9

片山伸也 著

A5判上製函入 本文 288 頁 □絵 8 頁 折込地図 1 丁 挿図 165 点

都市国家文化の繚乱期にあったイタリア中部トスカーナ州シエナを対象として、都市共同体の美意識が都市空間に主体的に表出する様を建築単体のもつ芸術性も含めて「都市美」と定義し、都市国家の様態ごとの都市美の表象を明らかにする。都市国家の体制と都市空間の相関性を示した、今日の示唆にも富む労作。【地中海学会ヘレンド賞受賞】

[2013 年 1 月]

ゴシック様式成立史論

定価 15,400円 (税込)

ISBN978-4-8055-0689-9

加藤耕一 著

A5判上製函入 本文356頁 挿図212点

ゴシック様式の黎明期に焦点を絞り、「構築術的空間論」と名付けた方法論でゴシックという建築様式の始まりを再定義し、その成立を明らかにする。この方法論は、建築の構法に着目した具体的な建築空間論であり、重要で独創的な視点をもつ極めて先駆的な研究として西洋建築史学に新たな方向を提示する。

[2012年11月]

ゼムパーからフィードラーへ

定価 3,850円 (税込)

ISBN978-4-8055-0760-5

河田智成 編訳

B6判上製カバー装 本文260頁 挿図5点

ゼムパーの『建築芸術の四要素』とフィードラーの『建築芸術の本質と歴史』、二つの著名な論考を取録し解説を加えた。ゼムパーとフィードラーは、ともに建築と美術の根源的生成における近代理論付けに尽力。ゼムパーの著『様式』に先駆けた、本書の考察に淵源をもつゼムパーの重要な文献の本邦初訳。

[2016年5月]

近現代建築史論 ゼムパーの被覆／様式からの考察

定価 5,280円 (税込)

ISBN978-4-8055-0785-8

川向正人 著

A5判上製カバー装 本文296頁 挿図120点

19世紀ドイツの建築家ゼムパー（1803—1879）の思想には、建築を部分的に変化させるのではなく、現象として見える像の全体を変えてしまうほどの力がある。この場合、「現象として見える像の全体」とは様式に他ならず、それは新様式創生論とも言えるであろう。本書はその様式の本質と、わが国を初め現代建築への多大な影響を論じる。

[2017年5月]

ジェフリー・スコット 「ヒューマニズムの建築 趣味の歴史の研究」 注解

定価 68,200円 (税込)

ISBN978-4-8055-0662-2

桐敷真次郎 編著

B5判上製函入 本文960頁 挿図522点

1924年刊行の本書の著者は、イタリアのルネサンス・バロック建築への深い洞察から、真に生命力のあるヒューマンな建築の本質を抽出し、現代まで版を重ねることで、様々な建築の動向を批判しながらアクチュアルな規範を提供し続けた。詳細な訳注と解説、索引を付し、余すことなく注解した定本となる決定版。

[2011年11月]

ル・コルビュジエと近代絵画 二〇世紀モダニズムの道程

定価 3,520円 (税込)

ISBN978-4-8055-0864-0

呉谷充利 著

A5判上製カバー装 本文352頁 図絵4頁

近代建築を代表する建築家であるル・コルビュジエの絵画に着目し、1910年代の初期の絵画から1950年代までのその変遷を追いながら、これと並行する建築の変化も検証することで、ル・コルビュジエの絵画と建築をひとつの統一的な芸術活動としてとらえ、彼の創造的精神を考察する。

[2018年12月]

建築論全史 古代から現代までの建築論事典〔全2巻〕 セット定価71,500円(税込)

ハンノ・ヴァルター・クルフト著 ちく かくぎょう 竺 覧 訳

本書は、ウィトルウィウスから現代までの建築論を通じて、建築がいかに建てられ、いかなる法則によって構築されてきたのか、を全史的に論じた通史である。各々の時代に著された建築論を知ることが当時の社会・政治・宗教・風土・習俗・権力構造など換言すればどのような「時代精神」によって構築されてきたかを如実に教えてくれる。これほど包括的かつ広範囲に建築理論を扱った歴史書はなく、世界各国で翻訳され、読まれている建築論事典。

第Ⅰ巻

品切

B5判上製函入 本文440頁 挿図151点

[2009年9月]

第Ⅱ巻

定価38,500円(税込)

ISBN978-4-8055-0607-3

B5判上製函入 本文560頁 挿図56点

[2010年6月]

聖堂の現象学 ブルーストの『失われた時を求めて』にみる

定価9,900円(税込)

ISBN978-4-8055-0517-5

黒岩俊介 著

A5判上製函入 本文370頁 挿図34点

小説という言語媒体を通して、時と空間を超越することによって、ブルーストは自らの内面世界に、回想と記憶の大聖堂を構築する。本書は彼の『失われた時を求めて』に登場する聖堂を取り上げ、その建築体験の描写から建築的事象の本質を捉えようとした俊英の学際的意欲作である。

[2006年1月]

叡智の建築家 記憶のロクスとしての 16-17世紀の庭園、劇場、都市

定価9,900円(税込)

ISBN978-4-8055-0712-4

桑木野幸司 著

A5判上製カバー装 本文544頁 口絵8頁 挿図62点

未曾有の情報の洪水と伝統的世界観の崩壊を背景に、初期近代ヨーロッパの知識人、すなわち「叡智の建築家」が設計した知の建築群をめぐる「精神建築史」の旅路。建築・美術史を越え多領域を横断する独創的研究成果である。地中海学会ヘレンド賞受賞のイタリア語版を、著者自ら改稿した日本語オリジナル版。

[2013年12月]

ゴシック建築リブヴォールトのルーツ

定価11,000円(税込)

ISBN978-4-8055-0794-0

五島利兵衛 著

A5判上製函入 本文268頁

ゴシック建築石造天井リブヴォールトのルーツの解明に必要な施工法の問題としてその曲面（パネル、ウェブ）がフリーハンド工法 freehand method で造られたという推定を理論的に考察し、実験的に検証する力作。

[2017年11月]

建築家アンリ・ラブルースト

定価 3,520円 (税込)

ISBN978-4-8055-0720-9

ピエール・サディ 著 丹羽和彦 訳 福田晴虔 編

A4判カバー装 本文104頁 挿図181点

フランス19世紀の建築家・建築教育者であり、名建築と謳われるサント・ジュヌヴィエーブ図書館の設計者であるラブルースト（1801～1875）。本書は1976年に開催されたラブルースト展を期に収集された資料を基に企画された図録であり、ラブルースト研究の一級史料。

[2014年4月]

崩壊について

定価 2,860円 (税込)

ISBN978-4-8055-0527-4

佐藤 彰 著

A5判上製カバー装 本文242頁 挿図243点

「崩壊」。建造物が免れえぬこの運命に人びとはどのように対してきたか。建築や構造物は人間が造り上げた以上、生命体と同様ついには死にいたる。ピラミッド、ピサの斜塔やヨーロッパの教会堂、出雲大社や羅城門から文学作品まで、古今東西の事例の「死にいたる諸相」を検視した建築崩壊の歴史。

[2006年8月]

建築における近代

19世紀欧米の建築家・
建築産業に関する研究

定価 28,600円 (税込)

ISBN978-4-8055-0621-9

佐藤 彰 著

B5判上製函入 本文490頁 挿図217点

19世紀の欧米に建築産業が誕生する過程を主題にして、建築における近代を、建築を生み出す担い手としての建築家と建築産業の営為を通して考察した。当時の多くの雑誌の様々な広告に掲載された大工道具や機械などの図に着目して、建築産業構造の成立を論じたユニークな歴史研究。

[2010年2月]

ゴシック空間の形成

定価 33,000円 (税込)

ISBN978-4-8055-0976-0

佐藤達生 著

B5判上製函入 口絵8頁 本文416頁

ゴシック建築の身廊壁が線条的特質を獲得する過程（線条化の過程）とゴシック建築の構造的特徴がそれにどのように関わったかを明らかにし、中世建築史上非常に重要な論題であるゴシック身廊空間形成の解明に迫る著者永年の研究成果。

[2023年10月]

ル・コルビュジェ書簡撰集

定価 38,500円 (税込)

ISBN978-4-8055-0764-3

ジャン・ジャンジェ 編 千代章一郎 訳・註解

A4判上製函入 本文662頁 口絵16頁 挿図60点

ル・コルビュジェがその生涯で送った書簡の中から300通余りを精選し年代順に編纂、詳細な訳註を付したフランス語原著の翻訳書であり、家族への手紙や建築設計に関わる手紙、ピカソや丹下健三といった幅広い交際を示す私信、政治家への意見状などを収録。ル・コルビュジェの作品理解を深める一助となる必携書。

[2016年6月]

南イタリア都市の居住空間

定価 49,500円 (税込)

ISBN 978-4-8055-0487-1

陣内秀信 編

A4判上製函入 本文560頁 口絵16頁 挿図900点

アマルフィ (カンパーニャ地方)、レッチェ (プーリア地方)、シャッカ (シチリア)、サルデーニャ (島) など南伊の伝統的都市を永年調査した実測図面や住宅内部の写真を駆使し、建築類型学的手法を用いて、それらがいかに形成・変容してきたかを人間生活と建築を中心に分析考察する。[英文併記]

[2005年4月]

建築史 [全2巻]

セット定価 115,500円 (税込)

オーギュスト・ショワジー 著 桐敷真次郎 訳

フランス19世紀に活躍した才能豊かな建築家ショワジーが、世界のあらゆる建築様式の根底にある、共通の原理・法則を解明。徹底的に構築することに眼目をおいたその建築論は、ル・コルビュジエをはじめ、多くの建築家に影響を与えた現在も未来も読み継がれる世界建築史の古典的名著。原著で不透明な記述に訳注を補足、巻末には詳細な索引を作成した。

上巻

定価 49,500円 (税込)

ISBN 978-4-8055-0561-8

B5判上製函入 本文768頁 挿図412点

[2008年1月]

下巻

定価 66,000円 (税込)

ISBN 978-4-8055-0562-5

B5判上製函入 本文964頁 挿図455点

[2008年10月]

パラディオ図面集

定価 110,000円 (税込)

ISBN 978-4-8055-0274-7

O・B・スカモッツィ 著 長尾重武 編

シート寸法 (479×650mm, 479×325mm) 布貼函入 別冊解説89頁

パラディオ研究に決定的な貢献をするとともに、建築の歴史に偉大な記念碑を打ち立てた本図面集には、スカモッツィが驚くほど詳細な測量に基づいて描いた平面図、立面図、断面図の精巧なエッチング図のうち現存建物の30棟62図をすべて原寸大に複製して収録した豪華図面集のファクシミリ版。

[1994年1月]

回廊 KAIRO 鈴木恂写真集

定価 10,450円 (税込)

ISBN 978-4-8055-0449-9

まこと
鈴木 恂 写真・文

B4判変形上製カバー装 本文268頁 モノクロ写真235点

ここでいう「回廊」とは、柱廊、列柱廊、周廊、拱廊、通廊などを含めた意味で使われる。形態的、様式的、技術的な言葉の厳密さを採らず、それらがもたらす空間的または風景的な意味に重きをおいている。世界150箇所の「回廊」をつなげて235枚の写真におさめた、建築家40年の空間遍歴の記録。

[2004年9月]

ルドゥー「建築論」注解〔全2巻〕 セット定価56,100円（税込）

白井秀和 編著

クロード＝ニコラ・ルドゥーは、フランス大革命期の新古典主義建築家である。本書は彼が崩れゆく時代から後世へ向けて発信した遺言ともいえる建築論である。壮大な幾何学的図形に純化された幻視の建築であり、形態が用途を表現する「語る建築」の造形概念を現代の建築界にもたらし、永遠の未来を希求して現在も飛翔を続ける空前絶後の建築論の完訳。

I 磯崎新・序

定価27,500円（税込）

ISBN978-4-8055-0267-9

B4判上製函入 本文321頁 挿図445点

[1993年11月]

II

定価28,600円（税込）

ISBN978-4-8055-0268-6

B4判上製函入 本文277頁 挿図443点

[1994年10月]

ビエール・ル・ミュー「万人のための建築技法」注解

定価10,450円（税込）

ISBN978-4-8055-0450-5

ミュー

鈴木 隆 訳・解説

A4判上製函入 本文174頁 挿図82点

17世紀にパリで刊行されたル・ミューの建築書は、都市空間の構成要素としての一般住宅家屋の重要性に着目し、現実在即してその合理的な建築形態を追求した先駆的な作品である。その内容は現代の都市計画や住宅建築が抱える課題に対しても大きな示唆を与え、本書の資料的価値を高めている。

[2003年11月]

パリの中庭型家屋と都市空間 19世紀の市街地形成

定価10,450円（税込）

ISBN978-4-8055-0489-5

鈴木 隆 著

A5判上製函入 本文456頁 挿図56点

アパートマン形式の中庭型共同住宅家屋により構成される典型的なパリの市街地の19世紀における都市空間の形成過程を通じて、その成立条件を家屋や街路などの空間的要素と、公正証書原本や土地台帳図などの一次資料から、どのような実態と特性をもっているのかを詳細に分析した都市論。

【日本不動産学会著作賞・都市住宅学会賞受賞】

[2005年2月]

フィリベール・ド・ロルム 建築書 注解

定価38,500円（税込）

ISBN978-4-8055-0955-5

鈴木 隆 編・著

B5判上製函入 本文770頁

フランス人が著した先駆的な建築書として重要な位置付けをもつ、16世紀フランス・ルネサンスの建築家フィリベール・ド・ロルムが建築に関する主題を総合的に論じた二つの著作を日本語に翻訳し、さらに読解の補助となる訳注と解説を付して、その全容および意義を明らかにする。

[2022年3月]

ヴィクトリアン・ゴシックの崩壊

定価 27,500円 (税込)

ISBN978-4-8055-0307-2

鈴木博之 著

B5判上製函入 本文450頁 挿図118点

19世紀後半、ヴィクトリアン・ゴシック末期の英国建築の状況を日本建築との関連性、当時の建築保存論、様式論の転換という三つの視点から明らかにする。コンドル、スコット、ラスキン等の建築論を通じ、体制と反体制、英国建築の精神風土、その特質の意味を問い、新しい局面を開拓した論文集。

【日本建築学会賞受賞】

[1996年2月]

建築シンボリズム 帝政ローマと中世における

定価 30,800円 (税込)

ISBN978-4-8055-0407-9

ボルドウィン・スミス 著 河辺泰宏・辻本敬子・飯田喜四郎 訳

B5判上製函入 本文358頁 挿図210点

著者は建築史の分野で、建築のシンボリズムという極めて困難なテーマを主軸として、新たに古銭学・典礼学・神話学の成果を動員し、オリエント、古代ギリシャ、ローマ、中世、ビザンティン、イスラムに及ぶ研究手法を確立した。古代から中世に及ぶ建築史の体系的な再構築を試みた歴史的名著。

[2002年2月]

建築美学

定価 12,100円 (税込)

ISBN978-4-8055-0447-5

ヘルマン・ゼルゲル 著 吉岡健二郎 訳

A5判上製函入 本文466頁

本書は、ドイツの建築家、建築理論家ヘルマン・ゼルゲルが、1921年に「建築芸術の理論」叢書として刊行した建築美学の古典である。巻末に芸術理論家ダゴベルト・フライの高名な論文「建築の本質規定」を付して、建築美学の最初の文献であるゼルゲルの考察の高邁な本質を論じる。

[2003年11月]

ル・コルビュジエ図面撰集：美術館篇

定価 22,000円 (税込)

ISBN978-4-8055-0759-9

千代章一郎 編

A4判上製函入 本文336頁 挿図202点

ル・コルビュジエが残した3万5千点に及ぶ図面資料のうち、重要な図面の背景・主題・手法の解釈などを行い研究。本巻ではアーメダバード、東京、チャンディガールの美術館の制作過程を復元・再編し図面を収録。またド・カンシーなどの美術館論を考察し、ル・コルビュジエ独自の「美術館」の位置づけを行う。【日本建築学会賞受賞】

[2016年3月]

新しい住居 つくり手としての女性

定価 2,750円 (税込)

ISBN978-4-8055-0473-4

ブルーノ・タウト 著 斉藤^{ただし}理 訳

B5判変形上製カバー装 本文104頁 挿図65点

第二次世界大戦前に来日し、桂離宮の評価などにおいて日本・世界の建築界に多大な影響を与えた建築家ブルーノ・タウトによって著された本書は、女性を対象として建築的視点から煩雑な家事作業をいかに軽減できるかを説く。建築家タウトの住宅論を理解する「概説編」として刊行する。

[2004年8月]

一住宅

定価 3,850円 (税込)

ISBN978-4-8055-0474-1

ブルーノ・タウト 著 斉藤 理 訳

B5判変形上製カバー装 本文138頁 口絵8頁

ブルーノ・タウトがベルリン郊外に計画した自邸の設計プロセスを、始めから終わりまで事細かに解説した本書は、建築家タウトの住宅論の「実践編」として読み解くことができる。原書にはない彩色図版・訳者撮影の現状写真を参考として付し、本邦初訳にて刊行する。

[2004年8月]

都市の冠

定価 4,400円 (税込)

ISBN978-4-8055-0676-9

ブルーノ・タウト 編著 杉本俊多 訳

B5判変形上製カバー装 本文176頁 挿図83点

建築、都市に関する自らの論文と設計案を中核としつつ、表現主義の詩人でSF小説家のシェーアバルト、政治ジャーナリストのパロン、美術評論家であったベーネという3人の支持者の文章を加え、タウト自身が独特の編集を行った、彼の作品ともいえる書籍。邦訳にあたっては、原著の構成を忠実に再現した。

[2011年12月]

建築講義要録

定価 8,250円 (税込)

ISBN978-4-8055-0722-3

ジャン・ニコラ・ルイ・デュラン 著 丹羽和彦・飯田喜四郎 訳

B5判上製カバー装・横開き 本文232頁 挿図78点

本書は、フランス国立理工科学校において、1799年から1834年まで建築概論の講義を担当した建築家・美術理論家デュラン教授の講義録全2巻を邦訳し、多くの図版を補足として加えて1冊にまとめたものである。建築の経済性及び実用性を強調し、ヨーロッパ全体に影響を与えた革命的な建築理論を示す。

[2014年7月]

アカデミーと建築オーダー

定価 33,000円 (税込)

ISBN978-4-8055-0486-4

土居義岳 著

B5判上製函入 本文580頁 挿図489点

西洋建築において古典主義の5つのオーダーという造形の文法的体系はその奥義とみなされている。フランスの王立アカデミーにおいて、制度としての建築のオーダーの体系あるいは雛形が編纂されていた実態を多くの現地資料を駆使して明らかにするオーダー論の労作。

[2005年4月]

知覚と建築

クロード・ペロー『五種類の円柱』とその解説史

定価 14,300円 (税込)

ISBN978-4-8055-0778-0

土居義岳 著

A5判上製函入 本文468頁

17世紀に出版されたクロード・ペロー「太古人たちの方法による五種類の円柱のオルドナンス」の翻訳とともに、ペローを論考した主要論文の解題を収録。訳者自身の読みを追加して、ペローを核とする西洋建築思想の展開をとりまとめた文章も掲載。

[2017年2月]

建築家ガウディ全語録

定価 39,600円 (税込)

ISBN978-4-8055-0554-0

鳥居徳敏 編・訳・注解

B5判上製函入 本文660頁 挿図408点

世界の建築史上、アントニオ・ガウディの存在ほどその建築意匠・構想が、独創的かつ秘密に満ちた建築家はいない。本書は焼失を免れ現存する全てのガウディ直筆の文章に、公文書や、周囲の人間が記録したコメントや会話を網羅・収集し、詳細な注を加えた。ガウディ初の全語録の公開である。

[2007年9月]

フランチェスコ・ポッロミーニ **建築作品集** —イタリア・バロックの建築書

定価 17,600円 (税込)

ISBN978-4-8055-0983-8

奈尾信英・岩谷洋子 訳

A5判上製函入 本文400頁

1725年にセバスチャン・ジャンニーニが『建築作品集』として刊行したフランチェスコ・ポッロミーニによる建築書の全文和訳とその図版の公開。多くの図版とその解説文からなり、大建造物の全体から各部に至るまで、建築家ポッロミーニが天才的な力量を発揮した独創的で統合的なデザインを理解することができる労作である。

[2024年8月]

フィッシャー・フォン・エルラッハ **「歴史的建築の構想」注解**

定価 27,500円 (税込)

ISBN978-4-8055-0296-9

中村恵三 編著

B4判上製函入 本文304頁 挿図168点

1721年ハプスブルグ家の宮廷建築家フィッシャーにより出版された史上初の世界建築史銅版画集「歴史的建築の構想」は、バロック的コスモポリタニズムから新古典主義に至る世界観と建築思潮の変遷を理解する上で欠くことのできない貴重な研究資料である。その全図版を翻刻し、全貌を解明する。

[1995年2月]

建築論の射程〔全2巻〕

セット定価 46,200円 (税込)

中村貴志^{うずし} 著

「建築の理論」については、西欧の世界で2000年以上の時代におよぶ諸思想の蓄積がある。本書はアリストテレス、キケロ、プラトンから、アルベルティ、カント、デカルト、ハイデッガー、ル・コルビュジェに至るまで、世界的視野に立ち諸々の建築思想を包括。ディアテシスのアイデア（適所性の理念）という建築論の根元的な課題に集成しようとする新しい建築論の誕生。

ディアテシスのアイデアⅠ

定価 18,700円 (税込)

ISBN978-4-8055-0377-5

B5判上製函入 本文328頁 挿図14点

[2000年2月]

ディアテシスのアイデアⅡ

定価 27,500円 (税込)

ISBN978-4-8055-0378-2

B5判上製函入 本文390頁 挿図36点

[2001年2月]

シトー会建築のプロポジション

定価 36,300 円 (税込)

ISBN978-4-8055-0488-8

西田雅嗣 著

B5判上製函入 本文526頁 口絵2頁 挿図115点

フランス中世のシトー会教会堂20件の詳細な実測データ・実測図を基に、尺度・寸法という欧米においても十分に研究されてはいない視点を持ち込み、現代の建築に対しても多くの示唆を含みうる中世建築のプロポジションの具体的な姿を論じる。

【建築史学会賞受賞】

[2005年5月]

フランス・クリュニー地方のロマネスク教会堂建築群

定価 26,400 円 (税込)

ISBN978-4-8055-0870-1

西田雅嗣 著

A4判横上製函入 本文320頁 口絵24頁

ロマネスク教会堂が数多く遺るフランス・ブルゴーニュ地方クリュニー群を中心とした地域の村落に散在する、あまり知られていない21のロマネスク教会堂について、10年間にわたる建築考古学調査の成果として、実測図面と写真に解説を付す。仏語併記し、日本だけではなくロマネスク建築研究の基礎資料とすべく刊行する。

[2019年2月]

盛期ルネサンスの古代建築の解釈

定価 24,200 円 (税込)

ISBN978-4-8055-0535-9

飛ヶ谷潤一郎 著

B5判上製函入 本文442頁 口絵4頁 挿図191点

ルネサンスの建築家たちが設計において手本とした古代建築が、彼らの作品にいかなる理由で、そしてどのように表現されているのかという問題を設定し、古代建築の解釈を検討することにより、誤解という否定的側面が、新たな建築の創造という側面で重要な役割を果たしたことが論じられる意欲作。

【地中海学会ヘレンド賞・日本建築学会著作賞・建築史学会賞受賞】

[2007年1月]

セルリオ『建築書』註解

飛ヶ谷潤一郎 編著

B5判上製函入 本文544頁

16世紀のイタリア・ルネサンス建築史においてヴィニョーラ『建築の五つのオーダー』、パラディオ『建築四書』と並ぶ三大建築書、セバ스티アーノ・セルリオによる全七巻におよぶ建築書が本邦初の全訳。

上巻

定価 39,600 円 (税込)

ISBN978-4-8055-0992-0

B5判上製函入 本文328頁 挿図14点

幾何学に関する「第一書」、透視図法に関する「第二書」、古代建築について論じた「第三書」、オーダーについて詳しく論じたセルリオの建築書全体の要である「第四書」、宗教建築について論じた「第五書」に詳細な註と解説論文4編を付して刊行する。

[2024年12月]

下巻

B5判上製函入 2027年度刊行予定

ハギア・ソフィア大聖堂学術調査報告書 〔改訂版〕 定価 38,500円 (税込)

ISBN978-4-8055-0479-6

日高健一郎・佐藤達生 編

B4判上製函入 本文326頁 付図9点

ビザンティン様式の教会堂として最大最美の建築であるトルコ、イスタンブールのハギア・ソフィア大聖堂の実測調査の報告書。各国の専門調査官を動員し、光学測量を駆使して、世界遺産に登録された歴史的建築物の現状記録とその分析的考察として、きわめて大きな学術的意義をもつ。〔英文併記〕

【建築史学会賞受賞】

〔2004年8月〕

対比

定価 8,250円 (税込)

ISBN978-4-8055-0790-2

A・ウェルビー・N・ピュージン 著 佐藤 彰 訳編

A4判上製カバー装 本文140頁 折込1丁 挿図76点

A・ピュージン (1812～1852) は、現在のイギリスの国会議事堂に携わった建築家である。本書は、ゴシック建築の構造だけではなく、主に宗教的道德性の優劣を表明した歴史上、著名な文献である。その崇高な建築と悪しき建築を対比し、彼の信条告白を図化した図版の文字を、訳・編者が世界ではじめて全文解説し、解題を付して本書の歴史的意義を位置づけた一級史料である。〔2017年7月〕

都市への給水

W・K・バルトンの研究

定価 19,800円 (税込)

ISBN978-4-8055-0750-6

平山育男 編著 金出ミチル 訳

A5判上製函入 本文588頁 挿図258点

明治20年に英国より派遣され、我が国の近代上下水道及び衛生施設の調査・設計と日本人技術者の育成に尽力したバルトンの衛生工学における業績について、著書『都市への給水』の初の邦訳及び解説によりその全貌を明示する。

〔2015年11月〕

イタリア・ルネサンス 建築史ノート〈1〉 ブルネッレスキ

定価 7,150円 (税込)

ISBN978-4-8055-0667-7

せいいけん
福田晴虔 著

A5判上製カバー装 本文344頁 挿図179点

いまだに多くの妄説と誤解に包まれたイタリア初期ルネサンスの建築家ブルネッレスキ (1377-1446) を、史料と遺構の徹底的な再検討を通じて洗い直し、「建築」の独自性追求という視点から捉え直す試み。

【建築史学会賞受賞】

〔2011年9月〕

イタリア・ルネサンス 建築史ノート〈2〉 アルベルティ

定価 7,150円 (税込)

ISBN978-4-8055-0668-4

福田晴虔 著

A5判上製カバー装 本文432頁 挿図193点

15世紀後半、市民社会の理想が急速に色褪せてゆく「初期ルネサンスの危機」の中であって、「万能の天才」とされ、また容易には素顔を顯さない「仮面の人」ともされる孤高の人アルベルティを、殊更に「建築家」という営みに向わせたもの、またそこに彼が求めたものはなんであったか。その多面的な活動の中での建築の位置を、新たな視点から著作と作品の再解釈を通じて探ってゆきたい。〔2012年8月〕

イタリア・ルネサンス 建築史ノート〈3〉 **ブラマンテ**

定価 7,150円 (税込)

ISBN978-4-8055-0669-1

福田晴虔 著

A5判上製カバー装 本文456頁 挿図198点

16世紀初頭のローマを中心とした「盛期ルネサンス」建築の創始者として位置づけられるドナート・ブラマンテ。ブルネッレスキが先鞭をつけアルベルティがその体系化を試みた建築技術の独自性追求という課題を、ブラマンテやその世代の人々がいかに受け継ごうとしたか。

[2013年9月]

ル・コルビュジエ みずから語る生涯

定価 5,060円 (税込)

ISBN978-4-8055-0889-3

ジャン・プティ 著 田路貴浩・松本 裕 訳

A5判上製カバー装 本文594頁 図16点

本書はJean Petit: Le Corbusier lui-même, Éditions Rousseau, 1970の全訳であり、ル・コルビュジエ自身が承認した伝記としてきわめて特異な資料である。前半はル・コルビュジエの年譜、後半は各種資料やリストとなっている。年譜はル・コルビュジエ自身による回顧や手紙などを中心に編年体でまとめられている。〔訳者あとがき〕より抜粋)

[2021年2月]

ゴシック建築大成

定価 63,800円 (税込)

ISBN978-4-8055-0661-5

パウル・フランクル 著 ポール・クロスリー 校訂 佐藤達生・辻本敬子・飯田喜四郎 訳

B5判上製函入 本文796頁 図8点 挿図336点

フランクル(1878～1962)は、美術史家ヴェルフリンの高弟であり、本書はその様式理論を450年にわたる全ヨーロッパのゴシック建築に適用し、総合的な理論の構築を体系化した、数あるゴシック研究において並ぶもののない労作である。校訂者クロスリーの15年に及ぶ詳細を極めた注釈・解説付き決定版。

[2011年9月]

ゴシックとは何か 8世紀にわたる西欧の自問

定価 52,800円 (税込)

ISBN978-4-8055-0761-2

パウル・フランクル 著 黒岩俊介 訳

B5判上製函入 本文1000頁 図32点 挿図4点

ゴシック芸術の創始であるサン・ドニ修道院シュジェールから現代までの800年に亘るゴシック史料を丹念に読み解き編纂、その基本原理にかかわる評価や注釈を集成した一大資料集である。本書では800年間遺された歴史史料を網羅、徹底的に史料批判を行い、遺構と史料が相俟つてのゴシック研究を完結させた。

[2016年5月]

ブラマンテ ルネサンス建築の完成者

定価 30,800円 (税込)

ISBN978-4-8055-0412-3

アルナルド・ブルスキ 著 稲川直樹 訳

B5判上製函入 本文388頁 挿図204点

ブラマンテはルネサンス史上最大の建築家である。サン・ピエトロ大聖堂やバチカン宮の原設計を始めとする作品によって、ルネサンス建築は初期から盛期へと決定的に移行した。それまでの研究成果を総合してより広範な読者のために歴史的文化的側面を補いつつ書き下ろされた、基本的文献の全訳。

【ピーコ・デッラ・ミランドラ賞受賞】

[2002年2月]

建築タイプの歴史〔全2巻〕

セット定価 14,850円（税込）

ニコラウス・ペヴスナー 著 越野 武 訳

本書は碩学ニコラウス・ペヴスナーがナショナル・ギャラリー（ワシントンD.C.）で行った講演が元となっている。幅広い聴衆に向けられた講演であったため、難解な議論や論理展開は含まず、平明に建築類型（タイプ）ごとの歴史が語られており、書籍化にあたっては多くの図版が加えられた。各建築についての歴史的・文化的背景を知ること、建築の類型化の背後にある社会の近代化による変化を透かし見ることができる一冊である。

I 国家と偉人の記念碑から刑務所まで

定価 7,150円（税込）

ISBN 978-4-8055-0725-4

菊判上製カバー装 本文344頁 挿図410点

[2014年10月]

II ホテルから工場まで

定価 7,700円（税込）

ISBN 978-4-8055-0726-1

菊判上製カバー装 本文376頁 挿図343点

[2015年4月]

十九世紀の建築著述家たち

定価 9,680円（税込）

ISBN 978-4-8055-0766-7

ニコラウス・ペヴスナー 著 吉田鋼市 訳

菊判上製カバー装 本文594頁 図44点 挿図5点

ペヴスナーは、20世紀を代表する英国の美術史家、建築史家、建築批評家であり、ペリカン美術叢書の編集主幹である。19世紀を代表する歴史上、著名なビュージン、ラスキンなど建築家、建築・美術著述家たち31名の、建築史、美術史、建築論、建築・美術批評にまつわるエッセンスを詳述する。

[2016年7月]

ゴシック大聖堂の建築工匠

定価 29,150円（税込）

ISBN 978-4-8055-0879-4

坊城俊成・坊城ガブリエラ知子 著

A5判上製函入 本文852頁 図64点

完成まで数百年を要するゴシック大聖堂建設の過程を明らかにする！ 中世末期、ストラスブール聖母大聖堂の建築工匠を努めたハンス・ハマー・フォン・ヴェルドが遺した、大聖堂に関する製図図面と文書で構成された画譜を基盤とし、さらに各地に残された大聖堂の建築史を丹念に追うことで、中世ゴシック大聖堂の設計術の内容を解明する。

[2020年1月]

建築的場所論の研究

定価 24,200円（税込）

ISBN 978-4-8055-0339-3

前川道郎 編

B5判上製函入 本文438頁

従来の建築デザインの空間論的手法を超え、空間のように次元としての分割が不可能な実存の場所論の命題のもと、風水・地霊などを含むより総合的な考察を試みた前川道郎博士以下の俊英19名の労作論文集である。

[1998年1月]

パリ都市建築の意味―歴史性

定価 48,400円 (税込)

ISBN978-4-8055-0483-3

松政貞治 著

A4判上製函入 本文590頁 口絵80頁

都市において各時代の様々な設計行為により歴史的に積み重ねられ、また再生されてきた空間的、形態的な表現内容、伝統として受け継がれ人々に共有されてきた意味という都市の歴史性を取り戻すための新たな視点を、パリの都市建築を事例としながら提示する。

[2005年1月]

フランク・ロイド・ライトの建築思想

定価 18,700円 (税込)

ISBN978-4-8055-0696-7

水上^{ゆたか} 優 著

B5判上製函入 本文318頁 口絵1丁

20世紀最大の建築家の一人、ライト (1867～1959)。多く遺された彼の言説への独特な着目を通して、キーワードとなる「言葉」の内へ分け入り、「内から外への建築」を目指した彼の有機的建築思想の指向的な記述・分析を検証して基本概念を明らかにし、その思索と制作および造形思考の主題を解明する。

[2013年2月]

アール・デコ博建築造形論

定価 35,200円 (税込)

ISBN978-4-8055-0614-1

三田村哲哉 著

B5判上製函入 本文472頁 口絵8頁 挿図259点

アール・デコ様式の主要な一源泉と解釈される近代建築史上最も重要な博覧会の一つである1925年パリ現代装飾美術・工芸美術国際博覧会 (アール・デコ博) の会場計画に焦点を当て、計画過程と、計画段階において生じた各展示館の建築設計を規定し得る諸条件を日本の出品事情を含めて詳述した。

[2010年3月]

アール・デコ 戦間期フランスの求めた近代建築

定価 7,480円 (税込)

ISBN978-4-8055-0968-5

三田村哲哉 著

A5判上製カバー装 本文516頁 口絵16頁

今日も世界各地で愛好の止まないアール・デコ、その由縁をフランスに探る。本書は戦間期を中心にフランスで建設されたアール・デコの建築を「パリ」「大西洋側の都市」「地中海側の都市」「戦災都市他、教会堂、記念建造物」と、国内の地域別、一部をビルディング・タイプ別に整理し直し、アール・デコのパリにおける萌芽と興隆、および地方都市への波及と受容の過程を明らかにしたものである。 [2023年3月]

イタリア建築の中世主義 交錯する過去と未来

定価 12,100円 (税込)

ISBN978-4-8055-0589-2

横手義洋 著

A5判上製函入 本文280頁 挿図118点

イタリアが国家統一を成し遂げた19世紀半ばに、ミラノを中心に活躍した建築史家カミッロ・ボイド (1836～1914) をイデオログとして発展した「中世主義」という観点をもって、ヨーロッパ全体の史的考察から浮き上がらせ、初めて統一的にイタリア近代建築の変換点を論究した労作。

【建築史学会賞受賞】

[2008年3月]

トニー・ガルニエ「工業都市」注解

定価 77,000円 (税込)

ISBN978-4-8055-0461-1

吉田綱市 編・訳・著

A3判上製函入 本文112頁 図面164枚

バロック的都市計画を初めて克服し、近代の理想都市の姿をあますところなく提示した近代都市計画史上、画期的な作品とされる164枚の大型の図版からなる図面集。その全ての図面をオリジナル図版と同じ寸法で複製、全図面の索引とデーター一覧を付した詳細な解説を別冊にして刊行する完全版。

[2004年2月]

テストメント

定価 27,500円 (税込)

ISBN978-4-8055-0632-5

フランク・ロイド・ライト 著 樋口 清 訳

B5判上製カバー装 本文260頁 挿図200点

建築家ライトの死の2年前に出版され、人間性のスケール観に基づく設計理念や、著作活動などの建築的キャリアの全ての総和として、数多くの自作建築の図版を掲げて、ライトの思索が結実した結果がその建築＝哲学であることを事例・実証的に表明した、時代を超えた渾身の提言である。

[2010年10月]

石による形と建設 中世石切術から19世紀截石術まで

定価 30,800円 (税込)

ISBN978-4-8055-0602-8

エンリケ・ラバサ・ディアス 著 入江由香 訳

B5判上製函入 本文328頁 挿図296点

本書は、古代から近代における石造建築構造の特色を綴った石の加工の通史である。著者は豊富な遺構の实地調査や理論的方法的知識の素養を基本に、石組構造の技術史を精緻に著述し、どう設計・建設されたのか、建築を構成する石材を加工する技術である石切術の歴史的変遷をもとに解明する。

[2009年9月]

建築史とは何か

定価 2,090円 (税込)

ISBN978-4-8055-0774-2

アンドリュース・リーチ 著 横手義洋 訳

四六判カバー装 本文212頁 挿図18点

現代を代表する気鋭の建築史家による、建築史の全般的な研究をわかりやすく概説する入門書。過去から近年までの建築史学の流れ・建築史家への批評的研究を俯瞰し、太古から現代まで、建築にまつわる様々な主題を論じた知の形式を対象に、建築史の展開、方法、課題を手際よくまとめている。

[2016年10月]

ル・コルビュジエ事典

定価 66,000円 (税込)

ISBN978-4-8055-0540-3

ジャック・リュカン 監修 加藤邦男 監訳

A4判上製函入 本文680頁 カラー図版54点 モノクロ図版547点

ポンピドーセンターの企画のもとに、ル・コルビュジエの生誕百年を記念する一大文化・学術事業として、フランスの文化省が威信をかけて刊行。20世紀最大の建築家といわれるル・コルビュジエの145の主要な項目を代表的研究者61名による詳細な論考と多彩な図版による決定版事典の完訳。

[2007年2月]

建築へ〔新装普及版〕**定価 4,950円 (税込)**

ISBN978-4-8055-0657-8

ル・コルビュジエ＝ソーニエ 著 樋口 清 訳

B5判変形カバー装 本文244頁 挿図194点

1923年に刊行された近代・現代建築理念の不朽のバイブルであり、ル・コルビュジエの30数冊ある著作の中の主著である。ル・コルビュジエ財団の全面的協力を得て、ほぼオリジナル初版本と同じ判型・レイアウト・装丁で流麗な新訳とともに、ル・コルビュジエのエスプリ・センスのままに刊行する。

[2011年4月]

イタリア・ルネサンス建築研究**定価 16,500円 (税込)**

ISBN978-4-8055-0580-9

ヴォルフガング・ロッツ 著 飛ヶ谷潤一郎 訳

A5判上製函入 本文468頁 挿図233点

イタリア・ルネサンスの建築と都市計画の研究に建築素描や版画を用いるという資料解釈における美術史学と建築史学の融合を試みた新しい方法論を確立した碩学、ヴォルフガング・ロッツ（1912～1981）の建築論集。重要な研究書にもかかわらずわが国にまだ紹介されていない巨匠の基本文獻。

[2008年11月]

建築史学の興隆**定価 17,087円 (税込)**

ISBN978-4-8055-0242-6

ディヴィッド・ワトキン 著 桐敷真次郎 訳

A5判上製函入 本文502頁

17世紀初頭から現代に至る建築＝美術史家の主要文献だけで450書を越す著作を、国別・年代別に位置付け、歴史的評価を施した、西洋建築史および美術史の成立の全貌を把握するに不可欠の建築史自体を対象とした初の必備の試みである。原著にはない新たな項目を追加した80頁を越す索引を付す。

[1993年5月]

西洋建築史〔全2巻〕**セット定価 68,200円 (税込)**

デイヴィッド・ワトキン 著 白井秀和 訳

ケンブリッジ大学で教鞭をとった現代を代表する建築史家である著者による、古代から現代までの多様な世界建築史の流れを、独特かつ柔軟な観点から考察した出色の通史。情熱溢れる記述が随所に現れる個性豊かな見解を特徴とする。訳者の明解・周到な翻訳とあいまっての名著の公刊。

I メソポタミアとエジプト建築からバロック建築の発展まで**定価 33,000円 (税込)**

ISBN978-4-8055-0709-4

B5判上製函入 本文450頁 口絵16頁 挿図536点

[2014年3月]

II 18世紀新古典主義建築から現代建築まで**定価 35,200円 (税込)**

ISBN978-4-8055-0710-0

B5判上製函入 本文512頁 口絵24頁 挿図446点

[2015年8月]

考古・歴史

フゴッペ洞窟・岩面刻画の総合的研究

定価 41,800円 (税込)

ISBN978-4-8055-0460-4

小川 勝 編

A4判上製函入 本文288頁 □絵32頁 挿図1300点

北海道積丹半島の付け根、余市町に位置する国指定史跡「フゴッペ洞窟」に残る、わが国でも最も本格的な先史美術作品である「岩面刻画」の真価を明らかにする。カラー写真を多用し、美術史学、考古学、地質学、歴史学の各分野の研究者の論考を付した初めての総合的研究成果の報告。

[2003年12月]

若い読者のための仏教

定価 3,960円 (税込)

ISBN978-4-8055-0531-1

フランク・ライナー・シェック/マンフレート・ジェルゲン 著 中山典夫 訳

A5判上製カバー装 本文272頁 挿図204点

北インドの一人の賢者から生まれた仏教が、さまざまな風土に影響を受けて変容する、精神世界の一大スペクタクル。専門的な抽象概念や難解な用語を出来るだけ避けて、仏教という深遠な教えの中心へ読者をみちびく、仏教理解のマインドマップ。西洋人から見た世界宗教としての仏教入門。

[2007年3月]

絵で見る哲学の歴史

定価 3,850円 (税込)

ISBN978-4-8055-0629-5

ギュンター・シュルテ 著 勝 道興 訳

A5判上製カバー装 本文256頁 □絵8頁 挿図150点

古代ギリシアから現代まで200点あまりの画像と共に、あたかも画廊をめぐるかのように2500年にわたる西洋哲学の歴史を概説する。

[2010年4月]

死とオベリスク ―墓石のグローバル・ヒストリー

定価 7,700円 (税込)

ISBN978-4-8055-0998-2

富澤かな 著

A5判上製カバー装 本文368頁 □絵8頁

古代エジプトの柱状建築物「オベリスク」。その意匠は、近代西洋世界の墓地において新たな墓として普及した。本書はその重要な画期が、ナポレオンのエジプト遠征がもたらしたエジプト学の成立と発展に先立ち、18世紀のイギリス東インド会社統治下のインドにあったという仮説を検証する。なぜインドで墓でオベリスクなのか？ この問いに始まる墓石のグローバルヒストリーの試みである。

[2025年3月]

伊万里焼の生産流通史

近世肥前磁器における
考古学的研究

定価 30,800 円 (税込)

ISBN978-4-8055-0776-6

野上建紀 著

B5判上製函入 本文664頁 口絵16頁 挿図176点

ヨーロッパから中南米まで、国際的な工業製品として世界中を駆け巡った伊万里焼（近世肥前磁器）。生産から流通・廃棄までのプロセスを考古学資料や文献史料を用いて丹念に跡づけ、近世肥前磁器をめぐるグローバルなライフヒストリーを描き出す、新知見を含む研究成果の公開。

[2017年2月]

若い読者のためのメルヘン

定価 3,960 円 (税込)

ISBN978-4-8055-0532-8

ヴィンフリート・フロイント 著 木下康光 訳

A5判上製カバー装 本文248頁 挿図142点

「昔、むかし……」にはじまるメルヘンの「不思議な詩と謎」の意味を説き起こす。メルヘンの楽園をより深く知るためのガイドブック。著者はロマン派や幻想文学を中心とするドイツ文学者で、メルヘンを人類の普遍的メッセージが籠められたものとして、読者の生の現実に惹きつけようとしている。

[2007年3月]

カンボジア アンコール遺跡救済
日本政府チーム協力30周年記念誌

バイヨン

謎と希望へのJSA/
JASA30年の挑戦

定価 13,200 円 (税込)

ISBN978-4-8055-0991-3

中川 武 監修 日本国政府アンコール遺跡救済チーム 編集

A4判上製函入 本文284頁オールカラー

本書はバイヨン寺院を中心にこれまで行われてきた30年間の調査・研究成果を横断的にまとめると共に、実際の修復活動および協力事業、そしてそれに伴う人材育成の成果を踏まえ、アンコール文明の異端かつ集大成であるバイヨン寺院とこれまで向き合ってきた成果と将来の提言、そしてその未来への提言までも視野に入れた意欲的な刊行物である。

[2024年11月]

永遠に生きる ～Eternal Life～ 吉村作治先生古稀記念論文集

定価 38,500 円 (税込)

ISBN978-4-8055-0698-1

吉村作治先生古稀記念論文集編集委員会 編

B5判上製函入 本文640頁 口絵4頁 挿図280点

エジプト研究の第一人者であり、当地におけるさまざまなプロジェクトのマネジメントや人材育成およびエジプト考古学の向上に活躍し、2013年に満70歳を迎える早稲田大学名誉教授吉村作治博士。これを機会に吉村博士の学恩を受けた執筆者によってまとめられた古稀記念論文集。

[2013年1月]

歴史と文化の町並み事典 [増補改訂版]

重要伝統的建造物群
保存地区全129

定価 5,500 円 (税込)

ISBN978-4-8055-1082-7

文化庁 編

B5判カバー装 本文340頁オールカラー

文化庁完全監修！日本の歴史的集落・町並み資料の決定版事典を刊行。日本全国で受け継がれてきた、町並みや集落を紹介した『歴史と文化の町並み事典 重要伝統的建造物群保存地区全109』（2015年）刊行から10年―。城下町、宿場町、門前町など国が選定した重要伝統的建造物群保存地区の歴史や文化を、豊富なカラー写真を交え詳細かつ平易に紹介。さらに制度創設当初に選定された7地区の50年の取り組みと発展を追った特集なども加え、内容も大幅に拡充し、伝建制度50年の歩みを振り返る。

[2026年1月]

エジプト王家の谷・西谷学術調査報告書〔全2巻〕

吉村作治 監修 アメンヘテプⅢ世王墓 (KV22) 報告書刊行委員会 編

本書は1989年から2000年に行なわれた早稲田大学エジプト調査隊による調査報告書であり、墓域の出土物や壁画装飾などの正確かつ組織的な実測や、精細なデジタル写真測量などの映像資料化や、貴重なすべてのヒエログリフの解読など、世界的に高い評価をされた成果の報告の全容である。

〔Ⅰ〕アメンヘテプⅢ世王墓 (KV22) を中心として **定価41,800円 (税込)**
ISBN978-4-8055-0574-8
A4判上製函入 本文342頁 口絵61頁 挿図166点 [2008年5月]

〔Ⅱ〕KVAとアメンヘテプⅢ世王墓 (KV22) に隣接する地域 **定価30,800円 (税込)**
ISBN978-4-8055-0665-3
A4判上製函入 本文206頁 口絵40頁 挿図141点 [2012年2月]

絵とたどるモードの歴史

定価4,620円 (税込)
ISBN978-4-8055-0674-5

ゲルトルート・レーネルト 著 黒川祐子 訳

A5判上製カバー装 本文280頁 挿図227点 (オールカラー)

西洋服飾史・服装史を学ぶ上で基本的な図像、ファッション・プレート、写真などを全図版カラーで網羅。モード論、ジェンダー研究、精神分析学など幅広く教鞭をとる著者が、豊富な図版とともに古代から20世紀までを軽快に辿った、モード史の入門書として必備の一冊。

[2011年12月]

近代デザイン

リヒャルト・パウル・ローゼの構成的造形世界

スイス派、ニューグラフィック
デザイン運動の旗手

多摩美術大学ポスター共同研究会 編
B5判上製カバー装 本文240頁 挿図223点

定価 6,600円 (税込)

ISBN978-4-8055-0453-6

バウハウス以後の構成的グラフィックデザインと絵画を発展させた最も重要な芸術家・デザイナーそして理論家であるローゼの全貌と作品を紹介する。テキストと絵画を含む彼の全体像に迫り、彼の作品と方法・思想の紹介に解説を加え、その重要性和魅力を解き明かす。

[2004年1月]

ヴァイマルの国立バウハウス 1919-1923

定価 8,800円 (税込)

ISBN978-4-8055-0603-5

利光 功 訳

245×250mm上製函入 本文236頁

1923年にヴァイマルで開催された最初のバウハウス展のうちに刊行された重要な記念出版書。グロピウス、パウル・クレー、カンディンスキー、モホリ＝ナギ、オスカー・シュレンマーらの7本の論文と色彩図版20を含む全167の作品図版によってヴァイマルのバウハウスの全容を紹介する。

[2009年8月]

美術評論・随想・文芸・画集ほか

芸術と社会 表現の自由と倫理の相克

定価 3,300 円 (税込)

ISBN978-4-8055-0985-2

加須屋明子 編

A5判カバー装 本文296頁

芸術の「自由」はどこに？

芸術と社会は時に対立し、表現の自由と倫理的制約は複雑な関係にある。その中で歴史修正主義や検閲が、権力の維持やプロパガンダのために使われてきた。芸術が社会に与える影響に焦点を当て、芸術が社会において果たす役割を探求する。

[2024年10月]

パブリックアートについて語り合う。日本に「1%フォー・アーツ」の実現を

定価 2,530 円 (税込)

ISBN978-4-8055-0727-8

滝 久雄 編

A5判カバー装 本文300頁 カラー図版101点 モノクロ図版104点

公共空間への芸術作品設置を推進する(公財)日本交通文化協会発行の『くれあーれにゆーす』に収録された座談会及び特別寄稿の全10篇を再編。隈研吾、高階秀爾、宮田良平をはじめとする総勢27名の各界識者らとともに、芸術から教育、科学など幅広い領域を語り合い、日本の文化の未来を考える一書。

[2014年9月]

文化財の保存環境

定価 2,090 円 (税込)

ISBN978-4-8055-0648-6

東京文化財研究所 編

A5判カバー装 本文184頁 挿図131点(オールカラー)

博物館法施行規則の改正に伴って平成24年4月より大学における学芸員養成課程に新設された「博物館資料保存論」を受講し、学芸員資格の取得をめざす学生へ向けられた本書は、文化財保存に関わる科学的な基礎知識を身につけることを目的としている。

[2016年4月]

博物館の未来を考える

定価 2,200 円 (税込)

ISBN978-4-8055-0896-1

「博物館の未来を考える」刊行会 編

A5判カバー装 本文184頁

2021年3月2日に開催されたシンポジウム「今後の博物館制度を考える 博物館法改正を見据えて」における発表をもとに、国際的な動向も踏まえた多角的な視点から、今後の博物館制度と、その制度の根幹となる博物館法の在り方における課題を問う。

[2021年8月]

近代建築は何を創ったか 生活の場の芸術としての建築

定価 3,080円 (税込)

ISBN978-4-8055-0721-6

樋口 清 著

A5判カバー装 本文208頁 挿図122点

フランク・ロイド・ライトやル・コルビュジエをはじめ、近代の後英たちの著作を邦語にもたらしてきた著者による建築への手引書。幾何学と有機、生活と芸術、人間と自然などといった視点をもとに彼らの多彩な創造性に迫る論考のほか、自らも建築家である著者の建築や生活にまつわる随想も多数収録。

[2014年6月]

彫刻の美

定価 3,410円 (税込)

ISBN978-4-8055-0504-5

本郷 ^{しん}新 著

A5判カバー装 本文216頁 図絵40頁 挿図76点

「わだつみのこえ像」「風雪の群像」などのヒューマニズムあふれる記念碑の制作で知られる著者の人と彫刻の関わりを説いた名著『彫刻の美』に、彫刻に関する随想「彫刻雑感」、信仰告白ともいえる「彫刻十戒」の諸文を収録した文集。彫刻への核心を平易な言葉をもって愛情込めて語る。

[1981年5月]

バーネット・ニューマンと戦後アメリカ抽象表現主義

定価 17,600円 (税込)

ISBN978-4-8055-1080-3

吉田侑李 著

A5判上製函入 本文544頁 図絵16頁

「ジップ」と呼ばれる垂直線が描かれた絵画で知られる、第二次世界大戦後のニューヨークで興隆した美術運動である抽象表現主義を代表する芸術家バーネット・ニューマン (Barnett Newman 1905～70)。アメリカとヨーロッパの美術館での作品調査と、バーネット・ニューマン財団が所蔵する一次資料に基づく実証的な研究を通して、その創造の背景にあった思考に迫る。戦後アメリカ現代美術研究の指標ともなる気鋭の評伝。

[2025年12月]

オンデマンド版【美術資料叢書】

オンデマンド出版とは書籍の内容をデータで保存し、注文が入った時点で印刷・製本するシステムです。受注生産ですので、お届けまでに1週間ほどお時間をいただきます。ご了承下さい。

自註鹿鳴集

定価 4,620円 (税込)

ISBN978-4-8055-1230-2

會津八一 著

A5判力バー装 本文252頁 口絵8頁

生涯にわたって大和の古寺と仏像を詠った會津八一が歌集『鹿鳴集』に自ら註を施し、作品の理解と古都奈良の美術への手がかりとして書かれたもので、歌の註釈だけにとどまらず、長年にわたる東洋美術研究の成果がおりこまれ、学問と芸術とが渾然一体となった名著である。

[初版刊行年 1965年／2005年6月]

渾斎隨筆

定価 4,400円 (税込)

ISBN978-4-8055-1233-3

會津八一 著

A5判力バー装 本文218頁 口絵16頁

「渾斎」というのは、秋艸堂とともにしばしば用いられる會津八一の斎号である。『渾斎隨筆』は『南京新唱』『鹿鳴集』等の古典的な歌集で知られる著者が、南都の風物に触れながら自作の歌を主題別にして執筆した隨想集で、大和路の古寺巡歴のみならず、文学や古美術の絶好のエッセイ集である。

[初版刊行年 1968年／2005年6月]

山光集

定価 4,400円 (税込)

ISBN978-4-8055-1231-9

會津八一 著

A5判力バー装 本文234頁 口絵6頁

昭和15年にはじまって敗戦の直前、昭和19年にいたる歌230首を年次にしたがって編纂し自ら註を施した八一の第二歌集である。「望遠」「紅白」等、強く戦争の影響を受けたものから「榛名」「歌碑」等日常的主题のものまで、八一の内面の激動を映して余さない。

[初版刊行年 1971年／2005年6月]

寒燈集

定価 4,620円 (税込)

ISBN978-4-8055-1232-6

會津八一 著

A5判力バー装 本文258頁 口絵8頁

『山光集』と並んで八一の戦時下の暗い日常生活から敗戦まで、苛酷な運命を豊かな詩藻で詠い高く評価されている本集は、昭和19年6月から20年6月にいたる歌212首を年次にしたがって編纂し、巻末に自註會を施したものである。この新版には寒燈集以後の作品をも取めた。

[初版刊行年 1971年／2005年6月]

高橋由一油画史料

定価 13,200 円 (税込)

ISBN978-4-8055-1220-3

青木 茂 編

A5判カバー装 本文490頁 口絵16頁

「鮭」や「花魁」で知られる高橋由一の文書や関連史料は東京芸術大学に所蔵されている。画論、技法、美術学校・美術館構想の建白書、各種舶来洋画術の翻訳など、洋画の日本定着に生涯をかけた由一の実像を知る必須の史料であると共に、幕末・明治文化史の貴重な基礎資料を刊行。

[初版刊行年1984年／2004年5月]

明治洋画史料〔懷想篇〕

定価 8,250 円 (税込)

ISBN978-4-8055-1221-0

青木 茂 編

A5判カバー装 本文324頁 口絵6頁

日本近代美術の揺籃期である明治時代の油画や彫刻・版画・写真等に直接関与した人々が懷想し、遺した幾多の資料の中から、「画伯高橋由一翁伝」「明治初年の洋画研究」「洋風美術家伝」等32篇を厳選して収録する。「高橋由一油画史料」と併せて、近代日本文化史研究に不可欠の一等史料。

[初版刊行年1985年／2004年5月]

明治洋画史料〔記録篇〕

定価 9,900 円 (税込)

ISBN978-4-8055-1222-7

青木 茂 編

A5判カバー装 本文356頁

懷想篇に続き、明治期の重要な記録史料30篇余を精選し、編者の克明な註を付す。〔内容〕高橋由一油画史料1冊37点（未発表新資料）／銅版・石版関係史料（5篇）／書ハ美術ナラス…小山正太郎／工藝叢談／油画道志留辺…本多錦吉郎／横山先生履歴／写真事歴…下岡蓮杖／他。

[初版刊行年1986年／2004年5月]

柏亭自伝

定価 6,820 円 (税込)

ISBN978-4-8055-1229-6

石井柏亭 著

A5判カバー装 本文414頁 口絵12頁

明治末年から太平洋戦争までの日本洋画壇を領導した画家のひとり石井柏亭は、写実的で温和な作風を数多く残す一方文筆に秀で多くの著書がある。本書は著者が山本鼎らと美術誌「方寸」を刊行するなど先駆的な美術活動を行い、さらに2年間の欧州修行を経て二科会結成まで綴った700枚の自伝。

[初版刊行年1971年／2005年6月]

フランスの画家たち

定価 3,300 円 (税込)

ISBN978-4-8055-1219-7

岡鹿之助 著

A5判カバー装 本文198頁 口絵6頁

20年近い滞仏生活と戦後の旅を通じて、ボナール、ユトリロ、ヴラマンク、マルケ、カルズウ、ポーシャン、ルドン、また恩人藤田嗣治など交流のあった画家たちの苦しい美術への修練を、日々の生活の断面からさりげない繊細な筆致で綴る。当時のパリの匂いを漂わせる珠玉のエッセイ集である。

[初版刊行年1974年／2004年5月]

彫刻真髓 荻原守衛全文集

定価 5,170 円 (税込)

ISBN 978-4-8055-1208-1

荻原守衛 著 宮川寅雄 解説

A5判カバー装 本文 326 頁 口絵 22 頁

近代彫刻の門戸を開き、日本におけるロダニズムの先駆者となった荻原守衛は、高村光太郎とともに黎明期の彫刻界の基石として見逃すことのできない作家である。本書は、彼の真価を正しく彫刻史上に位置づける資料として、覚書、論文、紀行文などを漏れなく収載した貴重な文化史文献である。

[初版刊行年 1964 年 / 2004 年 5 月]

美術科教育の方法論と歴史 [新訂増補]

定価 4,730 円 (税込)

ISBN 978-4-8055-1234-0

金子一夫 著

B5判カバー装 本文 250 頁

美術の方法論の理解を軸に、美術科教育の目的・内容と方法、個々の題材目標や指導方法までを、「美術と教育の本質」を現実から導き、解き明かす。併せて、明治期から現在に至るまでの美術科教育の方法と思想の変遷を論ずる。平成 10 年学習指導要領の改訂に鑑み、新訂・増補を施した新訂増補版。

[初版刊行年 2003 年 4 月 / 2012 年 5 月]

天心岡倉覚三

定価 5,940 円 (税込)

ISBN 978-4-8055-1228-9

清見陸郎 著

A5判カバー装 本文 354 頁 口絵 8 頁

近代日本美術の理論的指導者であり、近代思想史の上でも特異な位置を占める岡倉天心の生涯は、激動する明治の日本そのままに波瀾に富んだものであった。天心の評伝の先駆をなす本書は、昭和 20 年 1 月に刊行、大半が災火に消えた幻の書で、天心研究の基本書であるが故に復刊を試みた。

[初版刊行年 1980 年 / 2005 年 6 月]

黒田清輝日記 [全 4 巻]

黒田清輝 著 隈元謙次郎 編

日本近代文化史に欠かせぬ存在である黒田清輝の明治 17 年フランス留学に始まり大正 12 年に至る 40 年間の日記。

一巻 (明治 17 年～ 26 年)

定価 4,400 円 (税込)

ISBN 978-4-8055-1204-3

A5判カバー装

[初版刊行年 1966 年 / 2004 年 5 月]

二巻 (明治 27 年～ 36 年)

定価 4,400 円 (税込)

ISBN 978-4-8055-1205-0

A5判カバー装

[初版刊行年 1967 年 / 2004 年 5 月]

三巻 (明治 36 年～大正 4 年)

定価 4,400 円 (税込)

ISBN 978-4-8055-1206-7

A5判カバー装

[初版刊行年 1967 年 / 2004 年 5 月]

四巻 (大正 4 年～ 12 年)

定価 5,500 円 (税込)

ISBN 978-4-8055-1207-4

A5判カバー装

[初版刊行年 1967 年 / 2004 年 5 月]

絵画の将来

定価 5,280円 (税込)

ISBN978-4-8055-1212-8

黒田清輝 著 陰里鉄郎 編

A5判カバー装 本文320頁 口絵8頁

19世紀中葉のフランスの明るい外光描写を移入し明治洋画壇に一転機を作り、美術界に多大の功績を残して日本近代洋画の確立者に位置づけられる黒田清輝。その半生の画業や美術院長、貴族院議員など幾多の顕職の折々に語った文章は多数にのぼるが、それを分類し収録する。

[初版刊行年1983年／2004年5月]

油絵の新技法

定価 4,730円 (税込)

ISBN978-4-8055-1209-8

小出檐重 著 岡畏三郎 解説

A5判カバー装 本文300頁 口絵16頁

自らの芸術が急速に開花し円熟味を増した大正末期から晩年にかけて、小出檐重はすぐれた文章によって芸術に対する態度や意見などを多く書き遺した。この長く人々に愛されつづける文章の中から、檐重の芸術を知る上の手がかりとなる絵画に関する文章を収録。

[初版刊行年1964年／2004年5月]

写実と空想 古賀春江全文集

定価 5,720円 (税込)

ISBN978-4-8055-1213-5

古賀春江 著 古川智次 編

A5判カバー装 本文368頁 口絵12頁

川端康成の名篇「末期の眼」でその才能と夭逝を痛惜された古賀春江は、大正から昭和期への変動目まぐるしい世相を反映して写実から前衛へと多彩な作品を表した。それと相俟って文学作品としても今日高く評価される100余篇の詩・自画解題を中心に、画論・随想・書簡等も、可能な限り収録した。

[初版刊行年1984年／2004年5月]

横山大観

定価 5,500円 (税込)

ISBN978-4-8055-1227-2

斎藤隆三 著

A5判カバー装 本文314頁 口絵14頁

明治・大正・昭和の三代に亘って日本画壇の巨匠であった大観画伯の91年の波瀾の生涯は、近代日本絵画史の歩みそのものであった。本書は、日本美術院の経営的支柱として、永年画伯を助け、苦楽をともにしてきた著者が、大観の人と作品の全貌を正確な資料と、数々の体験から書き上げた労作。

[初版刊行年1982年／2005年6月]

日本美術院史

定価 7,920円 (税込)

ISBN978-4-8055-1226-5

斎藤隆三 著

A5判カバー装 本文466頁 口絵24頁

明治・大正・昭和の三代に亘り、多くの巨匠と名作を生みだした日本美術院の前期院展の草創から、大正3年の再興後昭和18年までの変遷史。筆者は再興以来、終生その経営に参画しており、近代日本画史において極めて貴重な記録である。昭和18年以降の記録を補い、戦前史としての完全を期した。

[初版刊行年1985年／2005年6月]

近代絵画とレアリズム

須田国太郎文集

定価 4,950円 (税込)

ISBN978-4-8055-1217-3

須田国太郎 著 河北倫明 編

A5判カバー装 本文314頁 口絵8頁

美学者であると同時に、洋画家としては独立美術協会で活躍し、精神的にもっとも深奥なものをもとめつつ、日本においては特異な芸術的立場を保持した須田国太郎の、色彩論に立脚した造詣深い論考と随想。透徹した思考と広い知識にささえられ、絵画の核心へせまる優れた近代絵画論でもある。

[初版刊行年 1978年 / 2004年5月]

芸術の書

絵画技法論

定価 3,520円 (税込)

ISBN978-4-8055-1224-1

C・チェンニーニ 著 中村 彝・藤井久栄 訳

A5判カバー装 本文212頁 口絵4頁

ルネサンス芸術の絵画技法と精神を詳細に説き明かし、専門家にも必要書とされた本書は、ルノアールを歓喜させ、日本洋画の黎明期の画家たちにも大きな示唆を与えた。早逝した天才画家、中村彝の病床の労作をもとに、新たな訳文を加えて完全な訳本となった、今や貴重な古典的な文献でもある。

[初版刊行年 1976年 / 2004年5月]

芸術の無限感

定価 6,930円 (税込)

ISBN978-4-8055-1215-9

中村 彝 著 小熊虎之助 編

A5判カバー装 本文454頁 口絵20頁

近代絵画史上に残る「エロシエンコ像」を始め不朽の作品を描いて去った中村彝の、文章の全てを収載する。幼時から病弱の身を、芸術の悠久と信仰を糧に生きた彼の文章は、その自然観照の深さと美の本質を求めてやまぬ真摯さをもって我々を魅了する。

[初版刊行年 1989年 / 2004年5月]

芸術のエスプリ

定価 5,060円 (税込)

ISBN978-4-8055-1210-4

藤島武二 著 匠 秀夫 編

A5判カバー装 本文326頁 口絵10頁

藤島武二は、洋画家として、また日本洋画壇の指導者として我が国に油絵を定着、発展させた。本書は、折々に発表した文章のうち主要なものを美術一般・西洋美術・日本美術・思い出・紀行・語録に分類した、彼の芸術、また日本近代洋画史の背景を理解する上で、不可欠の基本文献である。

[初版刊行年 1982年 / 2004年5月]

本阿弥行状記と光悦

定価 4,730円 (税込)

ISBN978-4-8055-1225-8

正木篤三 著

A5判カバー装 本文298頁 口絵16頁

古来、刀剣の鑑定、研磨を業としていた本阿弥家は、自己の芸術精神で統一した芸術集団を結成したが、「本阿弥行状記」は光悦の諸芸はもとより、ひろく平生の言行の類を、主として孫の光甫が記述した本阿弥家の家記である。本書は、諸写本を校合して成ったもので、伝記と光悦論を付す。

[初版刊行年 1965年 / 2004年5月]

十三松堂日記〔全4巻〕

正木直彦 著 隈元謙次郎 編

東京美術学校長、帝国美術院長等の要職にあり、近代美術の進展に多大な功績を遺した正木直彦の30年間にわたる日記。

一卷（明治41年～大正15年）

A5判カバー装

定価5,610円（税込）

ISBN978-4-8055-1200-5

〔初版刊行年1965年／2004年5月〕

二巻（昭和2年～6年）

A5判カバー装

定価5,610円（税込）

ISBN978-4-8055-1201-2

〔初版刊行年1965年／2004年5月〕

三巻（昭和7年～11年）

A5判カバー装

定価5,390円（税込）

ISBN978-4-8055-1202-9

〔初版刊行年1966年／2004年5月〕

四巻（昭和12年～15年・年譜）

A5判カバー装

定価4,620円（税込）

ISBN978-4-8055-1203-6

〔初版刊行年1966年／2004年5月〕

感情と表現

三岸好太郎 著 匠 秀夫 編

A5判カバー装 本文256頁 口絵16頁

三岸好太郎は、鋭敏な感受性で前衛絵画の先駆をなし、絵筆で画布に詩を表現し得た稀有な画家であった。詩情溢れる絵画とあいまって、その情熱的な詩文は今も鮮烈な光彩を放っている。彼の文章を画論、批評、随想、詩、自伝に分類、夫人宛の書簡も収録して、三岸芸術の内面に光をあてた文集。

〔初版刊行年1983年／2004年5月〕

画論

村上華岳文集

村上華岳 著 村上常一郎 編

A5判カバー装 本文430頁 口絵16頁

厳しい内省とひたすらな精進の生涯であった村上華岳は、近代日本絵画史に不滅の業績を刻んだ。本書は彼が生前に雑誌に発表した感想や作画態度の覚えから思考メモにいたるまでを、子息常一郎氏が、克明に整理収録した全文集で、彼の絵画作品の深さを理解するための道標でもある。

〔初版刊行年1977年／2004年5月〕

画想

安田靫彦文集

安田靫彦^{ゆきひこ} 著 安田建一 編

A5判カバー装 本文310頁 口絵12頁

たゆまぬ精進と研鑽から「夢殿」「黄瀬川陣」「王昭君」等、歴史画をはじめ数多くの優作を遺した氏は、小林古径、前田青邨と共に明治末から昭和にかけて次々と新風を展開、院展の中枢にあって近代日本画の発展に尽した。折にふれて綴った文章から主要な著作50余篇を収録して画伯の美の心を示す。

〔初版刊行年1982年／2004年5月〕

フェノロサ美術論集

定価 9,460 円 (税込)

ISBN 978-4-8055-1223-4

山口静一 編

A5判カバー装 本文 312 頁

日本近代美術に深甚なる影響を与えたアーネスト・F・フェノロサの主張は、当時、翻訳者を介して新聞や雑誌に掲載されたものである。本書は「美術真説」をはじめ、26篇の日本美術に関する邦文を収録した近代日本文化史研究の上に重要な基本的文献である。

[初版刊行年 1988 年 / 2004 年 5 月]

鉄人画論

萬鉄五郎全文集

定価 6,160 円 (税込)

ISBN 978-4-8055-1214-2

よるす

萬鉄五郎 著 土方定一・陰里鉄郎 編

A5判カバー装 本文 410 頁 口絵 8 頁

「鉄人」と号し、大正洋画壇の指導者として活躍した萬鉄五郎は、絵画芸術の可能性を真摯に追求し、幾多の傑作を遺した。後期印象派からフォビズム、キュビズム、さらに南画へと展開する彼の画論はその激しい苦闘の表白であり、自由闊達な芸術論として現代にまで多くの問題を投げかけている。

[初版刊行年 1985 年 / 2004 年 5 月]

書名索引

ア		裏松固禪「宮室図」詳解	82
アール・デコ 博建築造形論	101	永遠に生きる 吉村作治先生古稀記念論文集	105
アール・デコ 戦間期フランスの求めた近代建築	101	叡智の建築家	90
青木繁《海の幸》[美術研究作品資料]	43	エジプト王家の谷・西谷学術調査報告書〔Ⅰ〕〔Ⅱ〕	105
丹青よし	33	絵で見る哲学の歴史	104
アカデミーと建築オーダー	95	エドゥアール・マネの思い出	66
アジア仏教美術論集	5-6	江戸期実景図の研究	32
アジャンター後期壁画の研究	38	江戸時代の女性画家	35
アジャンター壁画の研究	28	江戸の服飾意匠	22
足立康著作集〔全3巻〕	3	絵とたどるモードの歴史	106
新しい住居	94	絵具材料ハンドブック〔改訂新版〕	65
新しい造形芸術の基礎概念〔新装版 バウハウス叢書 6〕	12	絵具の科学〔改訂新版〕	65
新しい造形(新造形主義)〔新装版 バウハウス叢書 5〕	12	絵具の事典〔新装普及版〕	64
油絵の新技法〔オンデマンド版〕	113	絵師の時代	37
アルブレヒト・デューラー「人体均衡論四書」注解	65	縁起絵・行事絵を読む	38
アルブレヒト・デューラー「築城論」注解	59	延暦寺の建築史的研究	75
アルブレヒト・デューラーの芸術 ヴェルフリン	52	岡倉天心アルバム〔増補改訂〕	43
アルブレヒト・デューラーの芸術 下村耕史	58	岡倉天心と五浦〔新訂増補〕	48
アルベルティ〔イタリア・ルネサンス建築史ノート〕	98	お雇い外国人キヨッソーネ研究	48
アルベルティ「芸術論」〔新装普及版〕	50	オランダ集団肖像画	67
アルベルティ「建築論」	85	オランダの建築〔新装版 バウハウス叢書 10〕	12
アレッポ	83	カ	
アレティーノまたは絵画問答	61	カーレル・ファン・マンデル「北方画家列伝」注解	52
アントニオ・サンテリア「新都市」注解	88	絵画・写真・映画〔新装版 バウハウス叢書 8〕	12
アンドレ・フェリピアン「王立絵画彫刻アカデミー講演録」注解	56	絵画の将来〔オンデマンド版〕	113
池大雅「真景」論攷	21	回廊	92
石による形と建設	102	鷺湖及鼎湖	42
石山寺縁起絵巻集成	19	かざりの水脈	31
イタリア建築の中世主義	101	ガストン・フェビュスの『狩猟の書』挿絵研究	60
イタリア・ルネサンス建築研究	103	画想〔オンデマンド版〕	115
イタリア・ルネサンス建築史ノート〔全3巻〕	98-99	花道史研究〔山根有三著作集 7〕	3
一住宅	95	狩野光信の時代	25
稲垣栄三著作集〔全7巻〕	1	花木の象 国宝都久夫須麻神社	28
茨城彫刻史研究	26	雁金屋御画帳の研究	31
今井兼次著作集	2	画論〔オンデマンド版〕	115
今井兼次に於ける建築と思想に関する研究	69	河合正朝絵画史論集〔全2巻〕	24
伊万里焼の生産流通史	105	感情と表現〔オンデマンド版〕	115
イメージ制作の場と環境	55	ガンダーラの仏教彫刻と生天思想	30
イングランド住宅史	88	鑑定学への招待	18
インド仏教美術史論	40	寒燈集〔オンデマンド版〕	110
ヴァイマルの国立バウハウス 1919-1923	107	関東地方の屋敷林	82
ヴァフィオの杯	67	カント美学の根本概念	53
ウィーンのシュテファン大聖堂	87	完本 六道絵巻	24
ヴィクトリアン・ゴシックの崩壊	94	木碁之注文	72
ヴィッラ・マダマのロジャ装飾	63	木村莊八日記〔明治篇〕	47
失われた絵画を再生する	18	キュービズム〔新装版 バウハウス叢書 13〕	13
移ろう前衛	25	旧軍用地と戦後復興	71
海のシルクロードの染織史	40	宮廷物質文化史	21
裏松固禪「院宮及私第図」の研究	82	教育スケッチブック〔新装版 バウハウス叢書 2〕	11
		京狩野の研究	40

書名索引

京都国立博物館須磨コレクション図版目録		建築保存概念の生成史〔新装版〕	75
中国絵画Ⅰ 齊白石	25	建築論全史〔全2巻〕	90
京都御所造営録〔全5巻〕	78	建築論の射程	96
ギリシア陶器	59	校刊美術史料 寺院篇〔全3巻〕	39
ギリシアの陶画家 クレイティアスの研究	63	校刊美術史料 七大寺日記 七大寺巡礼私記	38
木割表現論	83	江南禅院の源流、高麗の発展〔関口欣也著作集2〕	2
近現代建築史論	89	興福寺創建期の研究	26
近世・近代の歴史意識と建築	71	興福寺南円堂と法相六祖像の研究	23
近世建築指図の総合的研究〔全3巻〕	74	工部美術学校の研究	44
近世在方集住大工の研究	77	光琳研究一〔山根有三著作集3〕	3
近世寺社境内とその建築	83	光琳蒔絵の研究	22
近世初期上層公家の遊興空間	74	光琳論	35
近世武家集団と都市・建築	81	コー・ケーとベン・メアレア	80
近世民家における意匠操作	74	国際建築〔新装版 バウハウス叢書1〕	11
近世民家普請と資源保全	80	国宝 源氏物語絵巻	33
近代絵画とレアリズム〔オンデマンド版〕	114	国宝 高松塚古墳壁画	38
近代建築〔特装版〕	87	国宝・中世日本の仏堂	75
近代建築史研究〔稲垣栄三著作集〕	1	国宝 伴大納言絵巻	26
近代建築は何を創ったか	109	国宝 六道絵	20
近代彫刻の先駆者 長沼守敬	42	五山と禅院〔関口欣也著作集3〕	2
近代日本の小学校建築史	72	ゴシック空間の形成	91
近代日本美術教育の研究 明治時代	43	ゴシック建築大成	99
空海の起結	20	ゴシック建築リブヴォールトのルーツ	90
黒田清輝《湖畔》〔美術研究作品資料〕	46	ゴシック大聖堂の建築工匠	100
黒田清輝著述集	46	ゴシックとは何か	99
黒田清輝日記〔オンデマンド版〕〔全4巻〕	112	ゴシック様式成立史論	89
黒田清輝フランス語資料集	46	児島虎次郎研究	47
黒船来航絵巻《金海奇観》と幕末日本	17	五姓田義松史料集	45
芸術学の根本問題	62	古代アッティカ杯	60
芸術価値論 美的価値体験	52	古代インド美術と民間信仰	34
芸術と社会	108	古代建築の研究〔上〕〔下〕〔足立康著作集1・2〕	3
芸術のエスプリ〔オンデマンド版〕	114	古代寺院建築の研究〔鈴木嘉吉建築史論集〕	76
芸術の書〔オンデマンド版〕	114	古代寺院僧房の研究〔鈴木嘉吉建築史論集〕	76
芸術の無限感〔オンデマンド版〕	114	古代中世絵巻集成	21
芸術論叢〔全2巻〕	68	古代の神社造営	82
源氏物語 その住まいの世界	70	渾斎随筆〔オンデマンド版〕	110
源氏物語 その生活と文化	81		
建築オーダーの意味	88	サ	
建築家アンリ・ラブルースト	91	材料から建築へ〔新装版 バウハウス叢書14〕	13
建築家ガウディ全語録	96	作家論〔Ⅰ〕〔Ⅱ〕〔今井兼次著作集〕	2
建築技術比較発達史の研究	84	山光集〔オンデマンド版〕	110
建築講義要録	95	サンドロ・ボッティチェッリの悔後	63
建築講話Ⅰ	87	ジェフリー・スコット「ヒューマンイズムの建築」注解	89
建築講話Ⅱ	87	死者を記念する	58
建築指図の修補技法に関する研究		時代の目撃者	63
〔近世建築指図の総合的研究3〕	74	自註鹿鳴集〔オンデマンド版〕	110
建築史〔全2巻〕	92	七大寺日記 七大寺巡礼私記 校刊美術史料〈抜粋〉	38
建築史学の興隆	103	死とオペリスク	104
建築史研究の新視点〔全3巻〕	81	シトー会建築のプロポーシオン	97
建築史とは何か	102	写実と空想〔オンデマンド版〕	113
建築史の空間	77	ジャン＝シメオン・シャルダンの芸術	64
建築シンボリズム	94	11世紀イペリア半島の装飾写本	55
建築制作論の研究	73	十九世紀の建築著述家たち	100
建築タイプの歴史〔全2巻〕	100	十三松堂日記〔オンデマンド版〕〔全4巻〕	115
建築的場所論の研究	100	17世紀オランダ美術と〈アジア〉	56
建築における近代	91	住宅・都市史研究〔稲垣栄三著作集3〕	1
建築の形態と比例の研究	85	呪術と美術	17
建築美学	94	書院造と数寄屋考	76
建築美学講義	85	松竹梅の美術史	29
建築へ〔新装普及版〕	103	障屏画研究〔山根有三著作集5〕	3

昭和期美術展覧会出品目録〔戦前篇〕	46	中世鎌倉五山の建築	76
初期イスラーム文化形成論	36	中世後期シエナにおける都市美の表象	88
初期ギリシア芸術における自然再現	68	中世禅宗様建築の研究〔関口欣也著作集 1〕	2
ジョットの藝術	58	中世屏風絵研究	21
初唐仏教美術の研究	37	彫刻真髄〔オンデマンド版〕	112
書に法あり	29	彫刻の美	109
ジョルジョーネ解説	52	朝鮮王朝実録抄	19
神異僧と美術伝播	34	朝鮮半島の住まいと家具の歴史	73
新古典主義	53	町人都市の誕生	73
新古典主義美術の系譜	54	月岡芳年伝	45
神社建築史研究〔Ⅰ〕〔Ⅱ〕〔稲垣栄三著作集 1・2〕	1	綱町三井倶楽部	70
寝殿造の空間と儀式	72	ディアテシスのアイデア〔Ⅰ〕〔Ⅱ〕〔建築論の射程〕	96
人文学としてのアルス	57	ディドロ「絵画論」の研究	57
スペイン初期中世建築史論	86	テストメント	102
すまいの現象学	77	デッサウのパウハウス建築	
盛期ルネサンスの古代建築の解釈	97	〔新装版 パウハウス叢書 12〕	13
聖痕印刻	58	鉄人画論〔オンデマンド版〕	116
聖堂の現象学	90	デューラー「測定法教則」注解	59
西洋建築史〔全 2 巻〕	103	デューラーと名声	50
西洋版画の歴史と技法	55	デューラーの遍歴時代	50
西洋美術史論考 北方ヨーロッパの美術	53	てらゆきめぐれ 大橋一章博士古稀記念美術史論集	22
西洋美術論考 古代末期・中世から近代へ	57	天心岡倉寛三〔オンデマンド版〕	112
世界建築史論集	79	伝世洋剣 水口レイビアの謎に挑む	26
関口欣也著作集〔全 3 巻〕	2	点と線から面へ〔新装版 パウハウス叢書 9〕	12
関野貞日記	77	東京文化財研究所七十五年史〔全 2 巻〕	47
セザンヌ受容の研究	62	東西交流の陶磁史	35
ゼムパーからフィードラーへ	89	唐宋山水画研究	29
セルリオ『建築書』註解	97	唐代龍門石窟の研究	25
禅院の建築〔新訂〕	72	東南アジア〔アジア仏教美術論集〕	5
戦前期の地方都市における近代都市計画の動向と展開	69	東洋陶磁史研究	36
造形芸術の歴史的文法	67	徳川家康の服飾	37
創作版画誌の系譜	43	都市・建築空間の史的研究	73
宗達研究一〔山根有三著作集 1〕	3	都市の冠	95
タ		都市への給水 W・K・バルトンの研究	98
題材による美術教育	45	トニー・ガルニエ「工業都市」注解	102
大正期美術展覧会の研究	46	敦煌石窟美術の研究	36
大名江戸屋敷の建設と近世社会	75	敦煌美術東西交界史論	30
対比	98	ナ	
台湾ヤミの住まいの建築論	70	南蛮漆器考	27
高橋由一油画史料〔オンデマンド版〕	111	ニコラ・ブッサンとイエズス会図像の研究	54
田中淡著作集〔全 3 巻〕	79	蜷川式胤「権の落葉」	49
田邊三郎助彫刻史論集	30	蜷川式胤「奈良の筋道」	48
ダマスクス	83	蜷川式胤「八重の残花」	49
知覚と建築	95	日本絵巻物の研究〔全 2 巻〕	20
知性の眼	53	日本絵画史年記資料集成 十五世紀	32
チチェローネ 絵画篇	64	日本絵画史年記資料集成 十世紀―十四世紀	32
チチェローネ 建築篇	64	日本絵画史論攷	19
地方における戦後都市計画	69	日本近代の建築保存方法論	69
茶室・数寄屋建築研究〔稲垣栄三著作集 4〕	1	日本近代美術と西洋	48
中央アジアⅡ（チベット）〔アジア仏教美術論集〕	5	日本近代洋画の成立 白馬会	43
中近世染織品の基礎的研究	40	日本建築規範術史	71
中国絵画の内外	39	日本建築技術史の研究	83
中国金工史	34	日本建築辞彙〔新訂〕	80
中国建築と庭園〔田中淡著作集 2〕	79	日本建築史基礎資料集成	7-8
中国建築の特質〔田中淡著作集 1〕	79	日本建築史の技法と様式〔藤井恵介著作集 第 2 巻〕	4
中国建築と日本〔田中淡著作集 3〕	79	日本建築史の叙述〔藤井恵介著作集 第 3 巻〕	4
中国古代造園史料集成	79	日本建築史の方法〔藤井恵介著作集 第 1 巻〕	4
中国山水画史研究	26	日本建築史論考	72
中国石窟美術の研究	36	日本中世肖像彫刻史研究	35

書名索引

日本彫刻史基礎資料集成 鎌倉時代造像銘記篇	9-11	美の司祭と巫女	65
日本彫刻史論叢	35	屏風絵にみる季節	29
日本東洋古美術文献目録 昭和11年～40年	32	ピラネージ	18
日本東洋古美術文献目録 1966年～2000年	32	ピラネージ《牢獄》論	62
日本の美術と世界の美術	39	ヒルデガルト・フォン・ビンゲン	60
日本美術院史 [オンデマンド版]	113	ファンシー・ピクチャーのゆくえ	58
日本美術史論集	19	フィッシャー・フォン・エルラッハ「歴史的建築の構想」注解	96
日本美術年鑑	14	フィリベール・ド・ロルム 建築書 注解	93
能楽堂の誕生	78	風景現象の建築論的研究	73
ハ		フェ	71
バイヨン	105	フェノロサ美術論集 [オンデマンド版]	116
バウハウス叢書 [新装版 全 14 巻]	11-13	福井利吉郎美術史論集 [全 3 巻]	2
バウハウス工房の新製品 [新装版 バウハウス叢書 7]	12	フゴッペ洞窟・岩面刻画の総合的研究	104
バウハウスとその周辺 [I] [II] [バウハウス叢書別巻]	13	藤井恵介著作集 [全 3 巻]	4
バウハウスの実験住宅 [新装版 バウハウス叢書 3]	11	藤岡作太郎「李花亭日記」〈美術篇〉	48
バウハウスの舞台 [新装版 バウハウス叢書 4]	11	藤島武二研究	44
ハギア・ソフィア大聖堂学術調査報告書 [改訂]	98	武士の絵画	28
萩藩江戸屋敷作事記録	74	仏画の尊容表現	20
柏亭自伝 [オンデマンド版]	111	仏教芸術	15-16
博物館の未来を考える	108	仏教説話画の構造と機能	23
バステード	86	仏教説話画論集 [全 2 巻]	23
長谷寺銅板法華説相図の研究	24	仏教彫像の制作と受容	22
八部衆像の成立と展開	39	仏教と造形	34
バーネット・ニューマンと戦後アメリカ		仏教美術史論	33
抽象表現主義	109	仏伝図論考	41
ハーバード美術館 南無仏太子像の研究	31	仏領期ベトナムにおける建築・都市計画	71
パブリックアートについて語り合う。	108	ブラートの美術と聖帯崇拜	54
パラゴーネ 諸学芸の位階論争	52	ブラマンテ ルネサンス建築の完成者	99
パラディオ図面集	92	ブラマンテ [イタリア・ルネサンス建築史ノート]	99
パリ都市建築の意味-歴史性	101	フランク・ロイド・ライトの建築思想	101
パリの中庭型家屋と都市空間	93	フランス近代の図像学	54
パリの歴史的建造物保全	88	フランス・クリュニー地方のロマネスク教会堂建築群	97
パルテノンの世界	85	フランスの画家たち [オンデマンド版]	111
パルテノン・フリーズ	66	フランチェスコ・ボッロミニ「建築作品集」	96
ピエール・ル・ミュー「万人のための建築技法」注解	93	フリースラント	86
ピエロ・デッラ・フランチェスカ	68	ブリュッゲルの「劇場」	66
東アジア I (後漢・三国・南北朝) [アジア仏教美術論集]	6	ブルネッレスキ [イタリア・ルネサンス建築史ノート]	98
東アジア II (隋・唐) [アジア仏教美術論集]	6	ブレア・ヴィヘア	80
東アジア III (五代・北宋・遼・西夏) [アジア仏教美術論集]	6	文化財の保存環境	108
東アジア IV (南宋・大理・金) [アジア仏教美術論集]	6	平安時代貴族住宅の研究	70
東アジア V (元・明・清) [アジア仏教美術論集]	6	続平安時代貴族住宅の研究	70
東アジア VI (朝鮮半島) [アジア仏教美術論集]	6	平安仏教彫刻史にみる中国憧憬	27
東アジア VII (アジアの中の日本) [アジア仏教美術論集]	6	平	
東アジア美術交流史論	33	米芾「画史」註解 [全 2 巻]	27
東アジア仏像史論	38	平面図としての「指図」の作図技法・描法の展開に関する	
ピカソの「古典」時代	61	研究 [近世建築指図の総合的研究 1]	74
ビザンティン聖堂装飾プログラム論	65	ベトナム・フエ城宮殿建築の修復と復原	76
ビザンティン余白詩篇写本挿絵研究	61	崩壊について	91
毘沙門天像の成立と展開	28	法華経写経とその荘厳	28
美術科教育の方法論と歴史(新訂増補) [オンデマンド版]	112	ボストン美術館日本美術総合調査図録	31
美術家列伝[全6巻]	51	ボッシュ「悦楽の園」の聖書における寓意的解釈	55
美術史「ウィーン学派」	59	ボルソ・デステとスキファノイ壁画	54
美術史学の系譜	53	本阿弥行状記と光悦 [オンデマンド版]	114
美術史学の歴史	56	マ	
美術史における日本と西洋	44	松岡壽研究	42
美術史歴参 百橋明徳先生退職記念献呈論文集	34	松岡壽先生	42
美術文献解題	59	末期ローマの美術工芸	67
常陸時代の雪村	22	円山応挙研究	27
美の顕現 イタリア・ルネサンス美術論集	63	ミケランジェロ研究	64

密教建築空間論	81	洛中洛外図屏風 歴博甲本	17
南アジアⅠ（マウリヤ朝～グプタ朝）〔アジア仏教美術論集〕	5	リヒャルト・パウル・ローゼの構成的造形世界	107
南アジアⅡ（ポスト・グプタ朝～パーラ朝）〔アジア仏教美術論集〕	5	龍華寺 菩薩半跏像〔美術研究作品資料〕	33
南イタリア都市の居住空間	92	龍の美術史	29
明代窯業史研究	24	料理術の精神	68
無対象の世界〔新装版 バウハウス叢書 11〕	12	臨終の住まいの建築論	80
棟持柱形論	78	ルクス・アルティウム 越宏一先生退任記念論文集	57
室町水墨画論集	36	ル・コルビュジエ事典	102
明治浮世絵師列伝	18	ル・コルビュジエ書簡撰集	91
明治期建築学史	77	ル・コルビュジエ図面撰集：美術館篇	94
明治期美術展覧会出品目録	45	ル・コルビュジエと近代絵画	89
明治期府県博覧会出品目録	45	ル・コルビュジエの手	87
明治後期油画基礎資料集成	44	ル・コルビュジエ 書物としての建築家	18
明治前期油画基礎資料集成	44	ル・コルビュジエ みずから語る生涯	99
明治洋画史料〔懷想篇〕〔オンデマンド版〕	111	ルチオ・フォンタナとイタリア 20 世紀美術	60
明治洋画史料〔記録篇〕〔オンデマンド版〕	111	ルドゥー「建築論」註解〔全 2 巻〕	93
木造建築遺産保存論	82	ルネサンス期トスカナナのステンドグラス	50
木造建築の設計技術史	75	ルネサンス・パラッツォの誕生	86
ヤ		ルネサンス美術における南と北	66
柳澤孝仏教絵画史論集	40	レオナルドの手稿、素描・素画に関する基礎的研究	60
病草紙	23	レオンの「960年聖書」研究	56
山根有三著作集〔全 7 巻〕	3	歴史と文化の町並み事典〔増補改訂版〕	105
ヤン・ファン・エイク史料集成	56	ローマ ある都市の肖像 312～1308 年	55
油彩への衝動	62	ローマ サンタ・サビーナ教会本彫扉の研究	61
ユトレヒト詩篇挿絵研究	61	ロココを織る	57
様式の生成	86	ロドス島の古代彫刻	62
様式への問い	66	論集 東洋美術跋涉	37
横山大観〔オンデマンド版〕	113	論集 日本の仮面〔全 2 巻〕	30
横山大観《山路》〔美術研究作品資料〕	47	ワ	
甞る若冲	25	若い読者のための仏教	104
ラ		若い読者のためのメルヘン	105
Light & Color	21	渡辺華山	37

著・訳・編者名索引

ア		阿部泰郎	31	石井柏亭	42, 111
		阿部美香	31	石井 洋	42
相川 浩	85	アメンヘテプⅢ世王墓報告書刊行委員会	106	石井元章	42
相澤正彦	19	荒木文果	51	石川恒夫	86
會津八一	110	有賀祥隆	19	石澤靖典	51
アウト	12	アルブレヒト・デューラー	59, 65	石田繁之介	70
青木 茂	42, 111	アルベルティ	50, 85	石田尚豊	19-20
青柳憲昌	69	アレハンドロ	82	石橋美術館	43
青山愛香	50, 52	ア（一）ロイス・リーグル	66-67	泉 武夫	20-21
赤澤英二	19	アントナン・ブルースト	66	泉 万里	17, 21
秋山 聰	50	アントニオ・ガウディ	96	泉美知子	66
秋山光和	20	アンドリュウ・リーチ	102	磯崎 新	93
上松佑二	69, 85	アン・ニシムラ・モース	31	板倉聖哲	5-6
浅野純一郎	69	飯田喜四郎	87, 94-95, 99	井手誠之輔	6, 21
浅野捷郎	85	飯淵康一	70	出光佐千子	21
足立 薫	51	井口 俊	66	伊藤彰子	55
足立 康	3	池上公平	68	伊藤拓真	50
足立 崇	70	池 浩三	70, 85	伊藤 毅	1, 71, 86

伊藤延男	75			クレー	11
伊藤喜彦	86			グレーズ	13
伊東龍一	74			呉谷充利	73, 89
稲垣栄三	1, 7, 80	甲斐教行	51-52, 63-64	呉孟晋	25
稲川直樹	86, 99	ガウディ	96	黒岩俊介	87, 90, 99
井上大樹	11	陰里鉄郎	113, 116	黒川祐子	106
井上 正	9	加治幸子	43	クロスリー	99
猪熊兼樹	21	加須屋明子	108	黒田清輝	46, 112-113
井面信行	67	加須屋誠	17, 20, 23-24	黒田泰三	25-26
茨城大学五浦美術文化研究所	43	片岡直樹	24	グロピウス	11-13
今井兼次	2	片木 篤	73	桑木野幸司	90
今井澄子	56	片山伸也	88	毛塚実江子	56
今村洋一	71	勝 國興	53, 56, 59, 67	建築論研究会	73
入江由香	102	勝 道興	104	小泉和子	73
岩下哲典	17	加藤邦男	102	小泉晋弥	48
岩田茂樹	10-11	加藤耕一	89	小出橋重	113
岩谷秋美	87	加藤哲弘	53, 66	香西克彦	73
岩谷洋子	96	加藤悠希	71	高阪一治	56
岩間 香	82	金井杜道	20	河野道房	26
印刷局朝陽会	48	金沢 陽	24	幸福 輝	52, 56
ヴァーグナー	87	金出ミチル	98	肥塚 隆	5
ヴァザーリ	51	金子一夫	43, 112	古賀春江	113
ヴィオレ＝ル＝デュック	87	金田千秋	53	越川倫明	51, 55, 61
ウィント	52	金原由紀子	54	越 宏一	57
植野健造	43	ガルニエ	102	越宏一先生退任記念論文集刊行会	57
ヴェルフリン	52	カルロ・デル・ブラーヴォ	63	越野 武	100
ヴォジャンスキー	87	河合正朝	24	児島 薫	44
鶴沢 隆	88	川上幸子	66	五島利兵衛	90
歌田眞介	42, 44	河上眞理	44	小杉放菴記念日光美術館	47
内田篤呉	22	川上 貢	72	小塚直斗	28
宇埜直子	51	河北倫明	114	小寺武久	73
江口久美	88	川島智生	72	後藤久太郎	74
エルラッハ	96	河田智成	89	五島美術館	33
大上直樹	71	河辺泰宏	94	後藤道雄	26
大河直躬	7-8	川向正人	89	小林亜起子	55, 57
大久保尚子	22	川本智史	83	小林公治	26
大田省一	71	川本重雄	72	小林もり子	51
太田喬夫	52	カンディンスキー	12	小林裕子	26
太田博太郎	3, 7, 80	木肆之注文研究会	72	古原宏伸	27
オーデブレヒト	52	木下康光	105	小松原郁	52
大橋一章博士古稀記念会	22	木下 悠	18, 25	小山真由美	27
大橋竜太	88	木村三郎	54	コルビュジエ	91, 103
岡 畏三郎	113	京谷啓徳	51, 54		
岡 鹿之助	111	京都国立博物館	25		
岡田温司	68	京楽真帆子	82	サ	
岡村 崔	61	清瀬みさを	52	斉藤 理	94-95
小川知二	22	清見陸郎	112	斎藤 稔	57
小川 勝	104	桐敷真次郎	89, 92, 103	斎藤隆三	113
荻原守衛	112	近世美術研究会	55	坂井禎介	74
奥 健夫	10-11, 22	工藤圭章	8	坂本篤史	51
小熊虎之助	114	國賀由美子	19	坂本一道	44
尾崎彰宏	52	久野美樹	25	作事記録研究会	74-75
小佐野重利	53	隈元謙次郎	112, 115	佐々木健一	87
オスカー・ベッチュマン	52	久米順子	55	佐々木平	57
オットー・ヴァーグナー	87	クラウトハイマー	55	佐々木英也	27
オナー	53	グラム	55	佐々木英也	58
オナイアンズ	88	栗田秀法	56	佐々木正子	27
小野佳代	23	グリフィス	55	佐々木守俊	27
五十殿利治	12	クルターマン	56	定金計次	28
		クルフト	90	貞包博幸	11-13
				サディ	91

佐藤 彰	91, 98	タ		百橋明徳	29, 33-34
佐藤一郎	44			百橋明徳先生退職記念献呈論文集	
佐藤達生	91, 98, 99	タウト	94	刊行委員会	34
佐藤直樹	55, 58	高木麻紀子	60	富澤かな	104
佐藤有希子	28	高岸 輝	31	友岡真秀	51
皿井 舞	11	高梨光正	51	鳥居徳敏	96
澤村 仁	7	高橋健一	51	トリスタン・ヴェディゲン	52
サンテリア	88	高橋忠彦	19	ドルチェ	61
CIHA日本国内委員会	44	高橋恒夫	77		
ジーモン	59	瀧内嶺雄	64	ナ	
シェック	104	滝 久雄	108	奈尾信英	96
ジェルゲン	104	詫間直樹	78	永井繁樹	52
篠塚千恵子	58	匠 秀夫	114-115	永井隆則	62
柴田大輔	83	武田恒夫	29	長尾重武	18, 62, 92
清水重敦	75	竹浪 遠	29	長岡龍作	34
清水 擴	75	竹本芽依	51	中川 武	72, 80, 105
下村耕史	58-59, 65	田路貴浩	99	中川武先生退任記念論文集	
ジャン・ジャンジェ	91	立川武蔵	5	刊行委員会	79
ジャン・ニコラ・ルイ・デュラン	95	立原慶一	45	永田 郁	34
シュルテ	104	田中 淡	79	中野 徹	34
シュレンマー	11	田邊三郎助	9-11, 30	仲町啓子	35
シュロツサー	59	田辺 理	30	中村貴志	96
ジョルジョ・ヴァザーリ	51	谷口陽子	83	中村恵三	96
ショワジー	92	谷藤史彦	60	中村 愿	43
白井秀和	53, 87, 93, 103	田林 啓	30, 34	中村琢巳	80
白井裕泰	75-76	玉腰芳夫建築論集編集委員会	77	中村達太郎	80
城野誠治	21, 26	多摩美術大学ポスター共同		中村 彝	114
陣内秀信	92	研究会	107	中村昌生	8
須賀みほ	28	玉蟲敏子	31	中山典夫	55, 68, 104
スカモツィ	92	近本謙介	31	ニコラウス・ペヴスナー	100
菅原真弓	18, 45	チェンニーニ	114	西垣安比古	73
杉本俊多	95	竺 覚暁	90	西 和夫	81
杉本悠子	83	塚田美香子	61	西川杏太郎	9-10, 35
杉本欣久	18, 28	塚本鷹充	6	西澤泰彦	73
杉山美耶子	56	塚本瑞代	31	西田宏子	35
スコット	89	辻 絵理子	61	西田雅嗣	97
鈴木嘉吉	76	辻 佐保子	61	西村謙司	80
鈴木桂子	60	辻 成史	66	蜷川式胤	48-49
鈴木 隆	93	辻 慎一郎	78	蜷川順子	62
鈴木博之	1, 94	辻 惟雄	31	日本国政府アンコール遺跡救済	
鈴木廣之	19	辻本敬子	94, 99	チーム	105
鈴木 恂	92	津田徹英	31	丹羽和彦	91, 95
鈴木 亘	76	土本俊和	78	根立研介	9-11, 35
裾分一弘	60	鼓 みどり	61	野上建紀	105
須田国太郎	114	角田拓朗	45	野々垣篤	73
須藤弘敏	28	角田真弓	77	野村幸弘	51
スミス	94	鶴岡明美	32		
関口欣也	2	ディヴィ (ッ) ド・ワトキン	103	ハ	
関口欣也先生退官記念論文集刊行会	77	ディドロ	57	パーク	63
関 隆志	60	デル・ブラーヴォ	63-64	芳賀京子	59, 62
関野貞研究会	77	デュエラー	59, 65	袴田紘代	55
瀬谷 愛	31	デュラン	95	朴 亨國	6
瀬谷貴之	31	土居義岳	95	「博物館の未来を考える」刊行会	108
ゼルゲル	94	ドゥースブルフ	12	長谷川奏	36
瀬分 縁	51	東京国立文化財研究所	32, 45	長谷部楽爾	36
千代章一郎	18, 91, 94	東京文化財研究所	14, 21, 32-33, 43, 45-47, 108	畑 靖紀	36
副島弘道	9-11			パノフスキー	62
外村 中	79	遠山公一	68	瀨島正士	8
孫曉雲	29	徳川美術館	33	濱田瑞美	6, 36
		利光 功	11-13, 107	早川泰弘	26

パラディオ	92	マ	山口静一	116
ピーター・パーク	63		山口隆介	11
ピエール・ル・ミュエ	93	マイヤー	山梨絵美子	21
飛ヶ谷潤一郎	51, 62, 97, 103	前川誠郎	山根有三	3
樋口 清	87, 102-103, 109	前川誠郎先生記念論集刊行会	山本 樹	51
土方定一	116	前川道郎	山本聡美	20, 23
日高健一郎	88, 98	前田 修	山本 堯	29
肥田路美	5-6, 37	正木篤三	山本 勉	9-11
肥田路美先生古稀記念論文集		正木直彦	横手義洋	101-102
刊行会	37	益田朋幸	吉岡健二郎	94
日向一雅	81	松井みき子	吉澤早苗	51
日比野秀男	37	松岡智子	吉田綱市	100, 102
平井彩可	63	松原康介	吉田雅子	40
平田 寛	37	松政貞治	吉田侑李	109
平山育男	98	松本 裕	芳野 明	51
平山東子	63	丸山 茂	吉村作治	106
廣川暁生	52	マレーヴィチ	吉村作治先生古稀記念論文集編集委	
ビュージン	98	三浦篤	員会	105
ファン・マンデル	52	三岸好太郎	米崎清実	48
フィッペール・ド・ロルム	93	水上 優	米田雄介	49
深田麻里亜	51, 63	水田 徹	萬鉄五郎	116
深谷訓子	51-52	水野敏三郎		
福井利吉郎	2	水野さや	ラ	
福島雅子	37	溝口明則	ライト	102
福田晴虔	1, 91, 98-99	溝口正人	ラバサ・ディアス	102
福田美穂	79	三田村哲哉	リーグル	66-67
福山泰子	5, 38	光井 渉	リーチ	102
藤井恵介	1, 4, 75, 81	宮川寅雄	リュカン	102
藤井久栄	114	宮崎法子	ルーモール	68
藤岡 稷	38	宮治 昭	ル・コルビュジエ	91, 103
藤川昌樹	81	宮下規久朗	レイチェル・サンダーズ	31
藤島武二	114	宮島久雄	レーヴィ	68
藤田勝也	82	ミラード・ミース	レーネルト	106
藤田経世	38-39	武笠 朗	ロス・バーンズ	83
藤田俊子	59	武笠由以子	ロッツ	103
藤田康仁	83	村角紀子	ロンギ	68
藤原重雄	38	村上華岳		
仏教芸術学会	15	村上常一朗	ワ	
プティ	99	明治美術学会	脇坂 淳	40
船岡美穂子	64	望月典子	渡邊 晶	83-84
フランク	99	モホリ・ナギ	渡邊里志	41
フランク・ロイド・ライト	102	守田正志	渡辺晋輔	62
古川智次	113	森田優子	ワトキン	103
古川 萌	51	森田義之		
ブルーノ・タウト	94-95	森 雅彦		
ブルクハルト	64	森 雅秀		
ブルスキ	99	森 洋子		
フロイント	105	盛本直美		
不破正仁	82	モルナール		
文化庁	39, 105	諸川春樹		
ベグスナー	100	モンドリアン		
ベネデット・ヴァルキ	52			
坊城ガブリエラ知子	100	ヤ		
坊城俊成	100	谷古宇尚		
細井雄介	59, 62, 67-68	安田建一		
堀田典裕	73	安田 慎		
ホルベイン工業技術部	64-65	安田敦彦		
ホルベインラボ	65	柳澤 孝		
本郷 新	109	山川 暁		
		山岸吉弘		

品切書目

2026年5月現在

ア

アーネスト・F・フェノロサ	久富 貢	1980	浮世絵六大家名品撰全24図	高見沢忠雄 版	1960
会津八一全歌集	会津八一	1965	白石石仏【美術文化シリーズ】	谷口鉄雄	1966
会津八一の法帖	会津八一	1978	歌をよむには	会津八一	1982
会津八一の洋画	会津八一	1965	梅原龍三郎とルノワール	嶋田華子	2010
会津八一俳句私解	会津八一	1983	浦上玉堂画譜【全3輯】	田中一松 他編	1977
秋篠寺【美術文化シリーズ】	水沢澄夫	1968	雲岡と龍門	長広敏雄	1964
あきのゝ	黒野清宇・川口霽亭 編	1991	エーゲ美術	村田数之亮	1979
芥川龍之介遺墨		1960	营造法式の研究【全3巻】	竹島卓一	1997
飛鳥寺【美術文化シリーズ】	坪井清足	1964	英文浮世絵二百五十年	高橋誠一郎	1965
麻生三郎全油彩	麻生マユ 編	2007	絵そして人、時	麻生三郎	1994
新しい造形芸術の基礎概念【バウハウス叢書6】ドゥースブルフ		1974	越天楽	川田 順	1967
新しい造形(新造形主義)【バウハウス叢書5】			江戸時代洋風画史	成瀬不二雄	2002
	モンドリアン	1991	江戸城【美術文化シリーズ】	西 和夫	1982
荒井寛方人と作品	野中退蔵	1974	エトリリアの芸術	三輪福松	1968
アルベルティ「絵画論」	三輪福松 訳	1992	エドワード・S・モース	ウエイマン	1976
アルベルティ「絵画論」〔改訂新版〕	三輪福松 訳	2011	絵のある手紙【普及版・特装版】	木村荘八	1970
アルノルフィーニの婚約	エドウィン・ホール	2001	絵仏師の作品	平田 寛	1997
アルブレヒト・デューラー「絵画論」注解			絵巻における神と天皇の表現	山本陽子	2006
	下村耕史	2001	絵巻物叢考	梅津次郎	1968
アンデスの芸術	泉 靖一	1964	円覚寺【美術文化シリーズ】	貫 達人	1996
池大雅画譜【全5輯】	山中蘭徑 他編	1956	大浦天主堂	桐敷真次郎	1968
池大雅作品集	山中蘭徑 他編	1960	大阪府の博物館	千地万造 編	1983
石山寺【美術文化シリーズ】	猪川和子	1972	黄檗禅林の絵画	錦織亮介	2006
伊勢神宮・大嘗宮建築史論	林 一馬	2001	大森貝塚	東京都大森貝塚保存会 編	1967
イタリャ・ルネサンス芸術論研究	裾分一弘	1986	岡倉天心アルバム	中村 愿	2000
一図書館の由来記	栗本和夫	1980	岡倉天心と五浦	森田義之・小泉晋弥 編	1998
一水会五十年史	田中 譲	1988	岡倉天心をめぐる人びと	岡倉一雄	1998
井戸尻	藤森栄一	1965	思い出の我	有島生馬	1976
井戸尻遺跡【美術文化シリーズ】	藤森栄一	1965	オランダの建築【バウハウス叢書10】	アウト	1994
いのちの泉を描いた画家	佐藤洋子	2008			
今井兼次著作集一 概論		1995	カ		
今井兼次著作集四 旅記随想		1994	絵画・写真・映画【バウハウス叢書8】	モホリ＝ナギ	1993
いまのいま【麻生三郎詩文集】	麻生三郎	2004	絵画に現れた光について		
岩下洞穴の発掘記録	麻生 優	1968	ヴォルフガング・シェーネ	2009	
岩戸山古墳【美術文化シリーズ】	森貞次郎	1970	絵画の真生命	速水御舟	1996
印象	会津八一	1975	海住山寺【美術文化シリーズ】	工藤本章	1968
院政期仏画と唐宋絵画	増記隆介	2015	画家東遊録	ラファージ	1981
飲中八仙歌	会津八一	1975	画家フォンタネージ	井関正昭	1994
インドの細密画	上野照夫	1971	各務鉦三作品集	各務鉦三	1987
インドの美術	上野照夫	1964	覚園寺【美術文化シリーズ】	井上 章	1965
ヴィアール・ド・オヌクール画帖の研究Ⅱ			画材と素材の引き出し博物館	目黒区美術館	1995
	藤本康雄	2001	画材の博物誌(新装普及版)	森田恒之	1994
ヴィアール・ド・オヌクール画帖の研究Ⅲ 藤本康雄	藤本康雄	2014	画室の中から	小倉遊亀	1979
ヴィアール・ド・オヌクールの画帖に関する研究			歌書一元	田辺古邨	1992
	藤本康雄	1991	假象の創造(増補版)	青木 繁	2003
上村松篁写生集・花鳥篇		1979	上総菅生遺跡	大場磐雄・乙益重隆 編	1980
上村松篁写生集・鳥篇		1973	加曾利貝塚【美術文化シリーズ】	杉原荘介	1966
上村松篁写生集・花篇		1973	加曾利貝塚Ⅰ	武田宗久	1971
ヴェネツィアの石【全3巻】	ラスキン	1994・1996	加曾利貝塚Ⅳ	滝口 宏 編	1977
浮世絵随想	高橋誠一郎	1966	加曾利北貝塚	杉原荘介 編	1977
浮世絵二百五十年	高橋誠一郎	1961	加曾利南貝塚	杉原荘介 編	1976
			桂離宮【美術文化シリーズ】	藤岡通夫	1965
			神奈川県の博物館	神奈川県博物館協会 編	1978

品切書目

鎌倉【美術文化シリーズ】	三山 進	1963	桑山玉洲	松下秀磨	1957
鎌倉仏教絵画考	林 温	2010	芸術学の基礎概念	シュマルゾー	2003
臥 遊	小川裕充	2008	芸術家の肖像	片山攝三	1994
ガラスの生長【普及版・特装版】	各務敏三	1983	[新編] 芸術家の肖像	片山攝三	1997
川村清雄研究	高階秀爾・三輪英夫 編	1994	芸術と進歩	ゴンブリッチ	1991
元興寺【美術文化シリーズ】	岩城隆利	1982	源氏物語絵にみる近世上流住宅史論	赤澤真理	2010
韓国の建築	尹 張燮	2003	現代の記念物崇拝 その特質と起源	アロイス・リーグル	2007
[新訂] 観古図説一城郭之部一	蟬川式胤	1990	現代美術の作家たち1	今泉篤男	1972
関西の近代建築	石田潤一郎	1996	現代美術の作家たち2【普及版・特装版】	今泉篤男	1975
関西モダンデザイン史	宮島久雄	2009	建築匠たちの神戸北野	建築修復学会 編	1998
関西モダンデザイン前史	宮島久雄	2003	建築家アルベルティ	相川 浩	1988
順成就院【美術文化シリーズ】	久野 健	1972	建築家・遠藤新作品集	遠藤 新	1991
観世音寺【美術文化シリーズ】	谷口鉄雄	1964	建築家ガウディ	鳥居徳敏	2000
漢代画像の研究	長広敏雄	1965	建築家シンケルとベルリン	ブント	1985
閑庭帖	會津八一	1969	建築史攷	鈴木博之先生献呈論文集刊行会 編	2009
寒燈集歌解	西世古柳平	1983	建築指図を読む	川上 貢	1988
観音堂	會津八一	1970	建築史研究の新視点〔全3巻〕	西 和夫	1999-2001
記憶の中 of 古代	小佐野重利	1992	建築史の鉱脈 大河直躬先生退官記念論文集刊行会 編		1995
間書き小出檐重	小出龍太郎	1981	建築序説	ブロンデル	1990
岸田劉生	東 珠樹	1978	建築試論	ロージェ	1986
木曾馬籠	菊池重三郎	1977	建築史論叢	稲垣栄三先生還暦記念論集刊行会 編	1988
木曾馬籠【特装本】	菊池重三郎	1977	建築心理学序説	ヴェルフリン	1988
北野聖廟絵の研究	真保 亨	1994	建築と劇場	福田晴虎	1991
きのふの空	芳賀 徹	1992	建築と障壁画 [建築史研究の新視点1]	西 和夫	1999
規範と形式	ゴンブリッチ	1999	建築と民俗・芸能・技術・地震 [建築史研究の新視点2]	西 和夫	2001
キュビスム【バウハウス叢書13】	グレーズ	1993	建築の五つのオーダー	ヴィニョーラ	1984
教育スケッチブック【バウハウス叢書2】	クレー	1991	建築の誕生	ニ 覚曉	1985
教会建築論叢	前川道郎	2002	建築の歴史・様式・社会	藤井恵介先生献呈論文集編集委員会 編	2018
経緯論考	保坂三郎	1971	建築論全史 第1巻	クルト	2009
京都御所【新訂】	藤岡通夫	1987	建築保存概念の生成史	清水重敦	2013
京都御所【美術文化シリーズ】	藤岡通夫	1967	工芸の領分	樋田豊次郎	2003
ギリシアの陶器	村田数之亮	1972	構成的ポスターの研究		
銀閣寺【美術文化シリーズ】	川上 貢	1977			
金史研究【全3巻】	三上次男	1970-1972			
近世近代町家建築史論	大場 修	2005			
近世建築史論集	藤岡通夫	1969	多摩美術大学ポスター共同研究会		2001
近世建築の生産組織と技術	川上 貢 編	1984	江南西冊	小杉放庵	1962
近世神宗寺院の空間構成・意匠の研究	杉野 丞	2016	校本歴代名画記	谷口鉄雄	1981
近世都市空間の原景	伊藤裕久	2003	高麗集	安田叔彦	1975
近世の建築	藤岡通夫	1971	広隆寺【美術文化シリーズ】	水沢澄夫	1965
近世の数寄空間	西 和夫	1988	廣隆寺史の研究	林 南壽	2003
近世民家の成立過程	草野和夫	1995	光琳研究二【山根有三著作集4】	山根有三	1997
近代建築	オットー・ヴァーグナー	1985	黄金塚古墳【美術文化シリーズ】	森 浩一	1971
近代建築解体新書	木村 勉	1994	国際建築【バウハウス叢書1】	グロビウス	1991
近代中国関係文献目録	同書刊行会 編	1980	国宝 絹本著色十一面観音像		
近代日本版画の諸相	青木茂 監修	2002	奈良国立博物館・東京文化財研究所 編		2006
近代日本美術教育の研究 明治・大正時代	金子一夫	1999	国宝 紅白梅図屏風		
近代の神社景観	神道文化会 編	1998	MOA 美術館・東京文化財研究所 編		2005
近代の洋画人	隈元謙次郎 編	1959	国宝 彦根屏風 彦根城博物館・東京文化財研究所 編		2008
近代ロンドン物語	ラスムッセン	1992	国宝 麻布著色吉祥天像		
金鈴塚【美術文化シリーズ】	保坂三郎	1963	奈良国立博物館・東京文化財研究所 編		2008
かがみ【限定版】	良寛	1973	こしかたの記【普及版・特装版】	簗木清方	1961
筈篋引	会津八一	1970	続こしかたの記【普及版・特装版】	簗木清方	1967
熊本城【美術文化シリーズ】	藤岡通夫	1976	ゴシック建築の設計術	シュルビー	1990
久米桂一郎日記		1990	ゴシック建築のリブ・ヴォールト	飯田喜四郎	1989
鞍馬寺【美術文化シリーズ】	中野玄三	1972	ゴシックの芸術	ヤンツェン	1999
鞍馬寺経塚遺物	保坂三郎	1971	古代ギリシアの建築家	クルトン	1991
呉建画集	呉 守一・山下一郎 編	1978	古代・中世の挿絵芸術	クルト・ワイツマン	2007
黒田清輝【智・感・情】 美術研究作品資料第1冊			古代都市ローマ	青柳正規	1990
	東京文化財研究所 編	2002	古代美術史	ヴィンケルマン	2001
			古代ローマの記念門	渡辺道治	1997

ゴットフリート・ゼムパーの建築論的研究	大倉三郎	1992
古典主義建築の系譜	サマーソン	1989
古典主義再考〔全2巻〕	木俣元一・松井裕美 編	2020
古都北京	北川桃雄	1969
小西家旧蔵光琳関係資料	山根有三	1962
小林古径画集	小林古径	1960
分冊小林古径画集	安田靫彦 他編	1960
古板江戸図集成 第5巻	古板江戸図集成刊行会 編	2001
是川遺跡	保坂三郎	1972
是川遺跡【美術文化シリーズ】	清水潤三	1966
コンドル建築図面集【全3巻】	河東義之	1980-1981

サ

災害から文化財を守る【英文版】	国際シンポジウム組織委員会 編	1999
歳月の碑	宮川寅雄	1984
西国三十三所霊場寺院の研究	元興寺文化財研究所 編	1990
西大寺【美術文化シリーズ】	長谷川誠	1965
斎藤茂吉全画集	斎藤茂吉	1969
西方浄土変の研究	大西磨希子	2007
材料から建築へ【パウハウス叢書14】	モホリ＝ナギ	1992
坂本繁二郎	河北倫明	1974
座談五十年 靫彦先生の話	重田哲三	1989
作歌四十年	斎藤茂吉	1974
さまぎまの技能について	テオフィルス	1996
山光集歌解	西世古柳平	1983
三色すみれとななかまど(リトグラフ)	岡鹿之助	
三千院【美術文化シリーズ】	三山 進	1970
サン・ドニ修道院長シュジェール	森 洋 訳・編	2002
三人の革命的建築家	カウフマン	1994
残燈集稿本	会津八一	1972
潮見台遺跡	久保常晴	1971
自画像【普及版・特装版】	高村豊周	1968
色彩論の基本法則	キュッパース	1997
関谷学校【美術文化シリーズ】	城戸 久	1967
自伝 ある芸術の形成	ライト	1988
自伝 ある芸術の展開	ライト	2000
寫實の要件【新装普及版】		
前田寛治 著 今泉篤男・富山秀男 編		1999
シャルトル大聖堂のステンドグラス	木俣元一	2003
修学院【美術文化シリーズ】	重森完途	1964
秋艸道人の書	会津八一	1965
統 秋艸道人の書	会津八一	1980
秋草道人墨戯帖	会津八一	1965
集約江戸絵図【全3巻】	真山青果 編	1963
春日抄 三上次男隨筆集	三上次男	1988
瀟湘八景扇面帖	池 大雅	1970
曙梅【本版画】	安田靫彦	1991
勝常寺【美術文化シリーズ】	佐藤昭夫	1976
正倉院宝物の構造と技法	西川明彦	2019
上代裂集成	澤田むつ代	2001
縄文式土器	藤森栄一	1969
縄文土器の技術	新井司郎	1973
淨瑠璃寺【美術文化シリーズ】	水沢澄夫	1964
昭和期美術展覧会の研究	東京文化財研究所	2009
初期南画の研究	田中喜作	1972
初期ネーデルラント絵画	パノフスキー	2001
書想 文化の中の書道	平勢雨村	1995
白井晟一の伝説論と和室	羽藤広輔	2021
白き山	斎藤茂吉	1977

城と城下町	藤岡通夫	1988
神護寺【美術文化シリーズ】	久野 健	1964
神社建築史論	丸山 茂	2001
寝殿造の空間と儀式	川本重雄	2005
神仏習合像の研究	長坂一郎	2005
隨筆集 道は瓦甍に在り	長谷部楽爾	2010
素顔の佐伯祐三	山田新一	1980
図録ベルシアの陶器	三上次男	1962
続図録ベルシアの陶器	三上次男	1964
諏訪大社【美術文化シリーズ】	藤森栄一	1965
西洋美術史における「古典」の創出【古典主義再考Ⅰ】	木俣元一・松井裕美 編	2020
清凉寺【美術文化シリーズ】	佐々木剛三	1965
関根正二 遺稿・追想【新装版】	関根正二	1991
せせらぎ日記	谷口吉郎	1980
雪舟等楊	山口県立美術館 編	2006
雪村研究	赤澤英二	2003
前衛美術と「古典」【古典主義再考Ⅱ】	木俣元一・松井裕美 編	2020
造形芸術における形の問題	ヒルデブランド	1993
装飾と罪悪	ロース	1987
装飾と犯罪	ロース	2005
装飾と犯罪【新装普及版】	ロース	2011
宗達研究二【山根有三著作集2】	山根有三	1997
続 画室の中から	小倉遊亀	1979
祖父岡倉天心	岡倉古志朗	1999
村莊雜事	会津八一	1974

タ

大安寺【美術文化シリーズ】	今城甚造	1966
大雅の書【普及版・特装版】	池 大雅	1970
醍醐寺【美術文化シリーズ】	清水善三	1974
大正期美術展覧会出品目録	東京文化財研究所 編	2002
大聖堂の生成	ゼーデルマイヤ	1995
大同の古寺	北川桃雄	1969
当麻寺【美術文化シリーズ】	北川桃雄	1966
多賀城【美術文化シリーズ】	岡田茂弘	1977
高橋由一・油画の研究	岡田真介	1994
武野紹鷗研究	戸田勝久	2001
武野紹鷗 茶と文藝	戸田勝久	2006
竹原古墳【美術文化シリーズ】	森貞次郎	1968
多胡碑【美術文化シリーズ】	尾崎喜左雄	1967
立雛【額装・軸装】	佐多芳郎	1992
田中一松絵画史論集【全2巻】	田中一松	1985
タペストリーの保存研究		
タペストリー保存研究プロジェクト実行委員会 編		2008
近くの顔	中川一政	1967
筑前御抱え絵師	小林法子	2004
智積院【美術文化シリーズ】	山根有三	1964
竹喬挿画【普及版・特装版】	小野竹喬	1971
千葉県の博物館	千葉県博物館協会 編	1978
中央アジアⅠ【アジア仏教美術論集】	宮治昭 責任編集	2018
中近世都市形態史論	土本俊和	2003
中国絵画史研究	島田修二郎	1993
中国画卷の研究	古原宏伸	2005
中国画論の研究	古原宏伸	2003
中国湖南省の漢族と少数民族の民家		
	土田充義・楊 慎初 編	2003
中国の建築	竹島卓一	1970
中国の銅器	樋口隆康	1967

品切書目

中国美術の図像と様式	曾布川寛	2006	名古屋城【美術文化シリーズ】	城戸 久	1966
〈中世の秋〉の絵画	前川誠朗	1991	夏島貝塚【美術文化シリーズ】	杉原荘介	1964
中尊寺【美術文化シリーズ】	保坂三郎	1962	奈良時代建築の研究	浅野 清	1969
彫刻	ウィトコウアー	1994	奈良時代の塑造神将像	奈良国立博物館 編	2010
彫刻の生命【新装普及版】	中原悌二郎	1993	奈良美術成立史論	大橋一章	2009
朝鮮の「すまい」	西垣安比古	2000	南京新唱	会津八一	1964
頂戴物図録	会津八一	1973	南禅寺【美術文化シリーズ】	井上 章	1982
坪内逍遙・会津八一往復書簡		1990	南都逍遙	安藤更正	1970
妻籠宿	小寺武久	1989	南都七大寺の研究	大岡 實	1966
鶴岡八幡宮【美術文化シリーズ】	貫 達人	1976	南蛮屏風集成		
出島図	長崎市出島史跡整備審議会 編	1987	坂本 満・成澤勝嗣・泉 万里・日高 薫他 編著	2008	
哲学者の語る建築	伊藤哲夫・水田一征 編・訳	2008	日欧美術交流史論	岡 泰正	2013
デッサウのパウハウス建築【パウハウス叢書12】	グロピウス	1995	日本絵画史研究	島田修二郎	1987
デューラーの手紙 付家譜・覚書		1999	日本絵画史論集	田中一松	1966
寺田寅彦画集【普及版・限定版】	寺田東一・山下一郎	1985	日本絵画の風景表現	成瀬不二雄	1998
天神緑紀の系譜	須賀みほ	2004	日本金工談義	香取秀真	1958
転身の頌	日夏耿之助	1972	日本原始古代の住居建築	宮本長二郎	1996
点と線から面へ【パウハウス叢書9】	カンディンスキー	1995	日本建築史基礎資料集成7(仏堂4)	太田博太郎 監修	1975
目一日・中国黒軸の美	大阪市立東洋陶磁美術館 編	2020	日本建築史基礎資料集成14(城郭1)	太田博太郎 監修	1978
ドイツ新古典主義建築	杉本俊多	1996	日本建築史基礎資料集成15(城郭2)	太田博太郎 監修	1982
東亜香料史研究	山田憲太郎	1976	日本建築史基礎資料集成16(書院1)	太田博太郎 監修	1971
東海道分間絵図【全2巻】	真山青果 編	1960	日本建築史基礎資料集成17(書院2)	太田博太郎 監修	1974
東京国立博物館図版目録 縄文遺物篇(骨角器)		2003	日本建築の意匠と技法	大岡 實	1971
東京国立博物館図版目録 縄文遺物篇(土偶・土製品)		1996	日本建築の特質	太田博太郎博士還暦記念論文集刊行会 編	1976
東京国立博物館図版目録 朝鮮陶磁篇(青磁・粉青・白磁)		2007	日本古印新考	会田富康	1981
東京国立博物館図版目録 朝鮮陶磁篇(土器・緑釉陶器)		2004	日本古代金銅仏の研究 薬師寺篇	松山鉄夫	1990
東京国立博物館図版目録 弥生遺物篇(金属器) 増補改訂		2005	日本古代中世住宅史論	藤田勝也	2002
東京国立博物館図版目録 琉球資料篇		2003	日本古代彫刻史概説	町田甲一	1974
東寺観音院蔵 五大虚空蔵菩薩像【美術研究作品資料】	東京文化財研究所 編	2003	日本古代の都城と建築	澤村 仁	1995
陶磁の道	三上次男	2000	日本肖像画史	成瀬不二雄	2004
唐招提寺【美術文化シリーズ】	安藤更生	1963	日本上代史の一研究	池内 宏	1970
唐招提寺古経選【普及版・特装版】	堀池春峰他	1975	日本浄土曼荼羅の研究	元興寺文化財研究所	1987
冬青小林勇画集	小林 勇	1969	日本水墨画論集	松下隆章	1983
東大寺二月堂修二会の研究	元興寺文化財研究所 編	1979	日本青銅器の研究	杉原荘介	1972
童馬山房歌帖	斎藤茂吉	1969	日本中世絵画の新資料とその研究	赤沢英二	1995
東北古代彫刻史の研究	久野 健	1971	日本中世住宅の研究【新訂】	川上 貢	2002
東北民家史研究	草野和夫	1991	日本中世土師器の研究	中井淳史	2011
東洋漆芸史の研究	岡田 譲	1978	日本彫刻史基礎資料集成 平安時代重要作品篇【全5巻】	丸尾彰三郎 編	1973-1997
東洋美術研究	谷口鉄雄	1994	日本彫刻史基礎資料集成 平安時代造像銘記篇【全8巻】	丸尾彰三郎 編	1966-1971
東洋美術論考	谷口鉄雄	1973	日本彫刻史研究	水野敬三郎	1996
遠く顔	中川一政	1967	日本彫刻史の視座	紺野敏文	2003
土牛素描	奥村土牛	1987	日本彫刻史論集	西川新治	1991
土牛挿画【普及版・特装版】	奥村土牛	1971	日本の冑	前田青邨	1957
都市遺産の保存研究	宮本雅明	2012	日本の近代建築(稲垣栄三著作集5)	稲垣栄三	2009
都市空間の近世史研究	宮本雅明	2005	日本の建築	大岡 實	1967
塔婆建築の研究【足立康著作集3】	足立 康	1987	日本の建築と庭	西澤文隆	2006
富本憲吉模倣選集【普及版・特装版】	富本憲吉	1957	日本のステンドグラス黎明期	金田美世	2018
鳥たちに魅せられて	上村淳之	1997	日本の伝統的都市空間	宮脇 檀	2003
登呂遺跡【美術文化シリーズ】	杉原荘介	1957	日本の陶磁	小山富士夫	1962
ナ			続日本美術院史	竹田道太郎	1976
内国勲業博覧会美術品出品目録	東京文化財研究所 編	1996	日本美の源泉	高村光太郎	1972
中井家文書の研究【全10巻】	平井 聖	1976-1985	日本仏教民俗基礎資料集成【全7巻】	元興寺文化財研究所 編	1974-1980
中川一政書蹟		1967	日本仏塔集成	濱島正士	2001
中川一政挿画【普及版・特装版】		1971	人間風景【新装増補版】	松本竣介	1966
中川一政装釘【普及版・特装版】		1976	仁和寺【美術文化シリーズ】	清水善三	1967
中村彝の周辺	鈴木良三	1977	ネパールの王宮建築	日本工業大学 編	1981
中谷宇吉郎画集	山下一郎 編	1979			

ネパールの王宮と仏教僧院 日本工業大学 編 1987
 ネパールの仏教僧院 日本工業大学 編 1998
 涅槃図の図像学 赤澤英二 2012

ハ

ハイデッガーの建築論 ハイデッガー 2008
 パウハウス工房の新製品[パウハウス叢書7] グロピウス 1991
 パウハウス叢書[全14巻] 1991-1995
 パウハウスの実験住宅[パウハウス叢書3] マイヤー 1991
 パウハウスの舞台[パウハウス叢書4] シュレンマー 1991
 パウラ・モダーゾーン=ベッカー 佐藤洋子 2003
 柏亭自伝【特装本】 石井柏亭 1971
 花に生きる人たちへ 山根翠堂 1967
 浜口陽三全版画作品集 国立国際美術館 監修 2000
 パラディオ「建築四書」注解 桐敷真次郎 1986
 パラディオの時代のヴェネツィア 渡辺真弓 2009
 パリ都市計画の歴史 ラヴダン 2002
 春さき【本版画】 今村紫紅 1993
 汎アジアの仏教美術

宮治昭先生献呈論文編集委員会 編 2007

繁華街にみる都市の近代 東京 初田 亨 2001
 半世紀の素描 鶴田吾郎 1982
 比較建築論 相川 浩 2003
 美学綱要 ベネデット・クロウチェ 2008
 東山水墨画の研究(増補版) 渡辺 一 1985
 彦根城【美術文化シリーズ】 城戸 久 1966
 美術史における軌跡と波紋

辻佐保子先生献呈論文集刊行会 編 1996

美術史論の断章 谷口鉄雄 1983
 ひたすら造形のことばで 岡鹿之助 1998
 日向業師【美術文化シリーズ】 洪江二郎 1965
 美の解析 ウィリアム・ホガース 2007
 姫路城【美術文化シリーズ】 藤岡通夫 1965
 表現者・堀口捨己 藤岡洋保 2009
 兵庫北関入船納帳 林屋辰三郎 1981
 平等院鳳凰堂色紙形の研究 小松茂美 1973
 ピラネージと古代ローマの壮麗 マレー 1990
 広重「東海道五十三次」全55図 高見沢忠雄版 1958
 フィレンツェの秋

堀分一弘教授献呈論文集刊行会 編 1995

ふうじん帖 平田 寛 1996
 復原研究と復原設計【建築史研究の新視点3】

西 和夫 2001

福澤諭吉百通の手紙 1984
 福山敏男著作集【全6巻】 1982-1984
 富士(本版画) 奥村土牛 1989
 富士山の絵画史 成瀬不二雄 2005
 藤川勇造作品集 藤川勇造 1967
 藤原宮【美術文化シリーズ】 工藤圭章 1967
 仏教荘厳の研究 安藤佳香 2003
 仏教美術史の研究 清水善三 1997
 仏教美術史論考 高田 修 1969
 仏教美術文獻目録 高田 修他 編 1973
 ふるさと【限定版】 良寛 1972
 ふるさと・くがみ 良寛 1974
 ブルネレスキ伝 マネッティ 1989
 平安宮内裏の研究 鈴木 亘 1990
 平安時代仏教建築史の研究 清水 擴 1992
 平安彫刻史の研究 清水善三 1996

平家納経 小松茂美 2005
 平城宮【美術文化シリーズ】 坪井清足 1977
 北京の四合院 北京四合院研究会 編 2008
 ベルシアの陶器 三上次男 1969
 放庵画談 小杉放庵 1980
 法界寺【美術文化シリーズ】 中野玄三 1974
 方眼美術論 久米桂一郎 著・三輪英夫 編 1984
 法隆寺建築の研究 浅野 清 1983
 法隆寺金堂の諸問題 竹島卓一 1975
 法隆寺の建築 浅野 清 1984
 法隆寺の彫刻 長谷川伝次郎・久野 健 1958
 北斎「富嶽三十六景」全36図 高見沢忠雄版 1962
 北宋絵画史の成立 塚本磨充 2016
 ぼくらの東洋史 三上次男 1992
 ボザール建築理論講義 パルタール 1992
 北関山城 三上次男・田村晃一 1993
 法華寺【美術文化シリーズ】 町田甲一 1964
 ポッティチュリ全作品 高階秀爾・鈴木杜幾子 編 2005
 本願寺【美術文化シリーズ】 濱田 隆 1967

マ

マルカタ王宮の研究 早稲田大学 1993
 満鮮史研究(近世篇) 池内 宏 1972
 三上次男著作集【全6巻】 1987-1990
 南桂子全版画作品集 1997
 妙心寺【美術文化シリーズ】 井上 章 1973
 無対象の世界[パウハウス叢書11] マレーヴィチ 1992
 村上華岳 河北倫明 1969
 村上華岳画集 村上華岳 1962
 村上華岳「反古集」 村上華岳 1968
 村上華岳名品複製十図 村上華岳 1962
 村田治郎著作集【全3巻】 1986-1988
 室生寺【美術文化シリーズ】 北川桃雄 1963
 室生寺楞塔の研究 元興寺文化財研究所 1976
 室町絵画の残像 山下裕二 2000
 室町時代の狩野派 京都国立博物館 編 1999
 明治期万国博覧会美術品出品目録
 国立東京文化財研究所 編 1997
 明治日本画史料 青木 茂 編 1991
 木造軸組構法の近代化 源 愛日児 2009
 木彫七十年 高村光雲 1967
 桃山絵画研究【山根有三著作集6】 山根有三 1997

ヤ

薬師寺【美術文化シリーズ】 町田甲一 1963
 安田靫彦 竹田道太郎 1988
 安田靫彦色紙複製「曙富士」 1984
 安田靫彦色紙複製「梅花早春」 1984
 安田靫彦色紙複製「白梅」 1984
 安田靫彦色紙複製「林檎」 1984
 安田靫彦小色紙複製「国上山」 1984
 安田靫彦画集 1965
 安田靫彦自筆画帖・川端康成全集装画帖 1976
 安田靫彦写生集 1979
 続安田靫彦写生集 1979
 安田靫彦の書 1979
 山のスケッチ 高村光太郎 1966
 山鳩 谷津八一 1971
 雪あかり日記【普及版・特装版】 谷口吉郎 1974
 靫彦装画十六図 安田靫彦 1992

品切書目

様式 スタイル シャピロ／ゴンブリッチ 1997

ラ

- ラヴェンナのモザイク芸術 越 宏一 2016
 ラスキンとヴィオレ・ル・デュク ペプスナー 1990
 ラスキンとモリスの建築論的研究 白石博三 1993
 ラファエッロと古代ローマ建築
 小佐野重利・姜雄 訳・編 1993
 蘭亭序論争訳注 谷口鉄雄・佐々木猛 1993
 李禹煥全版画1970-1998【普及版・特装版】 1998
 利休居士像 千宗旦筆 1992
 理性の時代の建築 イギリス・イタリア篇
 カウフマン 1993
 理性の時代の建築 フランス篇
 カウフマン 1993
 琉球祭祀空間の研究 伊従勉 2005
 両界曼荼羅をつくる 田中公明 2025
 良寛和尚像 安田靫彦 1984
 良寛の書 安田靫彦の愛蔵品 1985
 良寛複製 自画像 1988
 良寛複製 消息 1988
 良寛墨蹟大観〔全6巻〕 1992-1994
 類聚雑要抄指図巻 川本重雄・小泉和子 編 1998
 ル・コルビュジェの宗教建築と「建築的景観」の生成
 千代章一郎 2004
 ルドゥーからル・コルビュジェまで カウフマン 1992
 ルネサンスとバロック ヴェルフリン 1993
 ルネサンスの肖像画 ヘネシー 2002
 喉禽集 上村松篁 1991
 レオナルド・ダ・ヴィンチ 裾分一弘 1983
 レオナルド・ダ・ヴィンチの「絵画論」攷 裾分一弘 1977
 レオナルドに会う日〔新装普及版〕 裾分一弘 1984
 歴史的環境保存論〔稲垣栄三著作集7〕 稲垣栄三 2009
 歴史と文化の町並み事典
 重要伝統的建造物群保存地区全109 文化庁 編 2015
 レンブラント 嘉門安雄 1968
 老画家の一生【普及版・特装版】 津田清楓 1963
 ローマにおけるバロック芸術の成立 リーゲル 2009
 六波羅蜜寺【美術文化シリーズ】 毛利 久 1964
 鹿鳴集歌解 吉野秀雄 1971
 ロダン 菊池一雄 1968
 ロンドン物語 ラスムッセン 1987

ワ

- 若い読者のための世界史 ギンブリッチ 2004
 若き武者【額装・軸装】 佐多芳郎 1992
 私が愛したイタリアの美術 井関正昭 2006
 わたしの良寛さま【普及版・特装版】 小島寅雄 1997